



香子

COCO



TEAM A-MIX COCO 現在

バルセロナにあるビル。エントランスに大型バイクが停まる。

プラダのナイロンジャケット、パンツにリュック、ライダーブーツで全身ブラックコーデ。バイクは真っ赤な HAYABUSA1300、ヘルメットには COCO。

「おはよう、COCO。週末は別荘に行ってたの？濃い目のエスプレッソトリプルだね。」

「おはよう、マルコ！いつものをお願いします。」

「淹れたてをオフィスに配達するよ。JUNO の分とね。」

COCO はバル協の管理人室に挨拶、エレベーターで3階フロアに。

ここが彼女のオフィス TEAM A-MIX だ。

朝の7時、COCO が一番乗りだ。

指紋認証のロックを解除すると、歴史の香りが強いこの街には似つかわしくない最新鋭の機器が整然と並ぶオフィス。ここは最高のビジュアルを創生するコックピットだ。

パーテーションもない500平米のフロアはまるでカフェのあるライブラリー。

インテリアは赤をアクセントにしたスペイン作家のデザインだ。

この7階建てのビルの外装は歴史を感じる佇まいだが、各フロアは最新設備だ。

1階はバル。ビヤホールの雰囲気、終日地元民でにぎわっている。

2階はバスク料理がメインのレストラン。若き旬のシェフやソムリエが腕を揮い、こちらもビジネスやデート仕様、連日予約で埋まっている。

3階は TEAM A-MIX のオフィス、4階は総合受付と撮影スタジオ、ミーティングルームがある。

5、6階は、関係者が中長期滞在するアパート、7階は COCO のプライベートフロアだ。そして屋上庭園がある。

COCO は日本名で香子(こうこ)、中国系アメリカ人の LEE と、日本人冴子との間に生まれ、長兄の KEI (啓)、次兄の RYU (龍) と NY で暮らしていた。

父は投資会社を営み、NY とロンドンを拠点にジュネーブ、モナコに支社を持つ。

母の冴子は建築家として、父、KEI とともに NY 暮らし、RYU はロンドン、そして COCO は NY からいまはバルセロナだ。パートナーの JUNO と最高の仲間と充実した日々だ。

TEAM A-MIX は、ビルはもちろん父の会社がオーナーであり、パトロンだ。

COCO は好きな仕事を思う存分仲間と楽しめる環境にある。そして彼らは特質した感性と才能とチームワークによって欧米、アジア諸国からのオファーが絶えない。

いままでの欧米主流のビジュアルから、アジアや中東、ヒスパニックの香りがするエキゾチックな映像や音楽で五感にアタック。そして芸術性豊かなバルセロナとのリミックスで発信する TEAM A-MIX の作品は、新しいフィールドの創造と絶賛され、セクシー、クール、スマートでパッションータと称賛される。

東洋系のアーティストを全米に向けて発信するプロモーションはヒット連発の実力だ。

COCO と TEAM A-MIX

起点は10年前、アメリカ色満載のスケートボードのプロモーションビデオだ。

南米ではブームになりつつあったがスポンサーの意向もあり、ヒスパニックの人気を足掛かりに、ヨーロッパの市場も掴み取った。

とかく歴史を重んじるヨーロッパでは、アメリカ色の強い文化は受け入れられにくい傾向にあるなかで、アメリカの人口17%を占めるヒスパニック系は絶大だ。そこに注目した父のクライアントである大手スポーツメーカーからの依頼だった。

NYの音楽院ピアノ科の学生だったCOCOは、クラシック、ジャズ、作曲編曲を学び、友人たちとバンドを組んでレコーディングの毎日だった。

音色の美しいヒーリング曲、クラシック×ポップスのリミックス、そしてマッシュアップ（2種類以上の、メロディ、ボーカル、伴奏をつなぎ合わせる作曲法）、サウンドエフェクトの技術を活かしてインディーズのミュージックビデオ、ファッションショーの音楽、ストリート系ブランドのイメージビデオ制作など新鮮さと斬新さで音楽業界に広く知られるようになっていた。

なぜかアジア系のミックスばかりが集まり、個性的な容姿やファッション、演奏の動画や作品がサイトやSNSで話題になりヒットした。

韓国系のJUNOは作曲、編曲で、中国系アメリカ人のダニーとRONはプロモーションビデオ制作、台湾人のジェシーとシンガポリアンのアレックスはビジュアルエフェクト。もちろん各メンバー楽器演奏は超一流だ。COCOの音楽院の仲間を中心とした、まさにアジアンミックス、俳優級のイケメン揃いだ。

仕事が入れば全員集合。なければモデルやPV出演、作曲や編曲、レコーディング、ライブ活動などフリースタイルだ。

いろいろと話題になり、多忙極める毎日。この時期にスポーツメーカーから仕事の依頼が入る。

「COCO、わたしだ。ぜひ依頼したい仕事がある。わたしのクライアントだ。A-MIXのPVを観て連絡があった。一度会ってもらえないかな。ヒスパニック系と南米の囲い込みを模索しているスケートボードやスノーボード関連商品を製作販売するトップメーカーだ。できれば明日わたしのオフィスに10時に来てもらえるかな？ランチをご馳走するから・・・。」

「確かにマイノリティを狙うんだったら、わたしたちへのオファーは正解だね。ランチはスパニッシュで。JUNOとRONを連れて行く。」

「ありがとう。絶対にはずさないスパニッシュにお連れするよ。」

「JUNO、COCO。明日10時にダディのオフィスにRONをお願いします。スケボーのメーカーから仕事依頼だって。パトロンのお願いは断れない。」

「ははは。もちろん最優先でしょう。ちょうど撮影も終わったし、RONはレコーディング中かな。連絡して

おくよ。」

「絶対にはずさないスパニッシュをご馳走してくれるって。」

「ダディならリッチ気分だな。エレガントで決めていくよ。」

「クラッシュデニムはパスだからね。」

「了解。撮影商品のお買取りを着ていきます。バレンシアガのニューライン。」

「さすが売れっ子モデルだね。RONにはわたしから連絡入れる。」

JUNOは185cm超の長身で、強靱で美しい筋肉に覆われているセクシーボディ、そして欧米人に人気の一重瞼で、韓流式のすっきりした美形だ。ヨーロッパのメゾンからモデルの依頼が多い。

音楽院で彼は作曲、編曲、そしてコンダクターを専攻、楽器の腕も一流だ。

「RON、COCO。レコーディングはどう？ドラムでしょう？」

「COCO、元気？レコーディングは今日で終わるよ。インディーズのバンドはいいよ。きっと売れる。PV作ってあげる約束しちゃった。いいよね。」

「うん。わたしのお願いを聞いてくれたら制作許可します。」

「よろこんで」

「明日10時にダディのオフィスに来てね。スケボーのメーカーからの依頼だって。パトロンのお願いは断れません。ランチは絶対にはずさないスパニッシュ。JUNOには声をかけた。とりあえず話を聞いてみないとね。」

「了解。他のメンバーは今週末まで撮影や練習で忙しいからね。」

仕事はもちろん、それぞれ何かと忙しいメンバーだが、COCOのお願いは絶対だ。

マンハッタンにある父のオフィスは33・34階のメゾネット式で1000平米程のフロアだ。東側に投資部門、経営コンサルタント部門。南西に兄の弁護士事務所、34階のメゾネットフロアに母の建築事務所とミーティングルームなどがある。

COCOの自宅はマンハッタンで、ブルックリンにオフィスがある。メンバーも住んでいるクリエイティブなエリアだ。橋でつながっているので渋滞が激しい。

COCOの愛車は真っ赤なKATANA1000CCで快適通勤だ。(ほぼブルックリンのオフィス最上階を住居にしている。)

10時10分前、ビル地下の駐車場に3台の大型バイクが停まる。

JUNOはシルバーのHAYABUSA1300CC、RONはブラックのHONDA750CCだ。警備は顔見知りで3人もスルーパス。ブーツを履き替えヘルメットとライダージャケットを手に33階受付に。

COCOは真っ赤なコムデギャルソンのブラウスにブラックのくるぶし丈パンツ。リュックとサンダルはいつものプラダ。

JUNOはバレンシアガの黒のスタンドカラーのブラウスにストレートパンツ。スリッポンとリュックはグッチ。

RONはラルフローレンのVネックブラウスにスリムパンツと紺一色、トッズの真っ赤なハイカットスニーカーに迷彩柄のリュック。

そして東洋系の美形が揃った。

彼らが受付を通ると、女性の視線が集中する。まるで俳優かトップモデルのようだ。

ミーティングルームは一面窓、眺望が素晴らしい。

「COCO、来てくれたね。こちらはスケートボードやスノーボード関連商品を取り扱う世界的メーカーL&Pの宣伝部長 MR BROWN だ。こちらがご指名の TEAM A-MIX の JUNO、RON、娘の COCO です。」

「はじめまして。TEAM A-MIX の評判は凄いです。わたしたちはどうしてもヒスパニックや南米の市場を占有したい。そこで無理を言ってこちらにお願いに上がりました。御社のエキゾチックな映像は若い世代に絶大な人気です。まさに弊社のターゲットを魅了している。是非ともプロモーション映像を依頼したい。」

「わかりました。いままでの映像を見せてください。それと契約ボーダーの資料と商品カタログもお願いします。それからメンバーと構成を考えてみます。様々なルールや制約があればそれについても検討したいので。SI O NO (YES OR NO) はそれからでかまいませんか？」

「はい。資料はすべて持参しました。良いお返事がもらえることを祈っています。」

MR BROWN は COCO にネームカードを渡し、両手で握手をした。

「COCO、いまここで即決しよう。」と JUNO。

「そうだね、まずはいままでの PV から。」

映像が壁面スクリーンに映し出された。

さすが「カッコよくなければ意味がない」を掲げるスポーツだけあって、都会的で洗練されてファッショナブルだ。フロリダ、カルフォルニアを背景に疾走している。

大きく弧を描き回転する技を競う。着地したときのポーズがかっこいい。

「凄くカッコいいけど、見慣れ過ぎているよね。当たり前というか……。スケートボードというこのイメージって定着している気がする。進化と変化が必要だね。」

と RON。

「音楽もその通りって気がする。ヒップホップだね。どうせなら飽きられないクラシックをベースにヒップホップやラテン系にアレンジするとターゲットに響くかも。」

「まだそんな音楽は出ていないね。ラップを入れても面白い。楽器もこだわりたいな。マッシュアップでいきますか。」

「それでいこう。COCO のディレクション炸裂だね。」

これらの PV は最高で完璧な映像だと思っていたのに、彼らからはいろいろとアイデアが出てくる。

それに彼らは A-MIX (アジアニックス)、まさにマイノリティそのものだ。

それにしても揃いも揃ってハイスペック。俳優、モデルの方がピッタリくる容姿だ。ぜひ彼らと仕事をしてみたい。

流線形の美

絶対はずさない超美味スパニッシュをご馳走になり、満足した3人はそれぞれの愛車でブルックリンのオフィスに。

TEAM A-MIX のビルは屋上付きの9フロア。1フロア300平米程だ。地下1階はガレージと倉庫、1階はバイクショップでカスタム専門だ。2階はカフェ&バー、3階はカジュアルなイタリアンレストラン兼メンバーの食堂だ。4階が音楽スタジオ、5階が制作室、6階が撮影スタジオ、7階8階はホテル仕様で宿舎も兼ねて6部屋ある。9階がCOCOのプライベートルーム。そして屋上庭園がある。

10階建てのビルは父の会社がオーナーだ。外観、内装ともに直角がない流線形を意識したデザインで、映画やドラマ撮影に使われるほどだ。設計は新進の建築家でこのビルがデビューとなった。

さて、さっそく持ち帰った資料や映像の検討会に入る。全員集合だ。

3階のイタリアンレストランからナポリ直伝のピザ、ラザニア、生ハムサラダ、きのこリゾットをオーダー。ワインセラーからシチリアワイン。彼らこそがラッティエーノ、ヒスパニックだ。

JUNO、RON に、カメラマンのダニー、ビジュアルやサウンド担当のジェシー、AREX が加わりスタジオで上映会だ。

「確かにかっこいいよね、というかカッコ良過ぎてつまらない。」

「音楽も普通だよ。いまさらっていうか。」

「モデルやファッションはいいよね。」

「何といっても高さや技が凄い、一流のボーダーだけある。ここは強調したい。」

すると黙って鑑賞していたCOCOが・・・。

「技もそうだけど四肢の動きが流れるようで美しい。究極の技には弧を描くような人の動きがあるってことだよ。コンセプトは＜流線形の美＞どうかな。」

英語で＜Streamlined beauty＞ スペイン語で＜Belleza Aerodinamica＞

技は弧を描いて回転数やスタイルを競うし、競技場はハーフパイプだし、フォームそのものもやわらかく、しなやか。それにヒスパニックはスペイン系が多いし・・・バルセロナの街とコラボレーションするのってどう？」

「曲はラテン系のリズムをヒップホップ調に、ラップも英語とスペイン語で若者の気持ちを入れてみたら？楽器はバイオリンや弦楽器をいれてアレンジする。ボーカルはR&Bのシンガーでラップを入れる。イメージ湧いてこない？」

「COCOとJUNOにのった！バルセロナの街並みとボーダーの究極の技を合成すると面白いかも・・・。」

「どうせなら楽曲もヒットして欲しい。」

「作詞、作曲、編曲はJUNOで。ボーカルやラップ、演奏は仲間に依頼しよう。人選は一任します。」

「バルセロナの映像は撮影に行こう。全員でロケハン兼ねてバルセロナに2週間程出張だね。」

「出演者はプロのスケートボーダーで・・・大きく流線を描く技を競技場で撮ろう。こちらはマイアミ出張だね。」

「それではメンバー全員一致でこの仕事はやるってことでいいかな。」

「Of course We will！もちろんやります！」

COCO とバルセロナ

COCO とバルセロナの出会いは 1992 年のオリンピックだった。

母の兄である MAX が開会式と閉会式のビジュアルディレクションのメンバーとして招聘されたことがきっかけだった。

建築家でもある母と一緒にバルセロナに 3 カ月滞在した。母と歩く街並みは美しく、何世紀もの歴史と荘厳さが感じられた。

「香子、バルセロナには直角がないのよ。すべて流線形なの。ガウディ作品も先端は鋭角でなく丸いのよ。流線形って本当に美しく素晴らしい。」

と母の冴子が教えてくれた。

「COCO、開会式の聖火点灯も矢が流線形の弧を描くようにこだわっているんだよ。バルセロナはひとつの国と言ってもいいかもしれない。サッカーも文化、芸術、慣習もここにしかないモノやコト、そして歴史があるんだ。」

と MAX が教えてくれた。

COCO はまだ小学生。このときから流線形のバルセロナに恋をした。いつかここに住みたいと思った。

そしてオトナになった今も流線形を描くビジュアルにこだわり、重なり合い流れる旋律を探求し、しなやかでやわらかい人間でありたいと願っている。

そんな COCO の表現する音楽、音色に惹き付けられた最初のメンバーは JUNO だった。

彼はあらゆる楽器を自在に操り、曲を作る音の天才だ。COCO のイメージする音楽をいろいろな楽器と旋律で表現してくれる。

入学してからすぐに意気投合した。そんな 2 人の演奏に共鳴し、映像技術、音響効果、編集のテクニックも加わり、アジア系ミックスのチームが生まれた。

歌って楽器を奏でる音楽院も、いまは映像や音響すべてがデジタル化され、アナログとの融合がスタンダードだ。だからいろいろな才能が集まる。

共通項は

ジャンルを超えて音楽が好きってこと。

徹底的に基礎を学んだってこと。

誰もがいろんな楽器で演奏できるってことだ。

そしてこのチームのメンバーは、それぞれ恵まれた環境にあるマイノリティってことが何より重要だ。

流線形の美 (Streamlined beauty) (Belleza Aerodinamica)

小学生の COCO が見た時代と変わらないバルセロナの街があった。

メンバー全員でバルセロナに。

街全体が刺激的なビジュアルだ。

ガウディの作品群や中心街、バルサのホームであるキャンプ・ノウなどバルセロナらしさを撮影する。

タンゴやスペインのリズムや音を聴く。

オペラハウスで芸術鑑賞

美術館巡り

メンバーそれぞれのミッションを自分流にこなしていく。

L&P の MR BROWN は、誰の指示も受けずに、個人でやるべきことをこなす彼らの仕事術に感銘を受けた。

夕食は地元民に交じって徹底的に愉しむ。驚くことに彼らに言葉の壁はない。全員スペイン語で自在に話す。

リーガの話で盛り上がり、バルセロナに溶け込んでいる。五感で楽しむのが彼らの流儀だった。

10 日程で切り上げて、マイアミに直行。

プロボーダーの撮影だ。ウエアも最新ならパフォーマンスも初披露だ。

5 人の専属プロによる世界一流の演技はスピード、フォーム、弧を描く美しさ何もかもが素晴らしい。

メンバーの想像力を思い切り刺激してくれる。

彼らは演技中、必ずイヤフォンで音楽を聴く。好みは多岐にわたるがヒップホップが多い様だ。

激しく速いリズムだと、弧を描いているときに景色が見えないからというのが理由だった。

面白い！！やはりラテンとのリミックスだ。歌はヒップホップ調で女性シンガー、ラップパートは男性シンガーに。

英語とスペイン語で若者を刺激する。

音は弦楽器をベースに流れを出そう。映像に合わせて曲を変えていくつもりだ。

攻撃的で下品になりがちなラップパートは、弦楽器で美しく重厚な曲調に。

弧を描く流れる演技と、バルセロナの流線形の街並みをうまく融合させた映像だ。

ポップな色調がいいかもしれない。

マイアミから戻って3カ月。プロモーションビデオが完成、一斉にメディアに流れた。

いきなり初日から話題独占だ。

流線形を表現するボーダーの技と演技、バルセロナの街並みが斬新なビジュアルを生み出した。

新しい音と曲、映像は、そのままミュージックビデオとしてダウンロードされ、爆発的ヒットに。

TEAM A-MIX は創作集団として仕事の依頼でパンク寸前。

次の仕事は L&P 社のスノーボード編が控えているので当分新規受注は無理。

謎の一流音楽院卒のアジア系メンバーは、顔がさらに知られることに。

取材依頼も多く、ちょっとしたスター並みだ。

欧米では東洋系の容姿が好まれる。

COCO は女優のルーシー・リュウに似ていると言われる。アジア系が色濃く出たようで東洋そのものだ。大型バイクを乗り回し、有名音楽院卒、ピアノ演奏でバンドに参加し、レコーディング。ディレクションも一流だ。父親は辣腕投資家で母は建築家。長兄は弁護士、次兄は若き投資家で、二人の兄は容姿端麗ゆえにゴシップの常連だ。それぞれがその世界では知られた有名人だったが COCO も家族の一員だとは知られていなかった。

音楽の天才、韓国系の JUNO はエンターテインメント界の重鎮を父に、母は財閥出身。ソウルでは知られたセレブファミリーだ。

ダニーは医薬品企業の経営者であるアメリカ人の父と、韓国の財閥企業の令嬢である母との間に生まれた生粋のニューヨーカーだ。

チャイナタウンのキングである中国人の父と弁護士であるアメリカ人の母をもつ RON。

イギリス人の銀行家を父に、香港のトップ女優を母に持つアレックス。

台湾の不動産王と名高い父と、日本の銀行家の家系である母を持つジェシー。

これだけ共通する環境を持ち、同時期に同じ音楽院で学んだ彼らは、呼び合い惹き付けられて集まったとしか言いようがない。まさに偶然が縁になったのだ。その中心が紅一点の COCO だ。

世間の話題になるだけある TEAM A-MIX。まさにこの仕事の人種や国境を超えた記念すべき 1 号だった。

スノーボードはスイスで撮影。滑降、回転、ジャンプ、ハーフパイプと多岐にわたり競技がある。

イタリア、カナダ、スイスでそれぞれ適した環境を求めて演技の撮影。雪の結晶と星をメインビジュアルに銀世界を流線形の美で表現した。音楽はベートーベンの曲をヒップホップにアレンジ。流れるようなサウンドとラップ調のボーカルで大ヒットした。

この業績が評価されて、冬季オリンピック種目に認定されたスノーボードのプロモーションビデオを制作する。

TEAM A-MIX は実力、創造性、音楽性と東洋系の美しさで、世界規模の活躍となった。

ミュージックビデオの依頼が多く、彼らが手掛けると必ずヒットすることから、アメリカデビューを視野に入れるアーティストからの依頼も多かった。

彼らの創るミュージックビデオは音楽性が高く、抜群のチームワークで、新しい旋律と映像の融合を生み出していった。

有名になればメンバーの不仲もあり得るこの世界で、彼らはいつも通りそれぞれの個性を活かしながら、刺激し合いながら仕事をこなしている。

彼らはそれぞれに自分にはない最上級の才能を持つメンバーをリスペクトしている。

そして個性的で抜き出た才能を持つ彼らを、うまくまとめてディレクションできるのはこの世界に COCO しかいないと知っている。

TEAM A-MIX の転機

「ねえ、提案があるんだけど・・・」

全員が集まるなか、COCO が切り出した。

「なに？どうしたの？」

「なんかいろいろとやり尽した感があるから環境を変えたいなと。もう NY は飽きたかな。」

「確かにもう目新しいものはないし、仕事はヨーロッパ圏が多いし、新しい突破口がそろそろ必要かもってね。」

「出逢って15年、学生生活も仕事もずっと共に成長してきたし、ブルックリンでの仕事は楽しかったけど、そろそろ移転しない？それも全員でヨーロッパに行こうよ。どう？」

迷いなく全員が一斉に

「賛成！」

「どこに行く？」

「実はバルセロナにビルがあるから、改装してそこを本拠地にしようかと。ロンドンやモナコも考えたけどなんか変化に乏しそうだし、リーグの本場で独立色の強いバルセロナがいいかなって。」

「ビルもあるし、まだ住んだことないし、仕事のオファーは絶えないし、賛成！」

「スケルトンのビルを改装するから、みんなの要望も取り入れるね。建築家との打合せは1週間後、みんなバルセロナに行こうよ。スケジュールは確認済みです。」

「改装期間は12か月から14か月程度。ちょうど制作中の仕事も終わるし、とりあえずここはそのまま、向こうで最新機器とインフラを完備するつもりだから。」

順応性が高いのはミックスだから。流されず自立していなければ生きていけない。そして東洋系でマイノリティであるという絆が何よりだ。

「俺からもお願いがあるんだ。ソウルの披露宴に演奏を頼まれている。ファミリーなので断れなくて。ついでに仕事の相談もあるらしいからみんなでソウルへ旅行しない？チケットは送られてくるし、宿泊はお任せください。島へのバカンスあり。助けてくれますか？」

JUNO の依頼は断れない。

「バルセロナから帰国して1週間後はソウルだ。ハングルはまるでダメだけど・・・。」

「英語で問題ないよ。みんな話すから。」

TEAM A-MIX @SOUL

バルセロナでの打ち合わせを終えて改装計画もほぼ決まり。メンバー6人は明日ソウル入りだ。演奏用の衣装は、ドルチェ&ガッバーナで揃えた、というかモデルの JUNO のおかげで提供されたのだ。メンバーお気に入りのブランドで、それぞれデザインは異なる。柄の一部分がお揃いというだけなので、ステージ衣装には見えない。そこがクールだ。

演奏曲の練習はソウルに入ってからで十分、みんなプロだから……。

ピアノは COCO、ドラムは RON、ギターはダニー、ベースはアレックス、効果音と映像はジェシー、そしてボーカルは JUNO だ。このチームはパーフェクトに演奏する。久しぶりのチームライブだ。

「招待客に歌手やアイドルグループもいるからビシッと決めよう。JUNO のボーカルは久しぶりだな。ボイストレーニングしている？」

「毎日 COCO をお願いしているよ。歌も練習をはじめている。」

「もう一つ、COCO にお願ひがあるんだけど。」

「なに？JUNO。」

「友達に頼まれて、人気バンドのボーカルの伴奏をお願いしたいんだ。アコースティックなライブをするらしい。」

「JUNO のバイオリンかギターも入れたら？」

「そうだね。」

「譜面は？」

「これだよ。グループの楽曲を単独に編曲してある。」

(I WILL BE BACK PROMISE HOLD YOU THE CAFE) の4曲だ。ダウンロードして聴いてみる。バイオリンよりギターかな。練習してみよう。

さっそくピアノに向かい COCO は弾きだす。

どれも素敵な曲だ。ダンサブルな感じもすごくいい。彼らの MV を観るとダンスがハイセンスだ。

それに見栄えも良くスタイリッシュだ。アジアで人気というのも納得。

ファーストクラスでソウル入り。13時間の旅は快適だった。

全員ソウルでの演奏曲を聴きながら眠りについた。起きたらすでに着陸態勢だ。

入国手続きを終え、荷物とともに空港を出る。大型 SUV、エスカレーターがお出迎え。

「JUNO 様、大変お疲れ様です。皆様、荷物はそのままでこちらにお乗りください。」

どうやら荷物は別のクルマで運ばれるらしい。楽器があるから当然か。

JUNO 様ねえ、さすが御曹司だな。

COCO は初めてのソウルだ。

クルマは大きなホテルのエントランスに。荷物はすでに運ばれているとのこと。6部屋のグランドスイート

が用意されていた。

COCO の部屋は大きな窓に眺望が最高だ。JUNO の心遣いか、カサブランカが生けられ香しい。冷蔵庫にはガス入りウォーターにキウイジュースが入っていた。

「JUNO ありがとう！」

1 時間後メンバーは、迎いのクルマで JUNO の父親の会社に出向く。立派な自社ビルだ。

ホールや練習室、スタジオなど、ありとあらゆる設備がビルに入っている。パーティ演奏の打合せが終わってから練習に入る。

練習室はコンサート用のグランドピアノ。

演奏項目はオペラの「乾杯の歌」のアレンジ版、アジアで大ヒットした HOW CAN I LOVE YOU、ドラムは必要なさそうだ。

聴き慣れない楽器演奏に、韓流スターがガラス越しに覗いている。メンバー全員が音楽の世界でもプロだから演奏技術はトップクラス。見学者は増えるばかりだ。

ひと通り合わせて終わると拍手の嵐。

そこに JUNO の父親と兄がやってきた。

「遠いところをありがとうございます。ここの練習室は十分でしたか？ さっそく素晴らしい演奏が聴けました。さすがワールドワイドなメンバーですね。それとうちのアーティストのライブ演奏も引き受けてくれたと聞きました。JUNO が無理強いしたのでしょうか大変うれしいことです。ありがとうございます。この練習室は滞在中、24 時間自由にお使いください。」

「ありがとうございます。初めてのソウルなので新鮮です。様々なお気遣いに感謝いたします。夕食は韓流の JUNO にお任せです。存分にソウルを満喫するつもりです。」

JUNO の兄である TEMI 氏が

「リーダーの COCO さんですね。噂通りの美人だ。是非近いうちに夕食をご一緒しましょう。ご連絡いたします。」

こちらも JUNO 同様に相当のイケメンだ。

「兄はソウルで結婚したいナンバー 1 の独身男で、ゴシップの帝王だから気をつけて。」

「JUNO の方が素敵だよ。恋はインスピレーションがないとね。」

翌日の早朝、COCO はライブ用の曲をひとりで練習していた。24 時間使えるのはありがたい。まずは曲調と歌詞を把握して、流れをつかまないと、ボーカルに失礼だ。

2 時間ほど練習すると、いつの間にか通路に人だかりが……。COCO は軽く会釈して休憩だ。

聴き慣れたアーティストの楽曲をピアノアレンジで聴くのは新鮮なのかな。

さあ、あと 1 時間でもものにするぞ！

楽曲のメンバー BPM 6 人は、ダンススタジオで練習。終わって室外に出ると歌い慣れたメロディが、素晴らしいピアノ演奏になっている。グランドピアノがある練習室だ。

急いで向かうとすでに人だかりだ。室内から素晴らしい旋律が流れてくる。様々な音をスライドさせた楽曲

を、ピアノだけでここまで演奏するなんていったい誰が？鈴なりの人をかき分けてガラス越しに覗くと、見慣れない女性が全身集中で演奏していた。ボーカル JES は演奏している女性に釘付けだ。

あの女性がライブの演奏者なのか・・・。

JES は首にタオルをかけたまま練習室に入り伴奏に合わせて歌い出した。COCO はイントロから始めようと目配せで合図。ピアノバージョンの I WILL BE BACK を歌い始めた。JES の歌声は業界でも音域が広く、甘く透き通る声と評判だ。COCO のピアノは感情豊かで流れるようにシンクロしながら音を奏でる。ボーカルを最大限に生かす COCO の伴奏は最高に歌いやすいはずだ。

「なんて気持ちよく声が出るんだろう。最高の伴奏だ。この歌は激しく情熱的で、ピアノだけでは物足りないはずなのに十分な迫力がある。この演奏者は誰なんだ？」

なんて甘く伸びのある声なんだろう。さすがボーカルだけある。ハングルはわからないけど、英語の歌詞もあるようだから是非聴いてみたい。

演奏を終えるといつの間にか JUNO がいた。

「さすが COCO の伴奏はボーカルを生かすね。JES 氏の素晴らしい声がより滑らかに美しく心に響くようだ。歌いやすかったでしょう？」

「こちらこそ弾きながら楽しかった。さすが韓流スターはハイレベルね。もっと練習しないと嫌われてしまいそうよ。はじめまして。TEAM A-MIX の COCO です。彼は JUNO、ご存知ね。よろしくお願いします。あ！ハングルはまるでわからないので英語で失礼します。」

「いえ問題ありません。BPM のボーカル JES です。突然邪魔してすみません。どうかよろしくお願いします。」

「ボーカルと合わせられてイメージが湧きました。ありがとう。もう少し練習を重ねて当日はご迷惑にならないようにします。JUNO、ピアノの他にどんな楽器がいいかな？アコースティックギターもいいかも・・・それとも弦楽器？編曲する必要があるかも。午後みんなと検討しよう。」

この人たちはいままでの誰よりも音楽のプロフェッショナルだ。会話する言語が違う。すべての楽器を自在に操れるみたいだ。あとでプロフィールを調べてみよう。

BPM の控室では COCO の話題一色だ。

「彼女の演奏で歌うの？すごく声が伸びていたよ。違った魅力炸裂かもね。」

「俺も歌ってみたい。」

「ところでどこから来たの？」

「俺たちとはレベルも世界も違うよ。」

検索していた JES が顔を上げた。画面には

TEAM A-MIX の各自プロフィール、仕事など詳細に記載されている。

「うわーあのプロモーション映像はこのメンバーだったの？誰もが憧れる MV のほとんどがこのチームなんだ。それにしても凄いメンバーだな。動画出演にモデルもこなす美形揃いだ。本名、国籍、年齢は記載なし。JUNO さんは社長の次男だってことは聞いた。」

JES は COCO の作品プロフィールを見てあのピアノの技術に納得した。基礎がまるで違う、本物だ。

それに今日だってすごい練習量だ。みんなが憧れる映像をディレクションするなんて信じられない。いくら同級生とはいえ、メンバー全員がオトコだし。余程尊敬されているんだな。それにメンバーの家庭環境も凄いらしい。ここソウルで知り合えたのは JUNO さんのおかげだ。

午後には演奏手法が決定した。練習後ソウルの「美味しい」を案内してもらおう。JUNO はもちろん、メンバー全員味覚が肥えている。

「今日は韓流居酒屋に行きます。サムギョプサルやチゲ鍋と代表的庶民料理を堪能します。」
滞在中は案内役のドライバーと送迎車が付くので移動は簡単だ。さすが財閥の御曹司！

韓国式の居酒屋は繁華街にあり、ワイワイガヤガヤ楽しい店だ。彼らが入店すると一斉に注目される。東洋系とはいえ外国人だし、長身のイケメン揃い。ファッショナブルで観光客には見えない。来韓したアーティストか俳優といった感じか……。ソウルに来て驚いたのは一斉に携帯カメラで撮影されることだ。JUNO によるとすぐに SNS にアップされるらしい。国民全員がパパラッチ。

「すぐにアップされて消えるから気にしないで。これも韓流式だから慣れるしかない。」

「韓流スターは本当に大変なのね。デートもできないでしょう。恋愛なんて論外ね。」

「ドラマに歌番組、ツアー、撮影、レコーディングと超多忙、メンバーと一緒に暮らしているので恋愛の暇はないね。殺人的スケジュールをこなしているよ。一般人には考えられない。」

「わたしは即死だな。」

「俺たち自遊人には到底無理ってことだ。」

「早くバルセロナに行こう！」

「ヨーロッパってのんびりしているからいいよね、マイペースだし。A-MIX にぴったり。」

COCO ～JES とのコラボレーション

今朝も早朝6時から COCO はピアノに向かっている。JUNO のアレンジを習得する。弾きやすいな、さすが JUNO。ボーカルの音程も無理なく表現できる。ソウルでは全部で5曲、アンコールを2曲用意している。

7時に練習室に JES が入ってきた。

「COCO さん、1時間程練習しましょう。」

「声は無理に出さないでくださいね。では発声練習から。」

8時頃には通路に人だかりが。。。。。

携帯のフラッシュがピアノのボディに反射して眩しいくらいだ。

「フラッシュがピアノに反射するから少し控えてくれるとうれしいな。」

JUNO の声だ。

「COCO、JES さん、おはようございます。今日はお時間ありますか？他の楽器とアレンジを試したいのですが。。。」

「これから収録があるのでご連絡します。」

「マネージャーには伝えました。」

「はい。COCO さんお疲れ様でした。」

JES 君は COCO が気になるらしい。彼は韓流スターとして容姿、実力ともに申し分ない。

しかしワールドワイドな COCO は年下君が受け止められる女性でないことは確かだ。背伸びをしないことだね。

COCO さんとの早朝練習は最高だった。ピアノも素晴らしいけど彼女が素敵で気になる。彼女のことを想って歌うとすべてうまくいく。声も伸びるしカラダのキレも抜群だ。どうにかしてソウルを離れる前にデートできないかな。ライブが終わったらダメもとで誘ってみようか。

彼との練習は本当に楽しい。だいぶ年下君みたいだけど声も容姿も魅力的。ライブが成功するといいな。

15時にメンバー全員で最終確認をする。

ぴったりとはまる音色とアレンジされた新しい曲に誘われたのか、ギャラリーがいつもより多い気がする。いや、東洋系イケメン5人組のせいだろう。そのままでも十分魅力的な彼らが、演奏することでMAXオトコマエになる。

極めつけは JUNO のボーカルが入った時だった。女性から叫び声が上がる。

「なんて甘く素敵な声なの？」

「韓流にもいない、胸に染みわたる声。」

「いったいどこの誰なの？」

JES は美しい歌声に惹かれ練習室に。。。。。

JUNO さんの声だ。COCO さんのピアノと一体化している。それこそお互いを知り尽くしているからこそその

演奏だった。

終わるとギャラリーから拍手喝采。JUNO は軽く手を振った。大騒ぎだ！

「JES さん、合わせましょう。」

COCO のピアノに JUNO のギターが入る。アレンジが素晴らしい。そして何より歌いやすい。JES のコードに合わせて編曲されている。即席なのに何年も歌い込んでいる気分。

「どうですか？多分このアレンジの方が歌いやすいのでは？」

「はい、とっても。ありがとうございます。」

「その分、ピアノが大変なんですけど・・・」

「そこは COCO の腕次第だ。」

「ラジャー。」

JES のライブは2日後、パーティは明日だ。

社長から動画撮影の許諾願いがあったので COCO は承諾した。止めてもこの国では無駄だとわかったから。それにオリジナルでもないし、とっくに顔は知られているので断る理由もない。それにメンバーの了解も得たし。

あと1時間ほど練習しよう。最高の演奏でなければ自分じゃないから。

COCO 一人で練習していると、JES が入ってきた。

「COCO さん、もう1曲お願いできますか？ピアノだけで歌いたい曲があるんです。」

「伴奏なしで歌ってみてください、ここで。」

JES は伴奏なしで歌う。

「STAY WITH ME」ハングルなので英語部分だけしかわからないが、男性が女性を想うハッピーな曲らしい。JES の歌声にぴったりな曲だ。

COCO は一度メロディを聴けばすぐに弾ける。

「もう一度お願いします。」

すぐに COCO 流のアレンジで伴奏した。

歌いやすい。かっこいい。2人がつながっている。最高のコラボだ！

「COCO さんのピアノ最高！」

「JES さんの声、わたし大好き！サビの部分は声もピアノも思い切りいこう！もう一度。踊りながらもいいかも。明るい歌だから。」

「男性が彼女に強い想いを伝える歌詞です。」

JES はカラダでリズムを取りながら COCO とアイコンタクトで歌う。

COCO は JES を見ながらピアノを弾く。

見つめ合う2人は、まるで恋人同士のセッションだ。

演奏が終わると、割れんばかりの拍手と歓声が上がった！

「JES、惚れ惚れするセッションだったよ。」

「すぐにでもレコーディングできそうだよ。」

「コンサートに参加してもらえよ。」

COCO にはなんて言っているのかわからないが、後方にいた JUNO には理解できた。COCO が譜面なしで感性だけで弾くのは久しぶりだ。顔が高揚している・・・。

「COCO さん、ありがとうございます。当日はよろしくお願いします。」

「こちらこそ久しぶりの即興は楽しかった。ありがとう。」

毎日夕食が楽しみだ。韓国料理は懐石から家庭料理まで多種多様。韓国牛や海鮮も絶品だ。イタリアン、フレンチ、お鮓も NY に比べたらなんと美味しいことか。コスパも抜群。

「JUNO、太っちゃう。でもやめられない。韓国最高！」

「アジアはどこもおいしいけれど、韓国がこんなにグルメ大国とは。JUNO の料理上手も納得！ソウルに来てよかった。」

夜のパーティに向けて最終練習。COCO は午後から美容院だ。JUNO に英語を話せるスタッフのいるサロンを予約してもらった。

相変わらずギャラリーの多いなか、練習を終えてホテルに戻る。

ランチはホテル近くの参鶏湯のお店に。COCO は参鶏湯が大のお気に入りになった。スペインでも JUNO が作ってくれるって。しばらくは韓国料理にはまりそう。帰国する際には調味料を店ごと買いたい気分だ。

パーティ会場は 200 人収容のバンケットルーム。ステージ用のグランドピアノは調律済み。最終チェックのために JUNO と行く。サロンはそれからだ。

会場のピアノは鍵盤が軽い感じだった。高音が響く。

「COCO、低音をもう少しクリアにしてもらおうよ。それにステージのマイクもチェックしないと。」

「JUNO にお任せします。」

メンバーは映像、音響の最終チェック。

最後に本番を意識したりハーサル。いつものメンバーだから呼吸も音もピッタリ！

「ばっちりね。TEAM A-MIX THE BEST！」

COCO の掛け声でリハ終了。

「JUNO、サロンの予約時間だから行ってきます。」

「クルマはエントランスに待機しているし、俺たちも同じサロンに行くから。」

「あら、じゃあバッチリ決めよう！」

サロンの前にエスカレーターが停まる。

TEAM A-MIX メンバー 6 人がクルマを降りると、一斉にシャッター音が！人だかりができていた。

「なにがあったの？」

「ともかく店に入ろう。」

COCO はヘアメイクアップとネイルで個室に。MENS はカット&セットにフェイシャルエステ。COCO の時間に合わせたメニューだ。

「入口は凄い騒ぎでしたね。」

「誰かと間違われたのかな・・・。」

「いえ、皆さんの練習動画が検索トップです。それにいちいち行動がダダ漏れで行くところに人が集まってきます。大変ですよ。」

「動画って？」

スタッフが見せてくれた携帯には、今朝のリハーサル、JES 氏とのセッションが流れている。誰かが撮影したのだろう。よく撮れている。そしてメンバーのプロフィールもしっかり公開されているのでバレバレだ。来韓の目的まで記載されている。どうも記事によると、今日と明日の演奏はテレビカメラが入るらしい。エー聞いていないよ。

COCO は JUNO に電話。

「今朝のわたしたちが動画でアップされている。検索トップでダダ漏れ。それにテレビカメラが入るらしいって。カッコよく決めるしかないね。どうせテレビカメラを断っても動画は流出するんだから同じことだよね。」

「俺たち普段から慣れているし、被写体は日常だろ？しっかり決めよう。他の4人はいまから気合入っているよ。」

「今回は演奏もそうだけど、映像と音響がここにはない斬新さと新鮮さがあると思う。仕事の依頼があるかもよ。」

「MVの話はあるかもね・・・兄貴あたりから。」

ソウルの美容レベルは凄い。丁寧だし仕上がりが美しい。

「お客様は女優のルーシー・リュウに似ていますね。東洋美人です。」

「よく言われます。造りとしては不美人の部類だと思います。欧米では受けますけど。」

「韓流男性には、どストライクです。きっとかなり言い寄られますよ。」

「来韓して以来一度もないな。」

「BPM の JES との演奏動画はめちゃくちゃ素敵です。もう恋人って書き込みがありますよ。」

「韓流スターに失礼よ。一般人のわたしなんかと・・・それに美人の宝庫でしょ、ここは。」

「視線が絡み合って恋人同士みたいですよ。」

「うれしい。BPM って何の略？」

「B は BEAST 野獣の頭文字です。彼らは野獣系アイドルと言われています。すごく男らしいから。カラダもかなりのマッチョで長身、踊りもキレキレでカッコいい。」

「歌もうまいしね。」

「お客様の TEAM A-MIX だって世界的人気だし、皆さんカッコいいですよ。」

「よくモデルや PV に出演しているし。東洋系は欧米で人気あるのよ。今日は MENS 担当でなくて気の毒ね。」

「あとで写真撮影してもいいですか？」

「もちろん」

着替えてフロアに出ると5人が待っていた。相変わらずカッコいい。スタッフの視線が集中だ。写真撮影に応じている。

「COCO、きれい！ドルガバのドレスキマっているよ。」

「COCO、美人だよ、かっこいい！大好き。」

ジェシーとアレックスがいきなり COCO にハグ！シャッターが一齐に光った。

5人5様のドルガバファッションはモデル並みのカッコ良さだ。見慣れているとはいえ COCO も見惚れる程の美しさだ。

スタッフとメンバー全員集合で撮影。1分後には SNS にアップ、拡散しているだろう。

ドルチェ&ガッバーナの新作は RED×GOLD がテーマだ。COCO のドレスは RED に GOLD の柄を効かせ、ボディラインにフィットするタイトなラインだ。S 字を描く COCO のボディに合わせて作られているので、見惚れるほどセクシーだ。

店外に出るとさらに多くの人に囲まれる。シャッターがエスカレードの真っ黒なボディに反射する。ともかく車内に滑り込んで出発だ。会場に到着すると、記者やカメラマンが鈴なりだ。警備員の助けで何とか館内に。どうにかバンケットルームに辿り着く。

「凄いことになっているね。さすが SNS 大国。にわかスター気分だよ。本番もカメラが入るみたいよ。取材や会見は絶対にパスだからね。」

「もちろん。写真は仕方ないけどノーコメントで。」

メンバーは軽く音を合わせて控室に。

「JUNO、演奏が終わったらサムギョプサルだよ。明日はどうなっているの？」

「明日はライブハウスに18時。リハーサルして20時から開演だって。他のアーティストも出演するらしい。俺たちの出番は21時頃。かなり本格的らしい。収容人数は150名とか・・・。メンバーの席は確保した。」

「何時から空いているの？」

「12時から開放している。調律もその時間に入る。」

「JUNO、調律につきあって。強さだけでなくやわらかい高音が欲しい。」

「了解。サロンは15時に予約だね。」

「衣装はどうするの？」

「ライブハウスだからいつものレザーは？」

明日出演する JUNO と COCO はブラックのレザーファッションに決めた。

さあ、明日の予定も決まったし、まずは今日の演奏に集中！

定位置にそれぞれが入る。幕が上がると同時にロック調にアレンジされた乾杯の歌が始まる。エレキギター、バイオリンとピアノが驚くほどマッチする演奏に、効果音が響く。スクリーンには、ソウルの街並み、新郎新婦を撮影した動画が流れる。さすが RON とダニーだ。幻想的で美しい。

そして大ヒットした HOW CAN I LOVE YOU だ。JUNO のアレンジは最上級！そして JUNO の歌声は最高だ。

観客は彼らの奏でる音と超越したテクニック、甘く切ない美しい歌声、そして映画のような映像美に感激だ。割れんばかりの拍手と同時にアンコールの音が・・・。

「少し練習したあの曲で行こうか？同じく最高視聴率をたたき出したドラマの曲 YOU ARE MY EVERYTHING」

「今日の宴にはぴったりだね。ボーカルは大丈夫？」

「もちろんだよ。ではラテンのアレンジ、即興で行こう。COCO 頼むよ。」

聴き慣れたヒット曲が、今まで聴いたことのない歌声と音を奏でる。観客は興奮気味だ。ともかく彼らの楽器演奏は超越している。

メンバーは演奏の余韻を残しつつ舞台袖に消えた。韓流スターもかなり出席していた。JES は感激のあまり動けない。最高レベルの演奏と一流の魅せるテクニック。そして美しいボーカル。メンバー全員がカッコ良過ぎる。完敗だ！会場にいた全てのアーティストが同じように感じているだろう。

JUNO の父は、

ここまでとは…言葉がない。

どうにかして彼らと仕事ができないか。

滞在中に説得できないか。

自社のアーティストとの共演はできないか

MV 制作を依頼できないか。

いまさら JUNO が願いを聞いてくれるのか。

明日のライブも行くつもりだ。

着替えてサムギョプサルの方に。途中車窓から屋外スクリーンに映し出される TEAM A-MIX を観た。つい先程の演奏シーンだ。さすが IT 大国。やることが超速だ。

サムギョプサル店内に入ればシャッターが一斉に光る。何を言われてもハングルはわからないから気にしない。空腹でお構いなしに、JUNO 推奨のマッコリとサムギョプサルを頬張る。衣装じゃなくても全員ファッションナブルだ。彼らはボロを着てもヴィンテージに見える。COCO は PRADA の真っ赤なブラウスに白のひざ丈のパンツ、トリーバーチの赤のミュールだ。撮影されてもまあ大丈夫。

COCO は興奮状態だからか目が冴えている。

「ホテルのバーで一杯飲もうよ。」

「賛成」

地階のバーで、スペインワインをオーダー。バーの店内はピアノがあるのに静かだった。

「どうして演奏しないの？」

「今日はピアニストと歌手がはやりの風邪で……。申し訳ございません。皆様の演奏は素晴らしく感動しました。ごゆっくり。」

彼らの席には、いつの間にか人が集まり握手を求められた。相当拡散しているようだ。

「握手も大変だから演奏で勘弁してもらおうか。どう思う？」

「今日のハングルのヒット曲で勘弁してもらおう。」

彼らの申し出を聞いた支配人は大喜びだ。

音合わせの間に、ホテルのスタッフや居合わせた店外の客もバーに集まっている。

「ピアノはきちんと調律されている。バイオリンはジェシー、エレキはアレックス、ギターとベースは RON とダニーで行こう。」

そしてボーカルとピアノは変わらず JUNO と COCO だ。

15分後に演奏が始まった。会場とは違う音が耳に心地よい。10名程だったバーの店内が100名ほどに埋まりぎっしりだ。

JUNO の韓国語の歌に、COCO の旋律、エレキとバイオリンのハーモニーに観衆は大興奮。

演奏終了後、メンバーが席に戻ってもサインと握手は勘弁していただくことに。

COCO とジェシーはジンライム、他はバーボンのロックでめた。10分も経たないうちに先ほどの演奏がアップされていた。

翌朝、テレビをつけたダニーから電話。

「COCO 俺たちがニュースになっている。」

「ハングルはわからないもん。」

「昨日の会場での演奏やバーでの即興、すべての動画が拡散してニュースにまでなっているんだ。今日のライブも大変だよ。」

「撮られても恥ずかしくない演奏をしないとね。どっちにしても韓流スターとの共演だから騒がれるでしょ。もう慣れた。数日後帰国すれば消滅するから気にしない。」

「そうだね。12時にピアノチェックでしょ。じゃあ朝食バイキングでね。」

JES は SNS にアップされた彼らの動画を繰り返し再生する。テレビでも話題だ。今日のライブは注目の的。それにしても JUNO さんは凄い。彼の前でボーカルです、なんて言えない。

作詞作曲編曲、あらゆる楽器を操り歌声も一流なんて不公平だ。メンバー全員が天才なんだから引き寄せられるのは当然だ。それを仕切っているのが COCO さんなんだ。

「JES、12時から調律が入るから TEAM A-MIX はその時間に入る。15時頃からは参加するアーティストのリハがあるし、JES は何時に入る？調律の後は美容サロンに予約が入っているって。いまはホテルにいる。昨夜のバーでの即興演奏は凄い話題になっているよ。あのひとたちはやることすべてがかっこいいよな。」

「12時に行くよ。クルマ回してね。」

バーでの即興演奏は素晴らしくカッコいい。演出も台本もなくあれだけのことができるなんてどれだけ自信があるのか……。

12時にライブ会場にピアノの音が響く。

「あなたもご存知の JES さんの歌声は高音がやわらかく、低音がハスキーでパワフルなの。だからピアノがキンキンした音だと彼の良さが出ないのよ！」

英語で調律師にまくしたてる COCO の言葉を JUNO が韓国語に通訳している。

「本人は超多忙だからまだここにはいないのよ。いつも聴いているでしょ？韓流スターなんだから、それも一流の……」

「COCO、そこまでイライラしているなんて珍しいな。どうした？調律師には僕から言うしチェックするから大丈夫だよ。」

「うん、お願い。」

JES に気づいていない。彼が入口に立った途端に COCO さんの声が聞こえた。俺の声を第一に考えてくれているようだ。調律師は気の毒だけど COCO さんの要求が理解できるとは思えない。

JES は舞台に近づいた。英語で話しかける。

「JUNO さん、発声しましょうか？」

「JES さん、おはようございます。お願いできますか？COCO の要求はいつも通り高いけど、調律師の理解度がいまひとつで・・・」

「COCO さん、今日はよろしく申し上げます。」

「COCO、JES さんの発声練習をお願いします。」

COCO はピアノに向かって音を出す。

「ちゃんとこのおっさんに彼の低音と高音を聴かせてね。」

何とか無事調律を終えた。

「JES さん、アコースティックライブと聞いていますが、ギターとピアノでいいですか？」

「はい、ライブのコンセプトがアコースティックなんです。出演するボーカルはほとんどがギター演奏です。」

「わかりました。ピアノははずせませんね。COCO とはギターとピアノだけの演奏は数多くこなしていますので問題ありません。」

「STAY WITH ME はピアノだけでお願いします。」

「わかりました。では合わせましょう。」

(I WILL BE BACK PROMISE HOLD YOU THE CAFE) と合わせる。

「やっぱりギターよりバイオリンがいいよ。どう？JES さん。他との違いを見せないと意味ないでしょ？」

「俺も他の出演者と違う表現をしたいです。」

「バイオリンバージョンで行こう。」

JUNO がギターからバイオリンに持ち替える。やっぱり JUNO のバイオリンは最高だ！COCO のピアノに引き寄せられるように追いかけてくる。高音の美しさが JES の声をより引き立てる。

「なんてきれいな音なんだ。バイオリンとピアノによって俺の声に幅と厚みが生まれる。」

「JUNO のバイオリンと合わせるのは最高に気分がいい。これで行きましょう。」

ホールスタッフ、音響スタッフ、JES のマネージャーも、彼らのコラボレーションに感激のあまり呆然と立ち尽くしている。

「COCO さん、STAY WITH ME お願いします。」

「この曲はポップな軽いリズムで行きます。」

JES は歌っている間は COCO と視線を交わしている。年下君のスターは COCO に惚れたか。ハンゲルの歌詞がわからなくてちょうどいい。あの顔と歌声で STAY WITH ME を見つめながら歌われたら COCO でも恋

に落ちるぞ。若造のくせに女性を見る目は確かだ。COCO はまるでわかっていないようだな。特別鈍感だから・・・。

歌いながら COCO さんと視線を交わす。俺の気持ちに気がついてほしい。こんな一瞬で女性を好きになったのは初めてだ。自分の気持ちをどう表現したらいいかわからない。

JES 氏の声はわたしの演奏にマッチしてきたみたい。JUNO の声とはまた違う魅力がある。演奏中に見つめられるとなぜかドキドキする。わたしって変かな。ソウル病???

最高のライブ演奏

本番前のリハーサルだ。さすがトップグループのボーカル JES らしく曲数も多い。なぜか出演者や関係者が着席して見守る。リハーサル特有の騒がしさがなく、しんと静まり返って JES のリハーサルを待っている。

COCO の合図で I WILL BE BACK の演奏が始まる。といっても JUNO のアレンジで激しいダンスミュージックが、JES の歌声にマッチした聴かせる曲に変調している。ここで観衆は驚く！

「これって BPM の曲だよな。」

「全然違う曲に聴こえるけど、I WILL BE BACK だってわかるのが凄い。」

「ピアノのアレンジも凄い。それにバイオリン演奏がここまでカッコよく決まるなんて信じられない。」

「この人たちって何モノ??？」

JUNO は BPM の 4 曲をメドレー仕立てにして、それぞれにアレンジを加えた。

「すべて違う曲調をメドレーでつなげるなんてどれだけの才能があるのか。」

最後はボーカルとピアノの STAY WITH ME。

ピアノの軽く速いタッチが超絶テクニックだ。COCO の本領発揮！

COCO と視線を交わす JES の声がさらに伸びやかに響く。強い低音からやわらかい高音に無理なく自然に変わっていく。声量が上がり、音域が広がっている。聴き慣れている関係者も新しい JES に驚く。彼の魅力が引き出された瞬間だ。

リハーサルから大歓声と拍手の渦・・・。

本番が楽しみだ。

21 時。いよいよ本番だ。テレビカメラの他に映像チームまで入っている。MV でも作るのか・・・。

本格的な器材が持ち込まれている。JUNO の父をはじめ幹部も中央に陣取っている。立ち見客も入れると 300 名は入っているようだ。とにかく人でいっぱいだ。

I WILL BE BACK のイントロを JES が語るように歌いだすと幕が上がった。

激しいピアノの旋律と透き通るようなバイオリンの伴奏が、JES の声を最大限に引き出していく。メドレー仕立ての編曲が新鮮で斬新だ。ピアノもバイオリンも超絶のテクニックで、最高の音色を JES の歌とともに聴かせる。

最後はピアノのみの伴奏で STAY WITH ME。

JES の新しい魅力的な声がピアノの旋律とともに弾ける。観衆が肩を揺らしながらリズムをとる。会場が一体となり、観衆の高揚感がステージに伝わる。JES は最高だった。観衆の拍手に応えている間に COCO は舞台袖に引いていた。

JES は COCO を追いかけ、腕を引き寄せて思い切り抱きしめた。

「ありがとうございます。言葉が見つからないから態度で伝えます。」

COCO は広くて深い胸にすっぼり取まりながら胸が高鳴った。

「JES さん、最高にカッコ良かったですよ。こちらこそありがとうございます。ソウルでの最高の出来事でした。」

COCO は JES から離れてすぐに待機しているクルマに乗り込んだ。JUNO が待っている。

「JUNO、すごくお腹が空いた。メンバーはまだ？」

「もう出てくるよ。焼肉にしようか・」

「賛成！ボーカルの JUNO、バイオリンの JUNO、アレンジャーの JUNO みんな最高だったよ、ありがとう。ソウルに来てよかった。」

「どういたしまして。明日午後の便で済州島に行くよ。遊んで食べてゆっくりしよう。」

これで COCO さんとお別れなのか・・・。

どうすれば気持ちを伝えられるだろう。

告白したところで、ソウルと NY、遠く離れた 2 人は恋人同士にはなれないかも。

一緒に仕事すれば距離が縮まるかも。

明日から撮影に入るし、COCO さんは帰国してしまう。

「JES、彼女はどんなに想っても無理だよ。世界が違い過ぎる。距離だけでなく技量も実力も環境も違い過ぎる。同じステージに立てたし、声も成長したし十分だよ。それに JUNO さんの同級生としたらかなり年上だし・・・。JES には受け止められないと思う。」

「彼女に出会えたことは最高にラッキーだと思う。一方的であっても好きだという気持ちは伝えたい。こんな気持ちは初めてだからどうしていいかわからないんだ。」

「気持ちを伝えるだけで満足するなら宿泊先に出向けば？JES なら取り次いでくれるよ。」

「出会いが縁になったけど、すべてタイミングだよ。」

BPM のメンバーはやさしかった。

「明日から撮影に 3 日間入るけど、TEAM A-MIX はあと 1 週間は帰国しないよ。いま確認したから。」

「ほんと！ありがとう。」

JES には強烈な初恋襲来だ。クールで女性に惑わされることもない JES が、外国人のそれもかなり年上の女性に、一瞬で恋に落ちるなんて信じられない。日常に戻れば忙しくなるし、きっと時間が解決してくれる。メンバー全員の意見は一致している。

@濟州島

COCO は朝から買物三昧だ。ソウルはハイブランドのショップが揃っているのでバカンスファッションをゲットする。相棒はアレックスだ。彼は女性のファッションに詳しい。

「アレックス、マリンファッションはどこがいい？」

「今シーズンはエンポリオかな。セリーヌやトリーバーチもいいよ。」

さっそくクルマに乗り込み、ブランドショップが並ぶエリアに。COCO は迷わずに気に入ったものを買う。エンポリオではパーカーにホットパンツ2セット色違い、速乾性のセットアップ2組。セリーヌではブラウスとひざ丈パンツを色違いで2セット。トリーバーチで赤とゴールドのミュール。フェラガモでサマードレスにブラウス、サンダル、サングラス。スイムウエアはラ・ペルラでブラックとホワイト2着。プラダでキャップとリュックを赤と黒2セット。アレックスのアドバイスは適確だから楽しい。クルマに積み込み、午後便に間に合うように荷造りだ。12時にロビー集合。国内線で1時間ほどの濟州島に出発。

空港を降りるとリゾートの香りがする。迎いのクルマに乗り込み、30分ほど走った南端が別荘だ。

広い敷地にガラス張りの別荘があった。裏手はプライベートビーチがあり大型クルーザーと水上バイクが待機している。プールとテニスコートもある広い庭は手入れされた植物が美しい。エントランスから続く室内庭園。大きなリビングにプロ仕様のダイニングキッチン。50名程のパーティができる広さだ。離れにはスパにサウナ、ミニコンサートもできる音楽ホールがある。階段を上がると各部屋バスルームとドレスルームがある客室が6部屋。すべてオーシャンビューだ。

「JUNO ってやっぱり御曹司だったんだ。」

「韓国は小国だからね。たいしたことありません。」

「海に出ようよ。釣りに水上バイク、ダイビングなんでも・・・」

メンバーは荷物を置いてさっそく大型クルーザーに乗船だ。専属クルーが4名。COCO とジェシーは水上バイク。アレックスとJUNO はフィッシング。RON とダニーはダイビングだ。

「夕食は濟州島三昧で行こう。」

金浦空港にBPMのメンバーが入る。搭乗口はファンでいっぱいだ。さすが韓流アイドルグループ、すごい人気だ。確かにかっこいい。

これから撮影のため濟州島に向かう。宿泊は社長の別荘だ。広大な敷地に3棟の別荘が立っている。移動はカート。練習室も完備され合宿にも使われる。

「今回は東側の別荘は来客があるので夕陽が美しい西側だ。」

JES は早く撮り終えてソウルに戻り、COCO さんが帰国する前にもう一度会うつもりだ。

TEAM A-MIX のメンバーは朝からクルーザーに乗り込みマリンスポーツ三昧。クルーは元海軍なので指導者としても最高だ。何ととっても船上のネイビーバーガーが美味しい！夕陽とともに戻り、スパを満喫。今日は街のレストランに行く。

濟州島は海鮮が最高。人気の居酒屋に。

別荘の支配人から

「皆様はソウルに来て数日で有名人です。目立つ容姿もあって、ソウルほどではありませんが、かなり人が群がるのではないかと心配です。ガードマンをつけますので指示に従ってください。」

クルマを降りてから市場を歩いて店に向かう。そこを支配人は心配しているようだ。

そういわれても好奇心だらけのメンバーには難しいお願いだ。

クルマを降りると COCO はマルシェに飛び出していった。韓国ならではの食材が通路にまで飛び出している。広い通路には屋台が並び、雑貨が陳列、洋服が吊り下がっている。

「ダニー！ COCO を追っかけろ。」

観光客に追いかけられながら、何とか無事に居酒屋に入る。COCO はうさぎの耳がついたカチューシャに星型レンズのサングラス、きらきら光るブレスレット姿でご機嫌だ。店内は騒然。一斉にカメラを向ける。ビジュアルはもちろん、すでに SNS で話題の人物がまとめて来店だ。奥の個室に通されるまでもみくちゃだった。

たとえ騒がれたとしても、極上の美味しさには代えられない。濟州島グルメを堪能した。最後に店内で大勢のスタッフや客と記念撮影。5分もしないうちに写真と記事がアップされるだろう。

今日は最終日で明日はソウルだ。COCO はスパでのんびり。MENS は水上スキーを楽しむので海へ。真っ黒に日焼けしてさらにオトコマエ揃い、引き締まったボディでまるで水着の撮影だ。

この敷地には3棟の別荘があり、カートで回れるとのこと。中央に大きなプールとパーティや撮影に使われる一面ガラス張りのホールがあると聞いた。もちろん敷地内は完全警備で安全だ。

さっそく水着の上にパーカーとホットパンツ。サングラスにキャップ、ミュールと先日ソウルでゲットした新作で決める。朝の空気は最高だ。

5分程で到着！ガラス張りのホールにグランドピアノがある。そういえばここ数日ピアノに触っていない。

COCO はホールに入り、コンサート用のグランドピアノを弾き始める。

冬季オリンピックのPVの曲、ベートーベンのアレンジだ。

きちんと調律されたいい音だ。重めの鍵盤はCOCO好み。低音の響きがいい。続いてラテンにアレンジした乾杯の歌。いままで制作したPVの曲を続けて弾く。まるでライブだ。

庭中に美しい旋律が響く。いつの間にか別荘のスタッフが集まってきた。

ホールに近い練習室。休憩で庭に出ていたスタッフの耳に美しいピアノの旋律が聴こえた。BPMの撮影チームが滞在している。

「ホールからだ！行くぞ。」

BPMのメンバーが一斉にホールに向かって走り出す。先頭はもちろんJES。

COCOは気持ちよく弾き続ける。そしてJES氏とのコラボ曲のBPMのメドレーを一気に弾いた。聴衆と化したスタッフにとっては最高のご褒美だ。最後にSTAY WITH ME。イントロを弾き始めるとやわらかい歌声が・・・JESがいた。

いつの間にか曲に合わせて聴衆が手拍子を。まるでライブ会場のようだ。

「JESが惚れるのも無理ないよね。才能って人を惹き付ける。彼女のピアノで歌ったら、俺だって一瞬で惚

れる。」

「またここで会うなんて運命を感じるね。」

「あまりにも辛すぎるな。JESにはきついよ。」

メンバーはありえない偶然過ぎる再会に、かえってJESが気の毒に思えた。

「こちらには？わたしはJUNOのおかげでちょっとした休暇です。JESさんは？」

「撮影で近くの棟に滞在しています。ピアノを聴いてすぐにわかりました。ここまで走ってきました。」

「数日弾いていなかったの…勝手に入ってしまいました。そうしたら皆さんが聴いてくれたようです。もう1曲行きましょう。好きな曲は？」

「YOU ARE MY EVERYTHINGを。俺の気持ちです・・・。」

あら、好きな人がいるのね。

「ではスタンダードな譜面で行きますね。」

COCOはJESの音程に合わせてアレンジを加える。いつもとは違う、伸びる甘い高音に、うっとり聞き惚れる。

「JESの新しい魅力だね。こんな高声が出るなんて知らなかった。」

「伴奏によってうまく引き出されたんだ。こんな甘い声、聴くだけでグラッとくるね。」

「この声に合う楽曲を作りたいね。」

COCOとJESはお互い熱い視線を交わしながらの演奏だ。まるで恋人同士のセッションだ。

SNSで恋人？と書き込まれるのもアリだ。

甘いラブソングを終えた途端に割れんばかりの拍手が2人を包みこんだ。

「ありがとう、COCOさん。また会えてうれしい。もう会えないかと思っていたから。」

「明日ソウルに戻ります。帰国は週末かな。」

「あの一これ俺の携帯番号です。時間があるときに連絡くれませんか？帰国する前にどうしても会いたいから。」

「是非、もう一度セッションして、食事でもしましょう。」

「絶対ですよ。」

立ち上がったCOCOを見てJESは顔が赤くなった。ヨットパーカーとホットパンツ、そして水着。

「これからプールで泳いで戻ります。今日はありがとう。撮影頑張ったね。」

そうやって美しいフォームでプールに飛び込んだ。JESはCOCOの水着姿にドキドキだ。どうか連絡してくれますようにとJESは心から願った。

最終の夜。COCOたちが滞在している別荘の支配人に、別棟の支配人から連絡が。

「こちらにはBPMの撮影クルーが滞在しています。そちらは今日が最後の夕食ですので、プールサイドでクルーも交えてBBQパーティはいかがでしょう？食材やアルコール全て用意しますので。」

「はい、楽しくなりそうですね。アルコール類はJUNO様の指示でお客様の好みを用意してありますのでこちらで準備します。食材の仕込みはマリンのクルーに。サーブは別荘のスタッフ総出ですね。即準備に取り掛かりましょう。」

COCO が庭で休んでいると、マリチームが戻ってきてプールに飛び込む。

「おかえりなさいませ。JUNO 様。今日は最終日ですのでセンターの棟から BBQ のお誘いです。スタッフ総出で準備します。いかがでしょうか？」

「それは楽しみだね。是非クルーもスタッフも全員参加してください。」

センターには誰が滞在しているのかな。大人数だから COCO もメンバーも大喜びだな。

JUNO がスパに向かうと庭師が興奮気味に

「JUNO 様、先ほど素晴らしい演奏を聴きました。ホールで女性がピアノを弾いて、その音にひかれてスタッフが聞き惚れていると、そこに BPM のボーカルと一緒に歌って。生演奏ですよ、最高に幸せでした。最後のバラード、2人の姿が本当に素敵でした。」

「BPM？JES？なんでここに？」

「撮影で西棟に滞在中です。ピアノを聴いて走ってきましたよ。」

ここで会うなんて。余程縁があるのか。

今日はピアノも弾いたし、泳いだし、BPM の撮影クルーも一緒に BBQ なんて最高だね。JUNO がスパにいるから行こう。

「JUNO、隣りいい？」

「おーCOCO か。いいよ、マッサージ？」

「うん。」

「ピアノ弾いたって？」

「うん、観客もいっぱいいたよ。それに BPM がいた。楽しかったよ。」

「JES が歌ったの？」

「うん、やっぱり JUNO のアレンジした高音がいいね。今までにない声が出ている。楽曲作ればいいのに・・・。」

「頼まれたら考えるよ。」

「BBQ はビールサーバーやワインがたっぷりだね。久しぶりにイタリアワインがいいな。」

「COCO の好みで用意してあるから。」

「さすが JUNO！わたしのことは何でも知っている。」

「ずっと一緒だからな。」

「そういえば昔、わたしの結婚式で演奏してくれるって言ってたね。JUNO が新郎で自ら演奏したらカッコいいね。」

「そうだな。」

俺はいまそうなることを願っているんだぞ。学生時代からずっと一緒に同じ方向に進んできた最高のパートナー。COCO 以上にわたしを理解してくれる女性には巡り合えない。そして自分以上に COCO を理解できる男は世の中どこを探してもいない。だからずっとふたりは一緒にいなくてはだめだ。ずっとずっと。

18時半、地平線に日が沈む頃、クルーの運転する大型カートに乗り込んで通称センターに。BPMの撮影クルーはすでにBBQ体制だ。

魚介、肉はネイビー出身のクルーが華麗な包丁さばきで下ごしらえ。女性スタッフは野菜の切り分けを終えている。炭の具合もちょうどいい頃合いだ。3台のビールサーバーから次々ジョッキに注がれる。全員の共通言語が英語というのもありがたい。

JUNOによる乾杯の合図で50名規模の宴が始まった。クルーは韓流スターのBPMに、いま話題の中心であるTEAM A-MIXを迎えて大興奮だ。

何を食べても美味しい、誰と話しても楽しい。濟州島にいるのがうれしい。

COCOはTEAM A-MIXのメンバーと仕事ができて幸せだ。何もかも彼らのおかげ。NYからバルセロナの移転、今回のソウルをはじめ海外での仕事、欧米各国からのオファー、まだまだ新しいことをする気満々。

「アレックス、あっちのベンチで酔い醒ましに夜風にあたってくる。」

COCOはアレックスに声をかけてから、酔いを醒ましに庭のベンチへ。夜風が気持ちいい。まだまだ宴は続く。

JESはCOCOを探しキョロキョロ。ベンチに向かうCOCOを発見！急いでミネラルウォーターを持って追いかける。

「COCOさん、ハイ、水をどうぞ。」

「JESさん、ありがとう。携帯持っている？」

JESはCOCOに携帯を渡す。

「わたしの携帯番号を入力しますね。ソウルでご飯食べようね。韓流スターは超多忙だから難しいかも。無理しないでね。」

「どんなことがあっても必ず時間を作りますから。携帯番号ありがとうございます。酔い冷ましに少し歩きますか？」

JESはCOCOと並んで歩いた。

「JESさん、韓流スターの日常ってどうなの？すごく忙しいって聞いた。アジアツアーも多いって。」

JESは近々のスケジュールを話した

「えー！すごいタイムスケジュールだね。JESさんの1週間をこなすのにわたしたちだったら1カ月かかるな。バルセロナに移転するからもっとゆっくりかも。」

「バルセロナに？どうして？」

「NYではやり尽したかなと。もっとじっくりクリエイティブに向き合いたいから、NYみたいに世界のすべてが集まっているより、そこにしかないモノやコトを求めたくなった。」

「チーム全員で？」

「うん。全員がそれぞれ最上級だから、パワーが何十倍にもなる。最強だよ。JESさんにとってのメンバーもそうでしょ。一人でできることなんて小さい。みんなといるから個人の活動も一流でいられる。うちのメンバーはモデルや演奏家、クリエイターとしても個人で十分一流。でも一人になったらそこまでは光らないかもしれないってわかっているんだ。チームっていいよね。」

それを束ねているのがCOCOさんでしょ。

JESはそうつぶやいた。

「BPM って素敵ね。韓流だけどヒスパニックの香りがする。もちろん、それなりに魅せるパフォーマンスは必要。でもアジアで最高に人気なんだから十分だね。アジアはツアーがメイン、欧米はMV がすべて。その違いがあるよね。撮影頑張ってるね。」

「いつか COCO さんと仕事がしたいです。」

「JUNO にアプローチしてみたら？彼の担当だから。」

JES はパーティに戻ってから COCO から目が離せない。2人でいた時間は最高に幸せだった。それに携帯番号を教えてもらってわずかな可能性があるかもって・・・ルンルンだ。

「COCO、酔いは醒めた？」

「うん、JES 氏にうちのチームはサイコーって自慢した。今度仕事がしたいって言うから JUNO に話してって言ったよ。」

「COCO は彼とやりたいの？」

「わかんない。BPM はヒスパニックの香りがする。でもアジアのトップスターなんだから十分でしょ。」

「確かに・・・。欧米にチャレンジするなら別けどね。」

「BTS みたいに？」

「とりあえず今晚は食べて飲んで楽しもう。」

年下君は完全に COCO に惚れたな。いまもずっと見ている。

COCO さんの隣にはいつも JUNO さんだ。公然のカップルとも噂されている。ただのメンバーであって欲しい。

「さすがの JES も JUNO さんにはかなわないよな。あのふたりは本当にベストマッチ。俺たちから見てもカッコいいし、演奏は最上級。同性から見ても JUNO さんは超一級だ。」

COCO が買物をしたいというので夕方の便でソウルに戻ることに。

「まだ何も買物していないんだもん。」

「何が欲しいの？」

「調味料！食材！帰国してからも韓国料理作ってもらいたいもん。いいでしょ！」

「はい、はい。」

メンバーと料理長と市場に。シャッター攻撃のなか、店でも開くのかと思うほど食材や調味料、餅や麺を買い込む。COCO のお気に入りトッポッキとチヂミでランチ。最後は店内でスタッフや客と写真撮影。凄い人気だ。別荘での演奏もしっかり SNS にアップされていたし・・・。

夕方ソウルに戻ると金浦空港は人、人、人の渦だ。従業員出口からクルマに乗り込む。

「ハリウッドスター並みだね。空港を抜け出すなんて・・・。」

「毎日 SNS でダダ漏れだから。昨夜のパーティは上がってなかったね。」

「支配人が厳しく言い渡したらしいよ。そのかわり全員と写真撮影したけどね。」

「BPM のファンに殺されるよね。良かった。」

「メンバー全員がいつの間にか FASHIONISTA として写真や記事がたくさん上がっているよ。プロの解説まである。」

「あと数日の辛抱だね。さすがにブルックリンが恋しい。」

「明日、オフィスに来て欲しい。10 時頃どうかな。」

「メンバー全員で？俺だけ？」

「できれば全員で。君たちは全員一致でないと仕事を受けないと聞いているから。」

「確かに。一人でも反対すればすべて断る。COCO が賛成すればだいたい決まるけど。」

「よろしく頼んだぞ」

JUNO に父親からの電話だった。

ソウルからの依頼

「COCO、明日 10 時に親父の会社で打合せだけどいい？」

「ピアノ弾きに行くから朝からいるよ。打合せファッション了解！」

JUNO の号令で明日打合せに向かうことになった。メンバーは全員練習室で演奏したいらしい。

「久しぶりにみんなで演奏しようよ。あそこの練習室なら、ドラムもピアノも全てあるし、クラシックのアレンジバージョンやろう。」

ジェシー、アレックスは、ソウルで十分演奏していないので楽器に触れたい様子。

「明日 8 時にクルマお願いします。打合せ終わってからヒスパニックもやってみよう。」

やっぱりみんな音楽がたまらなく好きだ。

8 時の予定が 7 時にはみんなロビーでワクワク待ちきれない。結局 7 時過ぎに練習室に到着。さっそくウォーミングアップだ。

さあ、セッション開始。

ピアノ、ギター、ベース、ドラム。バイオリン、チェロ、サクソと曲に合わせて自在に演奏する。ベートーベン、ショパン、リストが現代に蘇る。圧巻の演奏にビルのあちらこちらから人が集まってきた。いつの間にかビデオカメラに音響マイクと、歌番組のライブ中継並だ。

TEAM A-MIX のメンバーはお構いなしに続ける。音が絡み合い、重なり合う、最高のシンクロナイズ。

社長をはじめ幹部も聴き入っている。

JUNO の合図で演奏は終わった。

「そろそろ 10 時、打合せの時間だ。」

「了解。久しぶりに燃えたよ。相変わらず俺達って最高だよな。」

ジェシーがうれしそうに叫ぶと、ものすごい拍手と歓声が起こった。

「演奏はもちろん素晴らしい、それ以上に彼らそのものが魅力的なんだ。個性が重なり合うことでより一層魅力が引き出されていく。」

社長は何としてでも彼らに仕事を依頼すると決心した。

10 時、ミーティングルームに TEAM A-MIX の 6 人と社長、制作部長である JUNO の兄、あと通訳を兼ねて 2 名程が参加。

「毎日動画が拡散して、あっという間にスターですね。確かにすべての演奏が超越している。比較できるアーティストはここにはいません。先ほどの全員の演奏はすぐレコーディングしたい。本格的な器材で撮影しましたので許可していただければ社内ビジョンに流したいのですが。いかがですか？」

「断ってもすでに動画はアップされているでしょう。どうぞお好きなように。」

と JUNO はさらりと言った。

「ありがとうございます。」

「是非、弊社のアーティストの MV をお願いしたい。欧米でデビューを考えています。」

「新人？やらないよ。」

「いえ、BPM です。COCO さんいかがですか？」

「確かにヒスパニックの雰囲気は持ち合わせていると思う。メンバーがやるというなら是非チャレンジしてみたい。」

「バルセロナへの移転が決まっているので、ソウルとは遠距離で難しいかもね。どう？」

「撮影環境をクリアして、設備や機材に互換性があれば問題ないよ。あとはできるデジタルスタッフかな。」

「デジタル面は可能だとして、BPM の MV に興味あるか、やってみたいかなあ。みんなはどう？JUNO は？」

「韓流式がどこまでヒスパニック系に通用するかな。COCO」

「ラテン系の容姿がキレキレに踊っても驚かないけど、韓流スターが美しい鋼のボディであれだけの踊りを見せたら話題性がある。それにあのシンクロナイズは韓流式と言ってもいいほどオリジナル性があるって BTS を見て感じた。BPM はラップが最高。英語とスペイン語のラップを入れて、メロディ部分は英語で。振り付けはマイアミに依頼しよう。アクの強いブラックとは違う東洋の美しさにヒスパニックのパッションが入ればいいかも。パートごとにヒスパニック系のダンサーとカップルダンスもありか・・・」

「COCO の構想が出てきたな。どう？」

「COCO がやるなら OK！」

「全員一致でやる方向で・・・。」

「契約書はこちらに・・・。帰国まで契約を結んでいただければいいのですが。」

「わかりました。法務担当をソウルに呼びますので・・・。ちょっと連絡してみます。」

COCO は NY の兄に連絡する。

「KEI、COCO ソウルから。NY？ソウルで仕事の依頼があるんだけど、いつも通り契約の方はお願いできる？いつソウルに入る？スピーカーにするね。」

「プライベートジェットの着陸地点のデータが知りたい。明日の夜には入れると思う。時間がはっきりしたら連絡する。ソウルと言えば JUNO だな。夕飯おごれって！あと部屋も押さえるように。」

「データとやらは JUNO からメールに入れておくね。待ってる。」

「KEI、待ってるよー」

「ダニーか・・・明日な。」

COCO は電話を切って、

「お聞きの通りです。明日の時間がはっきりしたら連絡しますので。」

「プライベート機ですか。さっそく調べて連絡します。」

「契約の方は兄に一任していますので。それでは。」

メンバーは KEI に会えると大喜びで部屋をあとにする。

「COCO、ランチ何にする？」

「辛いトッポッキ！」

「行こう。」

JUNO の兄がボソッとつぶやく。

「プライベートジェットで NY からソウルに入り、妹の契約を一任された兄貴って何モノ？こちらの想像を

超えるグループだな。」

COCO たちがエレベーターを降りると、すでにエントランスホールのビジョンに今朝の演奏動画が流されていた。

契約についての打合せは翌々日 18 時に決まった。空港には迎えのクルマが待機する。ソウルサイドの契約内容を吟味、すり合わせることになる。

14 時から TEAM A-MIX のラテンセッションが始まった。濟州島から今朝戻った BPM 全員が、最前列で観賞する。

たいていの音はデジタルで制作できる時代、楽器と生歌の演奏をリアルに聴く機会が減少している。若い世代のアーティストにとって、厚みのある生演奏はすごく新鮮だ。

「彼らの演奏で歌ってみたいな。生演奏をアレンジして曲を創り上げて、データにすると、やっぱり重厚感がある。ここ数年デジタル音に慣れているから新鮮だ。」

「そろそろ帰国みたいだね。なんでもうちの事務所と契約するらしい。」

「あと 4 日はソウルにいと総務が言ってたよ。飛行機の予約でわかるかも。」

「JES は COCO さんとデートできるかな。」

TEAM A-MIX による演奏が終わり、KEI のソウル入りに合わせて、メンバーそれぞれの条件を確認するためのミーティングだ。

「いつも通りでいいよ。特別加える項目ってある？ JUNO。」

「韓流スターは超多忙。いつまでに仕上げるかはきちっと決める。そうしないと俺たちのスケジュールが決まらないから。仕事内容に関してはキックオフの前に決める。誰をキャストするか、撮影場所、期間、経費全般の負担など。合わなければ決裂ということで KEI に委ねよう。ミーティングは俺と RON で行ってくる。KEI の迎えは COCO と行く。」

「お願いしまーす。」

ともだち以上恋人未満

今日のはのんびりスパに行きたいな。相当疲れているみたい。

「JES です。」

「あら、さっきスタジオにいたね。戻ってきたんですね。おかえりなさい。」

「今日はお時間ありますか？デートしましょう。行きたいところありますか？」

「繁華街を歩いて、韓国料理が食べたい。でも JES さんはスターだから無理かな。」

「夜はわからないですよ。COCO さんもキャップとサングラスを忘れずに。ホテルに 18 時に迎えに行きますね。」

「あらあと 1 時間、着替えないと。では駐車場だね。」

わー韓流スターとデート。ソウル最高の思い出だ。写真を撮ろう、絶対に。

COCO はグッチの花柄ブラウスに白いサブリーナパンツ、赤のミュール。シャネルのリュック。白のキャップにサングラス。ピアスはパール、香りはすっきり ENVI で。

18 時、地階の駐車場に大きなワゴン車が停車。扉が開いたので COCO が乗り込むと JES が手を引いた。

「COCO さん、ありがとう。時間があってよかった。」

「JES さんのファンに追いかけてられませんように。恨まれそうで・・・。」

繁華街の明洞の入り口でクルマを降りた。多くの人でにぎわっている。

JES は白いブラウスにブラック×グレーのストライプパンツ。白いハイカットスニーカーはルイヴィトン。サングラスが決まっている。長身でどうやったって目立つ。ともかくかっこいい・・・。ミュールでダッシュが効くかな。COCO は不安だ。

JES は COCO の手を握り、人込みを歩く。

COCO はアレックス絶賛、揚げたてのホットクが食べたいけど、JES といたら無理そう。

「揚げたての野菜ホットク 2 つください。」

「え？なんでわかったの？」

「食べたそうにしていたから。」

屋台の主人は気付いたみたい。すかさず JES が口に人差し指を当てて

「シー。知らん顔して。」

すると主人はサムアップで返した。

グレープフルーツジュースも絶品。

「COCO さん、プリクラ撮りましょう。」

「えーそろそろ JES さんってばれますよ。」

「そうしたらダッシュで逃げましょう。あそこがプリクラ館です。」

何とか追いかけてられずにプリクラマシンの中に・・・。韓国のプリクラは凄い！イラストや背景が選べ放題。30 分は 2 人ではしゃぎまくり。まるで学生だ。

「さて、食事に行きましょう。ここからすぐです。」

JESはCOCOの肩を抱いてかばうように速足で歩きだす。通り過ぎるJESに振り向く人もチラホラ出てきたようだ。路地に入りビルの2階、韓国料理の店に入る。店内は半分ほど席が埋まっている。客に気付かれる前に奥の個室へ入った。

「はあ、なんとか大丈夫でしたね。」

「振り向く人もいたのでギリギリだったかも。そろそろばれそうでしたよ。」

「COCOさんも有名人なんですから、お互い様ですよ。」

「JESさんはオーラがあるけど、わたしは一般人ですから。」

辛いトッポッキ、キムチ鍋、チヂミに韓国焼酎。最高に美味しい。

COCOとJESの話題はもちろん音楽だ。

「さっき会社から電話があって、もしかしたらMV制作をTEAM A-MIXが引き受けてくれるかもしれないって。」

「うん、契約の件でNYから兄貴が来る。チームの条件に付いてはいつも通りにJUNOに任せているし。」

JESさん忙しい？時間あれば一緒に食事しない？チームを改めて紹介したいし。BPMのメンバーと是非。」

「歌番組の収録は午後2時頃には終わると思う。連絡します。」

「BPMってヒスパニックの香りがする。東洋系なんだけドラテンの雰囲気がある。それにヒスパニックになり魅力がある。」

「そうですか？うれしい。」

「アメリカ人口の17%を占めるヒスパニックを十分に惹きつける才能はある。もちろんそのために創り上げる必要はあるけどね。そこがBPMの追求する形に合えば組めるかもね。」

「構想はあるんですか？」

「わたしのメンバーそれぞれ構想があるので、そちらのメンバーと意見交換するのも面白いと思って。」

「COCOさん、そろそろ帰国でしょ。俺には時間がない。聞きたいことがあります。」

「はい。」

「恋人はいますか？好きな人は？」

「恋人はいません。素晴らしい友人に恵まれているのであまり必要としないのかも。」

「COCOさんを想う人はいままでたくさんいたでしょ？」

「ずいぶん前に、想いを伝える前に終わってしまうと言われたことはある。」

COCOはチヂミを頬張り、キムチ鍋に汗をかいて、焼酎を飲む。幸せだ。

「COCOさん、俺の恋人になってください。出逢った瞬間からひとめ惚れ、初めての気持ちで自分がわからないくらいです。」

COCOはびっくりして咳きこむ。ゆっくり水を飲み、そしてJESの視線にしっかり合わせる。

「ありがとう。韓流スターにこんなこと言ってもらえるなんて最高よ。とてもうれしい。いつもそばにいて、触れられる。好きだって言われたい。そして時間と記憶を共有するのが恋人だと思う。JESさんとわたしはそれが無理でしょう。それにあなたはアジアのトップスター。各国ツアーで回っているし、韓国では分刻みの仕事。愛を育めるとは思えない。それに何よりわたしはかなり年上よ。環境が違い過ぎる。」

「俺は恋をする前に失恋するってことになる。そんなの絶対に嫌だ。恋にはきつといろんな形があるし、始める前から諦めたくない。それに遠距離の年下だから付き合えないなんて法律はないでしょ。せめて恋人候

補にして欲しい。友達以上恋人未満では？」

「ゴシップになったらスターは致命的よ。」

「かえって公になったほうが堂々とできるし、ソウルでのゴシップなんて、遠距離なら COCO さんに迷惑もかからない。俺のことが嫌いなら仕方ない。」

「JES さんの素晴らしい才能に憧れるし、男性として素敵だと思います。セッションも濟州島の散歩も今日のデートも胸が高鳴ったのも事実。そしていまの告白はとってもうれしい。もう少し近くにいる、同じ年代だったらと思います。素直に喜べないの。」

「友達以上恋人未満で、可能性を残して欲しい。それといつでも連絡できる権利を俺にください。いまはそれで十分です。」

COCO は顔が熱く、心臓がドキドキする自分が信じられなかった。とってもうれしい！叫びたいくらいだ。彼にときめいたし、もしかしたら好き？と思うこともあっただけに最高だった。まさか彼がわたしを好きななんて・・・たまたまだったのかもしれない。そのうち可愛い彼女ができる。MV だってきれいな女性と濃厚なラブシーンを演じているし、いつでも恋する環境にある。年齢も年代もかなり違う。勘違いさせないで欲しい。どうせすぐに終わる想いなら友達以上恋人未満を楽しんでもいいかも。いずれフェードアウトするのだから。

「バーに行きましょう。お腹は満足しましたか？」

「はい。」

店の外に出るとシャッターが一齐に。JES だとぼれてしまったらしい。JES は COCO を抱きかかえてかばう。そこにクルマがクラクションとともに停まり 2 人を乗せた。JES の懐は深く COCO をすっぽり包み込む。COCO はドキドキが一層強くなった。

クルマは COCO の滞在しているホテルへ。

「このバーに行きましょう。静かで照明も暗めです。」

いつもメンバーと行くバー。今晚は誰もいないようだ。

COCO はジンライム、JES はウイスキーの炭酸割りをオーダー。スタッフは COCO と JES に気がついたようだが、立场上特別なリアクションはナシだ。

「COCO さん、友達以上恋人未満の提案を受け入れてくれますね。」

「はい。電話の権利とともにお受けします。」

「やったー。勇気を出して本当に良かった。出会ってからずっと悩んでいたんです。可能性があるだけで十分満足です。ありがとう、COCO さん。」

こんなに喜ぶなんて可愛い。見れば見るほどいいオトコだ。明日 KEI に相談してみようかな。JUNO やメンバーはどうせ無理だからやめろっていうだろうな。

30 分程経ってから、聞き慣れた声。メンバーのご来店だ。

「COCO、どうしたの？ボーカルの彼もいっしょ？」

「そう、今日彼と明洞ってところをデートしたの。」

「彼目立つから追いかけれなかった？」

「ギリギリで逃げ切った。」

「いや、しっかり SNS トップだよ。ほら」

携帯画面には韓国料理の店を出たときに撮影された写真が・・・。ダニーによると

「JES 明洞デート、相手の女性は誰？」

「TEAM A-MIX ??? 紅一点、JES との関係は？」

と書かれているらしい。

「COCO ってわかるのも時間の問題だね。JES の周囲だったらわかるし、アップされた動画と同じ赤毛だしね。トップスターと記事になるなんてソウルでのいい思い出だね。」

「JES さん、ごめんなさい。明洞ってお願いして迷惑をかけてしまったようで。」

「光栄です。俺は最高に楽しかったし、デートに誘ったのも俺だし。」

「JUNO はまだ親父と兄貴と打合せしている。JUNO 的にはソウルの仕事は、いまいち乗り気じゃないみたいよ。」

「そうなんだ。まあ彼に一任したから。」

なんで JUNO さんは乗り気じゃないのかな。まさか COCO さんに惚れている俺に原因があるとか・・・。

JES にマネージャーから連絡が入った。

「COCO さん、ここも騒がしくなりそうなので俺は戻ります。これ以上迷惑をかけられませんから。夕食は調整してメンバーと行きますので連絡します。皆さんとお話できるのを楽しみにしています。では失礼します。」

JES は全員の会計を済ませてバーをあとにした。

記事によって COCO さんとの仲は既成事実になった。JES はルンルン気分。宿舎に戻ったらみんなに報告だ。

「SNS の記事見た？」

「JES、明洞に行ったの？大胆だな。」

「COCO さんが行きたいというから。めちゃくちゃ幸せだった。プリクラたくさん撮ったし、携帯でツーショットも撮った。」

JES はメンバーに COCO との携帯写真と、プリクラシールをベタベタ貼った携帯電話を見せた。

「それに告白もした。」

「えー。撃沈した？慰め会やる？」

「いや、友達以上恋人未満になった。電話もいつでもかけていいとも言われた、すごくない？」

「友達以上恋人未満ねー。明日から当分騒がれそうだな。いままで何の噂もなかったからいいかも。好きな人との記事だし。」

「TEAM A-MIX から夕食誘われたから全員参加ね。」

「うわーうれしいな。いろんな話が聞きたいな。メモしておこう。」

COCO はなかなか寝付けなかった。心臓の鼓動は速く、顔も火照っている。すごーく久しぶりの恋？まさか

ね。あんな素敵なスターと一緒にいたからファン感覚でドキドキしているんだ。そう言い聞かせているとメールの着信音。

(COCOさん、今日は本当に楽しかった。いまはまだ恋人未満だけど、COCOさんの隣は俺の指定席って確信したから。ではおやすみなさい。JES)

返信できないよ。なんて返事したらいいかわからない。わたしこそ戸惑っているよ。COCOはメールを見なかったことにする。

朝からだるい。KEIを迎えに行くまで部屋で休むことにする。

「COCO、知り合いのドクターに往診に来てもらうから。」

JUNOがいて本当に救われる。今日はBPMとの会食もあるので早々に復活しないと。

ドクターによって点滴と注射。午後にはカラダが軽くなった。診断は極度の疲労にカラダが悲鳴をあげているとのことだ。

「COCO、いろいろと無理していたんだよ。明洞デートでひと騒ぎだし……。無理するなよ。帰国してからスケジュール詰まっているんだから。」

「JUNO、ありがとう。気をつけます。」

17時にプライベートジェット専用の飛行場へ。何機ものジェット機が並んでいる。見慣れた飛行機からスーツ姿のKEIが降りてきた。今日はトムフォードだ。

「JUNO、COCOお疲れさま。ありがとう。」

「KEIも遠くまでありがとうございます。いきなり契約と言われても、ハイわかりましたと即答できない。身内だからこそわかるんだ。」

「どっちにしろ、チームの契約はうちで管理しているから。ソウルの大手事務所に信頼できる同期がいるし細かい詰めは頼める。さあ行こう。」

エスカレーターに乗り込む。

「仕事を選ぶCOCOやJUNOが、組んでもいいと思う魅力的なアーティストがここソウルにいるの？」

「うん、今晚うちのメンバーと一緒に食事することになっているから会えるよ。」

「楽しみだな。COCO、顔色が良くないぞ。母さんが心配しているから電話しろよ。そんなに無理して働かせるなと怒られたよ。JUNO頼んだぞ。」

クルマは30分ほどでビルのエントランスに停まった。

「ここで18時からKEIと俺は打合せです。COCOは戻っているよ。終わったら連絡する。会食はBPMがいるのでホテルのレストランを貸し切りにした。」

「ありがとう。」

2人と別れたCOCOは少しだけピアノを弾きたくって練習室へ。回復にはこれが一番。

今日は大好きなBTSのアレンジで。DYMAMITE、STAYGOLD、BLACKSWAN、DNAを一気に弾く。

あー気持ちいい。

いつの間にかガラス越しに人だかりができて、弾き終わると同時に拍手喝采だった。そこへ人をかき分けてJESが入ってきた。

KEI と JUNO は契約の件でミーティング。ソウルサイドの要望と条件を聞いて、こちら側の要望を提示する。双方持ち帰り明日最終の打合せということになった。KEI は韓国の大手弁護士事務所に所属するロースクールの同期に詳細は一任することを告げた。

「了解しました。ソウルにもお知り合いがいるとはさすがです。こちらがいきなり依頼するのは TEAM A-MIX の実力をまざまざと見せつけられたからです。仕事を選ぶことも知りました。ですからソウルにいる間に何とか了承を得られるようにと必死です。ありがとうございます。」

「JUNO がいてもですか？」

「はい。仕事となると親子もありません。」

「彼らはやるかやらないかで決めるようで、基本的に報酬や先方の条件には関心を持ちません。ですから著作権を始め、わたしが一任されています。ではこれから同期の事務所で最終確認をします。明日またお会いしましょう。」

JES はピアノを弾く COCO を背後からそっと抱きしめた。演奏の余韻に浸る観衆は JES に驚く。

「今日も練習ですか？COCO さん。」

「KEI を飛行場からここまで送ったついでに。収録は無事に終わりましたか？今日の食事会の詳細は JUNO から連絡があると思います。」

「メンバーは楽しみにしています。」

「それはよかった。KEI も紹介します。仕事の件で NY からきています。」

「今日は BTS なんですね。」

「歌いますか？何を希望？」

「HOW CAN I LOVEYOU」

COCO の前奏が入り、JES は甘く切ない声で歌いだす。胸キュンな声だ。この声に惚れたのかな。

「このピアノは COCO だ。」

JUNO は KEI と練習室へ・・・。そこには伴奏する COCO と見つめ合いながら歌う JES がいた。

「ほう、COCO の伴奏に合わせて歌うなんて歌手かな？」

「はい。実力派のボーカルで、今回依頼のグループです。」

「いい雰囲気だな。JUNO に負けない声だ。」

JES はマジで COCO に惚れたのか？ソウルにいる間は仕方ないが早々に離さないと危険だ。

「COCO、帰るよ。今朝点滴打ったばかりなんだから、先に帰って休めって言っただろう？」

「JES さん、兄の KEI。こちらは BPM のボーカル JES さん。」

「素晴らしいセッションでしたね。あなたの声は心に響く。COCO の兄、KEI です。」

なんてカッコいい兄貴なんだ。まるでハリウッド俳優 K・リーブスだ！COCO さんの周りは凄いな。

「JES です。ソウルへようこそ。」

COCO さんが点滴？調子悪いのかな。ピアノの音は力強かったけど。

20時、ホテルのチャイニーズレストラン。BPM と TEAM A-MIX のメンバー全員に、KEI と同期の弁護士

KIM 氏、総勢 14 名が円卓を囲む。交互にそれぞれのメンバーが着席。COCO の両隣は JES と KEI だ。

「うわー韓流スターの BPM に話題の A-MIX が勢揃いなんて最高だ。サインと記念写真をお願いします。まさに特権だ！」

KIM 氏は興奮している。

「先程の妹のピアノと JES さんの声は素晴らしいカップリングでした。」

「COCO さんの伴奏と JUNO さんのアレンジはすごく歌いやすいんです。ぜひ仕事を組みたいと願っています。」

JES を皮切りにそれぞれ自己紹介。BPM のメンバーは両隣に座る A-MIX のメンバーに聞きたいことだらけ。音楽の会話が弾む。

ここの広東料理は最高に美味しかった。シャンパンと紹興酒も一級品だ。JUNO に睨まれながら COCO はしっかりピンク色の泡を堪能した。

KEI とメンバーは明後日帰国する。

「KEI、俺たちもプライベートジェットで一緒に帰るの？」

「どうせ NY に帰るんだから楽しい方がいい。」

「やったね。KEI のジェットは久しぶり。新作のゲームで対戦しよう。」

プライベートジェットってこの人たち何者なんだ。COCO さんの兄貴は弁護士だって聞いたけど……。それに彼らはちっとも驚かないし。スケールが違い過ぎる。JES は知れば知るほど不安になってきた。

JES の隣はジェシーだ。

「プライベートジェットって？」

「COCO のダディは世界的な投資会社の CEO、ロンドン支社には次兄。KEI は 3 か国の資格を持つ弁護士、マミーは世界的に認められた建築家。だからそれぞれの会社で共有するジェットがあると時間短縮になるから。それに俺たちも借りたことあるしね。」

「凄いですね。」

「そう？JUNO だって御曹司だし、俺たちのチームは環境が似ているんだ。だから引き寄せられてここまできているのかも。あと少ししたらブルックリンからバルセロナに移転する。COCO の号令でいきなり決まったのさ。」

「バルセロナですか。」

「環境を変えて新たにクリエイティブを育てるって大事なんだ、俺たちにとって……。」

俺はとんでもない女性を好きになった。これだから桁外れで才能豊かな彼女に惹かれたんだ。

音楽が共通話題の楽しい夕食会になった。「地階のバーでセッションしない？」

とジェシーが提案。

全員一致で決まった。KIM 氏は生演奏が聴けるとあって大興奮！

メンバーが楽器を持ち寄り、BPM は歌とラップ担当で決まりだ。待機しているマネージャーに動画撮影を依頼すると、JUNO の父や兄、会社の幹部数名がやってきた。マネージャーから聞いたらしい。ちょっとしたミニライブだ。曲は JUNO アレンジのメドレーだ。

COCO の合図で始まる。いつの間にかホテルのスタッフが鈴なりだ。

「このまま、MV にしたい。」

「動画までなら問題ありませんが、MV となると A-MIX は許可しないと思いますよ。彼らは徹してますから。」

はやる社長に KEI から、忠告ともいえるアドバイスだ。

BPM はそれぞれ歌がうまく、ハーモニーが素晴らしい。それになんといってもラップが最高だ。

TEAM A-MIX の楽器演奏は一流。彼らも歌いやすいはずだ。最後は JES の高音を生かしたアドリブで決めた。

観衆はただただ溜息……。我に返ったのか数秒遅れて大歓声と拍手が沸き起こった。

動画の反響によっては、ドキュメンタリーでストーリー性のある MV ができそうだ。相当話題になる。

社長は手応えでカラダが震える。

「すぐに動画を編集してアップしろ。反響が知りたい。」

スタッフに指示を出す。

あー気持ちよかった。MV 制作は面白くなりそうだ。

COCO のクリエイティブな脳を刺激する。

やっぱりクールよりパッションータだ。

その夜、動画がアップされた。

(BPM と TEAM A-MIX のコラボを実現して！)

(是非、レコーディングして欲しい。)

(ライブが観たい。)

(ミュージックビデオを制作して。)

などの書き込みが多く、予想通りだ。

明日、契約の打合せが順調に終われば、翌日帰国予定だ。

明日はお土産を買おう。調味料は売るほど買ったし、マミーには何がいいかな。ジェットには何でも持込み可。キムチとチヂミ、参鶏湯のパックに決めた。メンバーはそれぞれ別行動で忙しい。

JUNO は契約の件で仕事だし。

(COCO です。今日はみんな忙しいのでランチと買物に行きます。JES さんは仕事ですか?)

(12時にホテルの駐車場で。JES)

(お土産にキムチとチヂミと参鶏湯の真空パック詰めが欲しいです。)

(了解です。お店聞いておきます。)

わーい、JES さんとデートだ！何着て行こうかな。セリーヌの白いブラウスに、ホットピンクの7分丈パン

ツ。白のミュールにミニトート。サングラスはトムフォード。香りはデートだからチュベローズで甘辛く。

やったあ！また会える。ホテル近くの韓国料理店に行けば全部揃うって聞いたし。ランチもそこにしよう。広くて静かだし、マネージャーが予約してくれる。キャップにサングラスで歩くのもいいな。バレたらかえっていいかもね。公開デート気分で・・・。

12時に地階の駐車場にBPMのクルマが入る。扉が開いてJESがCOCOの手を取った。

「COCOさん、お誘いありがとうございます。俺も今日連絡するつもりでした。明日帰国と聞いたから。お土産の真空パックとランチは同じ店です。ここから近いので徒歩で行きませんか？」

「わたしは構わないけどスターのJESさんは大丈夫？」

「全然、堂々と行きましょう。」

キャップにサングラス、クラッシュデニムにレモンイエローのブラウス。プラダのハイカットスニーカーだ。眩しいほどにかっこいい！

エレベーターで地上にあがる。手をつないでホテルの外に出る。まるで恋人同士・・・。

「JESさん、こんなわたしと手をつないで大丈夫ですか？」

「大声で自慢したいくらいですよ。」

JESは思いっきり素敵な笑顔で、COCOに顔を近づける。

近い・・・COCOは思わず目をそらす。

大通りを歩いているうちに、周囲が気づき始めた。オーラは出まくりだし、高身長でファッショナブル。誰もが振り返るカップルだ。いつの間にか人に囲まれてしまった。するとJESはCOCOの肩を抱きながら走りだす。携帯のフラッシュが追いかけてくる。途中路地にあるお店の入口に隠れて通り過ぎるのを待つ。店員はびっくりだ。あのJESが目の前にいるんだから。

「お店は斜め前です。ダッシュします。」

「はい。」

スターとデートって大変なのね。すぐにわかっちゃうのは仕方ないよね、めちゃくちゃカッコいいもん。

お店に入るとフロアには数組。急いで奥の席に向かう。メニューを夢中で見ているのか気づかれない。

「何とか無事でしたね。お土産は包んでもらいますね。さて何を食べますか？」

「お任せします。メニューがハングルでわかりません。」

「英語のメニューを頼みますか？」

「いえ、JESさんに一任します。」

参鶏湯、サムギョプサル、チヂミが並ぶ。

「韓国料理にはまりました。売るほど調味料を買ったのでJUNOに作ってもらいます。JUNOとジェシーはチームのシェフなんです。」

「明日帰国ですね。仕事でつながっていますよね、俺たち。」

「MV制作ですから期間も長し、制作工程も多いので会えますよ。」

「COCOさん、せっかく友達以上なんですから、恋人になれる方法を教えてください。恋をしたことがないので、自分の気持ちをどう伝えていいかわからない。」

「JESさん、あなたはいきなりわたしの前に現れて、やさしくしてくれる。もしわたしが好きになってもき

っと突然消えてしまう。それが怖い。人を好きになるって勇気が必要でしょ。わたしには経験がないの。」

「俺は COCO さんを愛しているし、愛されたいと願っていると確信しました。だから俺を否定しないでください。猶予をください。いつからか COCO さんが好きでたまらない自分に気付いたんです。」

「わたしもあなたが気になる。あなたといると胸がときめく。でも恋人同士になれるかというとまだ覚悟ができない。だってあなたはアジアのスターだし、これからもっとメジャーになる。なんで JES なの？って思ってしまうわたしがいるの。」

「俺と COCO さんは偶然が重なり縁を感じて、運命になるって済州島で確信したから。諦めるなんてできない。」

JES の言葉は心から嬉しい。同年代だったら絶対に離さない。わたしはただのクリエイターで、ずっと年上で外国人。そして離れている。遠く離れたら忙しさに紛れて、時間とともに忘れていくよね。ソウルのはかない恋ってことで。

「お腹がいっぱいになったし、お土産はホテルに届けてもらいます。ご馳走様でした。ここからはひとりで歩いて帰れますので、JES さんはクルマで戻ってね。では次回会う時までさようなら。」

「送っていきます。」

「いえ、ほんとつらくなるからここでいいです。ありがとう。」

COCO はひとりで店を出てホテルに戻った。

早く帰国したい。もうこんな気持ちはたくさんだから、早く忘れたい。自分が思っているよりずっと深く、彼はわたしを独占しつつあるんだ。それも明日で終わり……。

このまま COCO さんと離れたら、きつと終わる。どうしたらいいのか……。時間がない。気持ちが伝えられただけで満足しなければいけないのか。不安だ。こんなに好きなのに。

「COCO、戻ったの？」

「JUNO？うん、お土産買ってランチして戻ってるよ。」

「具合は？」

「大丈夫。みんなは？」

「最後だから演奏してから戻る。それに KEI は最終のミーティングで事務所に行っているから。」

「わたしも行くから待ってて。」

JES は女性への想いを歌う楽曲をお揃いの iPod に入力、オリジナルナンバーを制作中だ。これを COCO に渡す。言葉がだめなら歌で想いを伝えればと、メンバーのアドバイス。選曲や曲順も手伝ってくれた。厳選した 10 曲を無事入力。COCO さんにメールしよう。

(COCO さん、帰国する前に渡したいものがあるので会ってください。JES)

(いまから練習スタジオに向かいます。)

練習スタジオには、すでに JUNO を除いた TEAM A-MIX のメンバーが集結。人だかりもでき始めていた。そこに COCO 登場。

「ねえ、久しぶりにラプソディ・イン・ブルーやらない？最初はクラシックバージョンで次はジャズ、最後はヒップホップで！長い曲だからやった感あるよ。楽器は曲調に合わせて変えてね。」

「ピアノはその点、変調だけでいいな。」

トップはジェシーのクラリネットだ。そして COCO が入り演奏が始まった。

このビルでクラシックが流れることはまずない。当然 A-MIX だとすぐにわかる。

「明日帰国だから最後のセッション。聞き逃すわけにはいかないよね。」

「動画撮影しないと・・・。」

COCO さんだ。仲間と演奏している。これを渡しに行こう。

JES は BPM のメンバーと走る。

まるでオーケストラだ。この演奏はバンドレベルでは不可能だ。音楽の才能はもちろん、音、旋律がまるで違う。

あー気持ちいい。さすがにブルックリンが恋しくなる。明日は帰国。今日でソウルは振り切ろう。

素晴らしい演奏が終わり、割れんばかりの拍手の中、メンバーは部屋から出ていく。写真撮影を次から次へこなしながら・・・。

「COCO さん。素晴らしい演奏でした。」

「JES さん、聴いていたの？さすがにラプソは NY が恋しくなる。予定よりだいぶ延びたから、ソウル滞在が・・・。」

「ここに俺の気持ちを凝縮したから・・・。」

JES は COCO にお揃いの真っ白な iPod を渡す。

「ありがとう。」

「連絡します。」

「COCO、行くぞ。」

「JUNO、終わったの？」

JUNO さんが COCO さんを連れて行った。いつもだよな。夜、COCO さんに会いに行こうかな。

夕食はホテル近くの参鶏湯とトッポッキを食べにメンバーと韓国料理店へ。KEI と KIM 氏も一緒だ。JUNO は KIM 氏に韓国料理の作り方を確認する。

「ブルックリンでも作ってね。調味料は1年分ありそう。」

「いつでも食材や調味料を送りますから連絡ください。」

「KIM 先生、よろしくお願いします。」

「COCO さんはソウルがだいぶお気に召したようですね。」

「美味しいし、イケメン揃いだし、JUNO のお父さんの会社に就職しようかなと思うくらいよ。」

「アジアデビューすることになりますよ。」

「明日は7時半にロビーで。荷物はポーターが7時に部屋に取りに来るって。」

「了解。」

部屋に戻るとちょうど21時。JESからもらった iPod を聴く。日本語とハングルでサビとラップの英語しかわからない。声とメロディは最高だ。そこに着信音が。

(COCO さん、顔を見に行っても？JES)

(バーにいます。)

COCO はバーに向かう。5分程して JES が隣に座る。そして B6 サイズのノートを COCO に渡した。

「歌詞を英語にしてあります。まだ英語バージョンがなくて。いい歌詞ですよ。いまの俺には切ないけど、これからもっと感情移入できる気がする。本心だから・・・。」

「素敵な歌詞ね。ありがとう。このためにわざわざ？」

「それもそうだけど、しばらく会えないと思うと、たまらなく顔が見たかったから。」

「これはわたしのメールアドレス。2人専用のホットラインを作ろう。アイコンはプリクラからとるね。」

「じゃあ、COCO さんの携帯を。」

グループ名は COCO&JES。

「これからはここで話そうね。チャットもできるから。」

1時間ほどで COCO と JES はバーを出た。COCO は地下の駐車場まで JES を見送った。別れ際に JES は COCO の腕を引いて抱きしめた。

「ちょっとだけこうしていたい。」

COCO は彼の背に手を回しやさしく抱いた。

バーには、KEI と KIM がいた。COCO は気付かなかった。声をかけようかと思ったが JES を見かけたので静観することに。

「あの2人はまるで恋人同士だね。」

「年齢差はあるし、遠く離れているからいまだけじゃないか？COCO は才能に惚れるタイプだから。」

「JES はアジアでもトップスターだ。人気、実力、容姿申し分ない。お似合いでは？」

「どうかな。明日帰国だし。自然に終わるんじゃないかな。」

「恋人だったらトップニュースだ。」

「あれだけのメンバーといたら余程のオトコでないと無理だろうな。」

「兄貴も特級品だしな。さすがの JES も難しいか・・・COCO さんも一流だし。」

COCO は部屋に戻ってからもドキドキだ。抱きしめられて思わず腕を回した自分にびっくりだ。わたしは JES が好き。そう思うだけで満足。普通の恋人同士にはなれないから。久しぶりに好きな相手に巡り合えたドキドキで十分だ。

思わず抱きしめた。そして COCO さんが俺を抱いてくれた。心臓の鼓動が速い。顔が火照っている。こんな自分、初体験だ！会えないとジェラシーや不安に潰されそう。会えればうれしさと愛おしきで胸が高鳴る。恋って不思議だ。これからは歌う気持ちが変化してくると思う。COCO さんを想いながら歌詞に入り込めようだ。

COCO ソウルでの恋・・・。

朝ロビーに集合。3台に分かれて空港に向かう。エスカレードにメンバー。ワゴンに荷物。KIM先生の運転するクルマにKEIとCOCOだ。

ワゴンは荷物搬入のため先に出発。8時前にエスカレードが出発した。

「KEI、部屋に充電器を忘れた。ちょっと待ってて。」

「正面前方にクルマが着いているから。」

COCOは充電器を取り、急いでクルマに向かった。走るCOCOに気付いたバイクが転倒。横倒しになったバイクにCOCOが巻き込まれた。

一瞬の事故・・・KEIは何が起きたかわからない。警備員やスタッフが駆け寄る。バイクの下にCOCOが倒れていた。

「COCO！」

「急いで駆け寄り声をかけるが反応がない。スタッフがバイクを持ち上げる。COCOの左脚が深く切れている。」

「救急車を至急！」

KEIの声に人が集まる。ホテル内のクリニックから医者を呼ぶ。脈をはかる。

「ショックで気を失っています。左脚の傷口は縫合の必要があり、骨折の可能性もあります。所見では臓器の損傷はみられません。すぐに救急でCTを。」

5分程で救急車が到着。医師から救急隊員に症状の説明があり、KEIが付き添う。

3分で救急病院に到着。ストレッチャーで運ばれた。処置の間、KEIはJUNOに電話。

「COCOがホテル前でバイクにはねられた。ジェットで先に帰国してくれ。」

「そっちに戻るよ。容態は？」

「まだわからない。いま救急にいる。左脚をけがしているようだ。まだ意識は戻っていない。確かスケジュールが詰まっていると聞いている。COCOの分もよろしく頼む。容態がわかったら機内に連絡するから。」

COCOの荷物はクルマに積んだままで戻すように。」

なんてことだ・・・。いったいCOCOがなにをしたっていうのか。ソウルは最悪だ。

「COCOがどうしたの？」

「バイク事故に巻き込まれて救急で運ばれた。容態はわかり次第連絡が入る。」

「このまま俺たちは帰国するの？」

「仕事が詰まっているから、COCO不在でも俺たちで何とかやるしかないだろう。」

「命に危険はないの？」

「KEIと一緒によかった。とにかく帰国しよう。容態が落ち着けばすぐに戻ってくるよ。」

メンバー5人はプライベートジェットに乗り帰国する。

COCOの処置を終えて救命医が出てきた。

「脳や臓器に損傷はありません。バイクの下敷きになった左脚は6針ほど縫いました。それとくるぶしにひ

びが入っています。ショックでまだ意識がはっきりしていません。それに痛み止めを点滴しているので2時間ほどしたら目が覚めるでしょう。」

「傷はひどいですか？」

「すぐに誰かわかりましたので、形成外科医によって縫合しました。きれいに治りますのでご心配なく。骨の方は安静にしていれば1か月で完治します。飛行機での移動は避けてください。

あと個人的なお願いなのですが、彼女のサインをいただけますか？」

「もちろんです。何枚でも、それにDVDも。ありがとうございました。退院は？」

「1週間で抜糸できますのでそのあとで。さっそく入院の手続きをお願いします。」

「はい。」

「JUNO か。無事に空の上か？COCO は左脚を6針縫って、足首にひびが入ったらしい。1か月程で完治する。ただししばらくは飛行機に乗らない方がいいと言われた。抜糸すれば退院できるがソウルに滞在することになりそうだ。KIM 氏のスタッフにお願いするつもりだから、心配しないで仕事の方をよろしく頼む。意識が戻ったら COCO から連絡させるから。わたしは退院までこっちにいるつもり。しっかり最後まで契約書を作成できそうだ。」

「了解。ソウルのことは任せて。入院先の病院を教えて。滞在先は問題なく、COCO とミーティングできる環境を兄貴に頼んでおくから。」

「COCO は退屈しないな。」

ジェット機内の JUNO から TEMI に連絡があった。COCO がホテル前でバイク事故に遭遇。すぐに KEI 氏に連絡して欲しいこと。母の実家が経営する病院に救急で運ばれ入院したので、リモートできる環境を整備して欲しいこと。退院後の滞在先も手配すること。事故の処理は KIM 氏の事務所に一任したらしい。ともかく大切に扱うべき相手だ。良縁なのか悪縁なのか・・・すぐに病院に連絡を入れる。

重たい瞼を開けると、腕には点滴の針が。脚が動かない。病院だ！ソファに KEI が。

「目が覚めた？痛い？気分は？」

「くらくらする。」

「それは薬のせいだから心配ない。脚は？」

「動かない。」

「6針縫ったし、ひびがはいっている。」

「なんで？」

「バイクの下敷きになって救急で運ばれた。1カ月は帰国できないかも。」

「えー仕事あるのに。」

「JUNO に頼んだし、リモート環境を整備するって。退院したあとの滞在先も TEMI 氏が用意してくれる。良かったな。」

「KEI は？」

「退院するまでいるから大丈夫。それに母さんがこっちに来るって。」

「大丈夫だよ。ソウルだし、KIM 先生もいる。」

「とにかくメンバーと母さんに連絡してくれ。俺が怒られる。」

「了解。KEIは同じホテル？」

「仕事はKIM氏のオフィスで。宿泊は昨日までのホテルを延長した。」

「ごめんね。」

「気にするな、兄妹だろ。」

「JUNO、目が覚めた。ごめんね。みんなに心配かけて。一人でこっちにいるのは退屈。」

「痛まない？びっくりしたよ。帰国はジェット飛ばしてもらいなよ。車イスだろう。」

「そうする。最強のマミーにお願いするよ。」

「明日リモートできる環境になるって、ブルックリンに連絡するね。」

「兄貴にいろいろ頼んでおいたからよくしてくれるよ。その病院は俺の母親の実家が経営しているから安心してね。」

「さすが御曹司！みんなによろしく。」

「ママ、COCOです。心配かけてごめんね。わざわざソウルまでこなくて大丈夫よ。そのかわり帰国するときはジェットをお願いします。車イスだしカッコ悪いもん。」

「もう心臓が止まるほど心配した。KEIがソウルでよかった。どっちにしても日本に出張の予定が入っているから帰りにソウルに寄るね。連絡するから。」

「うん、ありがとう。」

これで連絡終了。JESさんはどうしているかな？ツアーかな。ソウルに余程縁があるのか、まさか帰国当日に事故で入院するとは・・・。

COCO & JES にいれる

(何をしていますか？COCO)

(釜山でコンサートのリハーサルです。JES)

(頑張ってください。COCO)

(COCOさんへの気持ちを歌います。動画で確認してください❤️JES)

BPMは釜山でコンサートだ。リハーサルも終えて、遅いランチ、休憩に入る。

STAY WITH MEはソロでCOCOさんを想って歌う。リハーサルの動画を送信する。メンバーからのメッセージ動画も。

「COCOさん、JESはCOCOさんにLOVEです。COCOさんを想って歌うJESはすごくカッコいいです。年中、COCOさんのことばかりうれしそうに話しています。のろけまくりでニヤニヤ、幸せいっぱいです。連絡はいっぱいしてあげてくださいね。」

BPMのマネージャーは会社からの連絡で、今朝の事故を知った。

動揺するとまずいから終わってから話そう。COCOさんはソウルに1カ月は足止めらしい。

JESはルンルンだけどまた騒ぎになるかもしれない。どうすればいいか……。とりあえず無事にコンサー

トを終えることだけを考えよう。

BPM は明後日ソウルに戻り、ドラマの撮影が2日間ある。

「今回は事故でご迷惑をおかけします。COCO は1カ月程滞在が延びるかもしれません。何卒よろしく願
いいたします。」

「いえ、こちらこそよろしく願います。できれば1曲作っていただきたいくらいです。KEIさんが
ソウルにいる間に改めてお願いにあがります。」

「妹も時間を持て余しているので喜ぶかもしれません。話してみてください。」

「ありがとうございます。」

JES とのコラボレーションは話題性充分だ。JES の新境地が拓けるかも……。ソウルが誇るバラードの天
才作曲家 RUDY を紹介しようか……。退院後の滞在先は自社所有のゲストハウスにしよう。TEMI のこの胸
躍る気分は久しぶりだった。

BPM の案件は、KEI のソウル滞在によって迅速に詳細まで契約を詰めることができた。

COCO はブルックリンとのリモートで退屈しない毎日。ピアノがないだけが不便だか、快適に仕事をこなす
ことができた。

そのうえ4泊の入院生活から解放される。退院後の滞在先はグランドピアノがあるゲストハウスを TEMI 氏
が用意してくれた。ゲストルームもあるので KEI も一緒に移動だ。料理も掃除も専従スタッフがいるので心
配ない。毎日往診もある。

JES 神様からのご褒美

ソウルに戻ってドラマの撮影中にマネージャーから COCO の事故を知らされた。

「COCO さんは明日会社のゲストハウスに移動する。今晚は病院の特別室だよ。」

「容態は？COCO さんは何も教えてくれない。」

「コンサートや撮影で忙しいから黙っていたんだと思うよ。帰国当日の朝、バイクとの接触事故で左脚を6針縫って骨折したらしい。1カ月はソウル滞在になった。いまは KEI 氏が一緒だよ。」

「撮影終わったから、いまから行ってくる。」

「女性だし、まずは連絡してからがいいよ。」

COCO & JES の着信音・・・。

(なんで教えてくれなかったの？いま聞いたよ、事故のこと。明日ゲストハウスに移るとか。これから病室に行ってもいい？欲しいものある？JES)

(あら、ばれちゃったね。心配かけてコンサートや撮影に影響したら困るから黙っていたんだ。参鶏湯が食べたい。警備には連絡しておきます。)

(了解。内緒にしていたことを責めるのは会ってからにする。特別室だよ、1時間で行きます。JES)

警備室に連絡して1時間後に友人が来るので通してほしいと伝える。まさか JES とは思わないね。COCO は手摺りを使ってギブスで固定された脚で器用に歩く。車イスを使わなくても JES の出迎えはできそう。それにきちんとメイクアップしないと・・・。

地階の従業員入口前にワゴンが停まる、JES が降りてきた。警備員は韓流スターの登場にびっくり。直通エレベーターのボタンを押す。特別室フロアは15階、専用エレベーターで一気に上がる。

「COCO さん、JES です。」

大好きな JES さんの声だ。COCO は扉を開ける。扉につかまり立ちをする COCO の出迎えだ。

「COCO さんがいた・・・。」

JES は COCO の首に手を添えて引き寄せキス。

しっかりと COCO を抱きしめながら。

COCO はいきなり唇をふさがれてびっくり。そして JES にカラダをあずけると、ゆっくり目を閉じた。JES の唇はやわらかい。

COCO さんの顔を見た途端、抱きしめた。そして顔を引き寄せてキス。滑らかな唇は甘い香りがした。

「なんで言わなかったの？確かに聞いたら動揺したかもしれないけど、あとから聞くのはつらい。でもこうやって会ってくれたから怒れない。」

COCO の顔を見たらうれしくて怒りは収束。

「ごめんね。同じプロとして心配はかけたくなかったの。マネージャーにスケジュールを聞いてから連絡するつもりだった。」

「申し訳ないけど、COCOさんの滞在が延びてうれしい。」

「ドクターの許可がおりるまでソウルです。」

「俺もソウルだから毎日会える。遠くに行く予定ないから。」

「じゃあ、専用の着信音でも作る？」

「COCOさんと俺だけの歌を作ろうよ。」

「いいね。」

JESの声にわたしのピアノ、作詞作曲は？JUNOに言えばケガしているのになら怒られるだろうし・・・わたしがやるかな。

「さあ、冷めないうちに参鶏湯を食べよう。」

JESとCOCOはソファに並んで食事だ。

これが恋人同士なんだよね。並んで、会話して、笑って、幸せだ。彼といると本当に楽しい。そして素敵なキスだった。

「明日はゲストハウスだね。何が食べたいか言ってね、買って行くよ。」

「連絡します。今日はありがとう。」

JESは2時間程COCOとの時間を過ごした。

明日から毎日会えるなんて夢みたい
もっと彼を好きになりそうで怖い
好きだけで突っ走れないのはわかってる
彼はトップスターだから・・・
哀しくつらい恋はしたくない
いまだけふたりの気持ちを大切に
わたしのすべてが彼を愛してる

COCO

明日から君に毎日会える
これは神様からのご褒美だ
ふたりだけの時間、ふたりの歌を作ろう
言葉より気持ちが伝わるから
会えると心も胸もカラダも躍る
ふたりの時間をふたりで過ごす幸せ
僕のすべてが君を愛してる

JES

JES が帰った 1 時間後に KEI が仕事帰りに病室に来た。

「TEMI 氏が、曲作りをお願いしたいそうだ。退屈だからやるか？」

「うん、いいよ。ゲストハウスにはピアノがあるしね。」

「相当立派なゲストハウスだよ。警備も完璧だ。さすが財閥は違うな。この病院も JUNO の母方の実家だし、ともかく安心だ。ゆっくり静養できる。」

「明日移動だね。朝、先生が回診のとき薬も用意してくれる。それに毎日往診に来てくれるらしい。それと鍼灸の先生も。イケメンの先生をお願いした。」

「そりゃあ、何曲か作らないとな。」

「明日退院の手続きをしてからゲストハウスまで送ってもらうから。おやすみ。」

「おやすみなさい。」

「COCO さん、明日からゲストハウスに約 1 か月滞在延期だつて。」

「え？マジで。けがは大丈夫なの？」

「ギブスしている。」

「一緒に歌を作るんだ。明日から毎日ゲストハウスに行く。」

「当分ツアーもないし、COCO さんを独占できるね。」

「あー神様からのご褒美だ。」

ふたりの音楽ハウス

朝の回診を終えて、退院する。車イスで専用エレベーターから駐車場に。エスカレードに KEI と KIM 氏と乗り込む。

10分程で大きな門と警備室を通りクルマが停まった。ゲストハウスというか迎賓館のようだ。TEMI 氏と5人のスタッフがお出迎え。

「大変でしたね。万全備えてお迎えいたします。どうぞこちらへ。」

KEI の押す車イスでガラス張りの通路、正面の室内庭園を抜けて、その奥に広がるリビングに入る。

50名のパーティは可能だ。真っ白のソファセット、プロ仕様のキッチンに10席のダイニングテーブル。さらに横に長い部屋の奥に進むとプライベートエリアだ。サウナ、バスルーム、ドレスルーム、主寝室、書斎がある。

リビングの隣は演奏会ができる小ホールがある。グランドピアノが置かれ、音響設備も最高だ。隣は録音と編集スタジオも完備している。TEMI 氏の説明にさすがの COCO も驚きだ。

「ありがとうございます。こんなに立派な家をわたしが使ってもいいんですか？母が日本の仕事を終えたらソウルに入るかもしれません。」

「KEI さん同様、ぜひこちらにお泊りください。サービススタッフが常駐しています。食事もお好きなメニューをご用意します。外出する必要はありません。ゲストルームは6部屋ありますので自由にお使いください。」

「ありがとうございます。」

「一つお願いしても？」

「何なりと。」

「BPM とデビュー間近な歌手にそれぞれ曲を作っていただけませんか？編集スタッフはいます。」

「ハングルの作詞家をお願いできれば。一度アーティストに会いたいののでよろしくお願いします。彼らの要望をぜひ聞きたいです。わたしにいい曲ができるかは不安ですが・・・」

「相当の CM ソングやプロモーションの作曲が、TEAM A-MIX の COCO さんであることはすでに知っています。」

「わたしはこちらから動けないのでスケジュール調整などすべてお任せします。」

「ありがとうございます。詳細は KEI さんと相談します。」

「まさにわたしは COCO のマネージャーだな。」

「KEI、ごめんね。」

ランチは韓国家庭料理が並び、KEI と KIM 氏と。その後ふたりはオフィスに向かった。

「少し休むんだぞ。微熱が出るかもしれないって言われたんだから。今晚も遅くなる。」

「はい。いってらっしゃい。」

(今日は撮影ですか？無事に退院しました。少しピアノに触ります。COCO)

BPMはメンバーそれぞれ仕事だった。JESはドラマの撮影。今日は仁川空港がロケ地だ。予定では18時に終わる。

早く会いたい。一日、一時間だって無駄にできない。俺には時間がないんだから・・・。

(仁川空港で撮影。19時までにはソウルに戻る予定。早く会いたい。JES❤️❤️❤️)

(時間があるときは連絡してね❤️COCO)

うわーCOCOさんから❤️だ！やったー。

(ピアノはまだ早いんじゃない？車イスで不便でしょ。俺だったら抱いてどこでも連れて行ってあげる❤️❤️❤️JES)

COCO&JESのホットラインは忙しい。JESは少しずつCOCOとの距離が縮まっているのがうれしい。

COCOはBPMのMVを流す。力強い男性の気持ちを歌い上げる、音域の広いJES。高音、低音、ラップと6人それぞれ素晴らしい。そして鍛え抜かれたボディを活かしたキレるダンス。

効果音や音のリミックスはA-MIXの得意とする分野だ。まずはバラードから行こう。

メンバー各自それぞれの恋愛観を聞く必要がある。

「TEMIさん、COCOです。曲作りの件でお願いがあります。BPMのメンバーに話が聞きたい。全員一緒ではなく、それぞれ時間のある時に1時間程ください。お願いします。」

「さっそく、今日の14時～17時を予定しますがそちらは大丈夫ですか？」

「よろしくお願いします。警備に連絡も。」

「はい。」

COCOは女性スタッフにお茶の用意と、介助を頼んだ。さすがひとりでは何もできない。

「COCO様、BPMのメンバー4名が到着しました。どこにお通ししますか？」

「リビングで結構です。BPMの映像と音楽を流しておいてください。」

「こんにちは。COCOさん、おかげは大丈夫ですか？」

アメリカ生まれのTECKはネイティブ英語。

「皆さん一緒だったんですね。忙しいのにありがとう。」

中間音が美しいCHANK、高音が伸びるKEI、低音が響くWOOD、TECKのラップは最高にかっこいい。もう一人のラップ担当NICKと、リードボーカルのJESはそれぞれ撮影だ。

「では教えてください。KEI、女性に恋しているとき、どんな気持ち？ハングルでいいですよ。TECK、わたしに英語でお願いね。」

「どんなことがあっても、俺は君を全身全霊受け止める。だからあなたも俺の想いを受け止めて欲しい。」

KEI

「この瞬間、君に会いたい。この世の誰よりも君と一緒に幸せになりたい。俺と結婚しよう。」 WOOD

「俺は気がついた。あなたがとても美しく遠い存在ということ。そして星のように消えることも。」

CHANK

「いつからだったかわからないけど、ずっと君を愛していた。俺の最後の恋は君と出会った瞬間始まった。」

TECK

「うわーみんな素敵な恋をしているのね。片思いでも、両思いであっても、終わったとしても恋愛は美しいってメッセージ。これを歌詞にしてそれぞれの音域をソロで歌いあげよう。気持ちと心が入り込んで素敵になるね。どう？」

「ソロですか？大丈夫かな。」

「これから歌いやすい音域を確かめたいからホールに行こう。」

WOOD が車イスを押して、ホールへ。

「少し発声するからドリンクをホールまでお願いします。」

COCO はスタッフに指示をする。

COCO のピアノに合わせて発声練習。ハングル、英語、日本語で1曲歌ってもらう。あらゆる言語で辛くない音程でソロパートを作るつもりだ。サビはそれぞれの音を重ね、ラップがまるで話しかけるように入る。あとは撮影でいない2人の気持ちを聞いて、音域を確認すればできそうだ。

一人ひとりの歌唱力も凄い。ソロで十分通用するが得意な音程を活かしてコーラスしたら最高かも。

「では戻ってお茶にしましょう。」

「COCO さん、JES がここ1カ月のソウル滞在は、神様からのご褒美だって、幸せそうだよ。」

「あんな JES は初めてだよ。」

「JES は大人っぽいから、同年代との恋愛は無理なのか噂もなかった。それがピアノを弾く COCO さんに一目惚れ。一筋だよ。」

「COCO さんは JES をどう思っているの？」

「あなたたちはアジアのトップスターでファンに囲まれている。それにドラマや MV 撮影と素敵な女性との出会いや恋愛するチャンスがたくさんある。年上で外国人、しかも一般人のわたしは無理があるでしょう。グループとしてもアーティストとしても才能に溢れているので、仕事は是非してみたい。また遠く離れてしまえば、JES さんの気持ちも変わると思う。」

「JES はそう思っていないよ。どうか遠距離とか職業だけで避けないで欲しい。」

「いつも携帯を離さないよ。COCO&JES のホットラインね。着信音を作るって張り切っていたし。」

「みんな JES さんの応援団ね。近いうちにご飯を食べようね。ここで用意するから。」

「はい、よろしく願いいたします。お大事に。」

若いってうらやましい。年齢は平等に重ねていくのにタイミングが悪すぎる。何でいまなんだろう、なんで彼なんだろうって。いままで考えたこともなかったのに。

「COCO 様、夕食はどうしますか？それにしても韓流スターは普段も素敵ですね。BPM はかっこいいです。彼らに囲まれている COCO さんに憧れます。」

「ありがとうございます。彼らのオーラが凄いのよ。夕食はサムギョプサルとキムチ鍋をメインにセッティングをお願いします。19時過ぎに来客があります。警備にも伝えてください。」

今晚は JES さんの大好物だ。

撮影が終わり、マネージャーが運転する専用車でゲストハウスに急ぐ。ちょうど19時には到着だ。

4人のメンバーは COCO さんと充実のミーティングだったとか……。俺はこれから2人だけのミーティングだ。邪魔されなくてちょうどいい。

(19時過ぎに到着します。夕食は？JES)

(こちらで用意しましたから身軽で。COCO)

警備はスルーパス。クルマを降りて急いでリビングに走る。

「いらっしゃい。お疲れ様でした。」

COCO さんが車イスで迎えてくれる。このまましばらく治らなければいいと思ってしまう。そしておかえりなさいって言われたい。お願いしてみよう。

「JES さんの大好きなメニューです。いただきます。」

JES は COCO を抱き上げて椅子に。

COCO は JES の首に腕を回す。

JES は顔を近づけてそっとキスをする。

なんか恋人未満から恋人へ昇格???

「まるで恋人同士みたいだけど……。」

「もちろん。キスしたからもう恋人だよ。」

「……………」

「今日のミーティングはどうだった？」

「才能豊かなグループね。久しぶりに曲を作る喜びが味わえそうよ。あなたにも聞きたい。恋するいまの気持ちを教えて。」

「恋でこんなに幸せになるなんて知らなかった。君が教えてくれた幸せを、ふたりで一生感じていたいから、結婚して欲しい。JES」

「え？」

「俺のいまの気持ち、そしてプロポーズ。」

「速攻は若さよね。いまのお気持ちだけいただきます。」

「何度はぐらかしても、俺は告白し続けるから覚悟してください。一生この気持ちは変わらないから。」

「明日も撮影？」

「午後から音楽番組のリハーサルで18時から本番。終わったら連絡するね。」

「BPMの出演はラストの方だから、明日は真っ直ぐ帰宅してね。」

「いやだ。顔を見せて。一日だって無駄にしたいくないんだ。」

「はいはい。連絡してね。」

若さゆえの強引さって嫌いじゃない。むしろドキドキ胸キュンだ。どんどん深みにはまりそうで怖い。帰国したらどう気持ちを整理したらいいのかわからない。遠く離れるわけだから……。

「来客か？ワゴン車とすれ違ったけど。」

「KEI、おかえりなさい。JES氏とご飯食べてたの。ちょうど今帰ったところ。」

「ソウルの恋ってやつ？だいぶ年下君との遠距離恋愛か。」

「無理があるよね。」

「え？マジなのか？」

「自分でも信じられないんだけど、彼のことが大好きで苦しい。バカみたいでしょ、いい年して、タイミングが悪過ぎ。帰国していればよかった。」

「年齢なんて関係ない。お互い才能や感性が惹きあった恋だから当然じゃないかな。」

「彼はアジアのトップスターだし、これからもっといろんな出会いもある。ドラマではあたりまえにキスシーンがあるし……。」

「アジアから欧米を狙うんだろ？そこまで育て上げないと。相手の成長を見られる恋っていうのはうらやましいよ。JES氏は容姿、実力、カリスマ性を備えているし、可能性は十分。COCOが惚れるだけあると思うな。」

「恋って熱病みたいなもので、そのうち元に戻るってJUNOの口癖。」

「それならそれでいいじゃない？時間が限られているから彼は毎日来るんだろう？」

「売れっ子だからスケジュール次第かな。」

「わたしは、明日の夜便で帰国する。もう大丈夫だろ？彼もいるし、KIM氏にもお願いしてあるから。ゆっくり創作活動に励んで。」

(明日は遅くなっても顔が見たい。JES)

(何時でも待っています。今日はありがとう。おやすみなさい。COCO)

(COCOさん、愛しています。❤❤❤❤JES)

戸惑いながらもすごくうれしいのってなに？わたしどうしちゃったの？

COCOは韓国人の作詞家UMI氏と音楽家のLUDY氏とミーティングだ。

BPMそれぞれの想いを込めた作詞をお願いする。LUDY氏にはピアノでCOCOが作曲した譜面にアレンジを加えてパーフェクトに仕上げてもらおう。

ライブではピアノだけの伴奏でもいいかも。一度彼らとセッションしてみたい。

テレビで音楽番組を見る。韓流アイドルは揃いも揃って歌と踊りが素晴らしい。女性アイドルグループはセクシーなパフォーマンスがメインだからか人数が多い。その分歌の方はまだまだかも・・・。

デビューしたての女性グループの作曲は断るつもりだ。

気になる女性歌手がいる。年齢は COCO と同世代。ハスキーで声量が抜群だ。音域も十分だ。ジャズ、シャンソン、ブルースどれもこなせる声だ。彼女ならソロでいまのわたしの気持ちを歌える。一緒に出来るかはわからないけど。向こうの都合もあるし。

BPM だ！本当にかっこいい。ビジュアル、パフォーマンス、声が全員個性的ながらマッチする。彼らを選抜し育て上げた人に会いたいくらいだ。社長かな・・・TEMI 氏に聞こう。

JES がわたしの恋人？？？だれも信じない。

ソウルのはかない恋で終わるのかな。

(2 2 時に到着予定。お腹空いた。JES♡♡)

(イタリアンレストランからデリバリーが届いています。COCO)

「ただいま。見てくれた？」

「お疲れ様でした。素敵だったよ。さあ、食べよう。」

食卓に並べられた夕食を並んで食べる。まるで夫婦のようだ。JES はそれだけで十分幸せだ。

「気になる女性歌手がいた。ソロで・・・」

「あーFELIX さんだ。ハスキーボイスでカッコいい。みんなからお姉さんと慕われている。」

「仕事してみたいな。」

「え？ほんと？COCO さんが作曲するの？」

「だめかな・・・。オトナの女性の歌ってアイドルは歌わないでしょ。だからオーバーエイジの心に響く歌っていいかなと。思いついただけだから気にしないで。」

「ふーん。」

「BPM の歌は少し意外かも。あとで合わせてみようか。」

「やったー。」

COCO が英語で作詞したのを、作詞家 UMI 氏が韓流式にアレンジしてくれた詞を渡す。

TRUE LOVE

俺は気がついたんだ
あなたが美しく遠い存在ということに
いつからかずっと君を愛してる
本物の恋は出逢った瞬間、走り出した
俺は必ず君を受け止める
だから君も俺の想いを受け止めて欲しい
I'M IN LOVE 君に恋してる
FALL IN LOVE 君と恋に落ちた
STAY WITH YOU あなたのそばに俺はいる
STAY WITH ME FOREVER 俺のそばにずっといて欲しい
君と俺の TRUE LOVE

この瞬間、君に会いたい。
この世の誰よりも君と幸せになるんだ。
恋でこんなに幸せになるなんて。
君が教えてくれた幸せを
ふたりで一生感じていたいから。
俺のすべてを受け止めて欲しい
I'M IN LOVE 君に恋してる
FALL IN LOVE 君と恋に落ちた
STAY WITH YOU あなたのそばに俺はいる
STAY WITH ME FOREVER 俺のそばにずっといて欲しい
君と俺の TRUE LOVE

JES はため息、そして顔をあげると瞳が潤んでいる。
「なんて素敵な歌詞なんだろう。メンバーそれぞれの想いが伝わるし、俺の気持ちはまさに COCO さんに向けたものだし……。感動したよ。ありがとう。早く歌いたい。」
車イスで小ホールへ。JES は COCO を抱き上げピアノの前に。そしてやさしいキスも……。
COCO は譜面を広げ伴奏に入った。JES は全員のパートを歌ってみる。
素晴らしい。なんて素敵なボーカルなんだろう、JES って。わたしの曲を頂点まで持っていく歌唱力がある。演奏家冥利に尽きる。最高の出会いだ。

「不思議、メンバーそれぞれの音程で作ってある。それにやさしく、ささやくようなメロディが、いままでになく心地いい……。」
「そう？よかった。JES のパートは聞き惚れました。ありがとう。」

「あとはアレンジしてレコーディングね。LUDY 氏は一流ね。さすがよ。」

「LUDY 兄さんは、みんなの憧れだから。」

「明日は早朝からドラマの撮影でしょ。帰らないとね。」

「明日からここに泊まろうかな。」

「写真撮られたりしたら大変でしょ。」

「明日夕方に終わる予定だから連絡する。」

JES は COCO を抱き上げて

「COCO さん、腕は俺の首だよ。」

COCO は JES の唇にキスをした。JES は COCO を椅子に座らせてひざまづく。

「COCO さん、愛してる。」

そして顔を斜めにそっとキスをする。

あら、いつもより情熱的なキスだ・・・。

「これ以上はもう止まれなくなる。」

「では、ここまでということ。」

はあ、もう年下君に翻弄されている自分が情けない。

「COCO さん、LUDY です。TRUE LOVE のアレンジで相談があります。1 時間後にそちらでいかがですか？」

「はい。お待ちしております。」

「NY との連絡は可能ですか？」

「はい、顔を見ながら話せる環境です。」

「わかりました。」

トレードマークであるトータルブラックの装いで LUDY 氏がやってきた。

「COCO さん、JUNO さんにつないでください。」

「COCO、曲作りは？手伝うよ。」

「LUDY 氏知ってる？」

「同じ音楽院で2級下だよ。音楽家として評価が高い。」

「いまここにいる。」

「え！！ソウルにいるの？」

「JUNO さん、学生るとき以来ですね。いまソウルで仕事しています。BPM はもちろん、他もヒット飛ばしていますよ。」

「LUDY なら当然だな。ところでどうした？」

「COCO さんが作曲した BPM の曲をアレンジしているんだけど、バックにオーケストラを入れたらどうかと。歌詞もすごく甘くて彼らの音程に合わせている。だから他の韓流とは一線画したくて。COCO さんのピアノを元にオーケストラバージョンを作ったので聴いて欲しいんだ。」

「オーケストラはこっちで作れってことね。」

「僕はクラシックは苦手だし、TEAM A-MIX ならパーフェクトでしょ。」

「LUDY 氏と JUNO は知り合いだったんだ。」

「2 級後輩だよ。メンバーはみんな知っているよ。ギターがめちゃくちゃ上手い奴って有名だった。」

「何といっても今回の曲は恋心を刺激する。そして恋がしたくなるんだな。COCO さんは恋愛進行中なのかな。」

「さあな。こっちに戻っても仕事にはモテるけどね。」

「あと、デュエットを作ったから、そっちもお願い。韓流は LUDY さんはじめアレンジが素晴らしい。うちはクラシックをベースにした方がわかりやすいかも。」

「じゃあ、それも LUDY に書いてもらってね。」

「了解。」

そんな甘い恋心を COCO が作るなんて・・・

ソウルから送られてきた譜面を見て JUNO は驚く。メンバーの個性を生かしたバラードだ。

「KEI、JUNO です。COCO はソウルで暇つぶしに曲作っているとか。」

「至れり尽くせりで仕方なく。JUNO のおかげで快適な療養生活だから TEMI 氏のお願いは断れない。それに年下君と楽しそうだしね。」

「まさに暇つぶしてことか・・・。それにしてはこっちにアレンジの依頼があるけど。」

JES はまだまだ諦めないんだな。あと 2 週間もすれば COCO は帰国だ。

TEAM A-MIX と LUDY によって COCO の曲はほぼ完璧。あとは彼らのレコーディングだ。

COCO は車イスで会社のスタジオへ。メンバーのホームがやりやすいと考えたのだ。

スタジオには LUDY 氏が入っていた。

「練習はかなりしていたので声は十分に伸びているし、感情移入は問題なし。それぞれ恋愛中なのかな。それでは一人ひとりのパートから。」

うわー音程を合わせただけあってみんなすごくいい。それに伴奏が最高。囁くように歌う BPM なんて珍しい。まるで自分に歌っているようだ。

声は相手の耳にはではなく、心に届けるものだ。今日の彼らは HEART TO HEART そのもの。

COCO さんを想って歌う。COCO さんを見ながら心を込めて歌うんだ。

JES の視線の先には COCO がいる。ふたりだけの世界に周りもうっとり・・・。COCO は顔が熱くなった。

JES は COCO さんに心底惚れているんだな。そして COCO さんも。LUDY はすべてを承知した。

オーケストラによる伴奏は、R&B にアレンジされ、BPM のラブソングともに新境地が拓かれたようだ。

これはヒット間違いない。メンバー各パーツごとのフレーズも話題独占だ。

「作詞は BPM と入れてください。彼らが作ったんです。」

「では作曲は COCO さん、編曲 LUDY、伴奏は TEAM A-MIX をクレジットにします。」

「出来上がりが楽しみです。」

「2日後に音楽配信します。ヒットすれば早々に音楽番組出演になる。」
クレジットを全面に出すように。そこが話題性になる。TEMI氏はさっそく指示を出す。

(COCOさん、今日は素晴らしい歌をありがとう。2日後の配信と一緒に聞こうね。デモテープを持って18時に行きます。JES💖💖💖)

(今日は和食のお店からお取り寄せします。JESさんの好きな煮魚やお刺身もあります。デモテープが楽しみ。COCO💖)

JESは録音を聴きながら、新しいBPMの魅力を引き出してくれたCOCOに会いたくてクルマを飛び降りる。

「COCOさん、JESです。」

「はい。」

COCOは壁を伝って扉を開ける。

いきなりCOCOを抱きしめてキス。

そしてCOCOを見つめる。

「COCOさん、愛してる。素晴らしい曲をありがとう。」

「いきなりどうしたの？」

「早く聴こう。」

夕食の準備にスタッフは大忙しのなか、ヘッドフォンでTRUE LOVEを聴く。

「いままでのBPMとは一線画した曲。まさに新境地だって言われた。最高だよ。」

「本当に良かった。みんなに喜んでもらえてうれしい。もう1曲デュエットを作ったんだ。歌って欲しい女性歌手がいて。」

「男性のパートは？」

「音楽番組を見ていて気になるボーカルを見つけた。確かJUNSとか・・・。」

「うわー確かにバラード歌ったら最高だな。JUNS兄さんは。」

「まだどちらにも会っていないので、紹介してもらおう。アレンジはLUDYさんに頼みたいしね。」

「TRUE LOVEの演奏はTEAM A-MIXのメンバーでしょ。さすがだよ。音楽番組で生演奏はとても無理だって言った。」

「あと2週間の滞在だからTRUE LOVEの評価もわかっちゃうから怖い。」

「明日休みだからメンバーをここに呼んでもいい？着信音を作るから。」

「どうぞ自由に使って。久しぶりにピアノ弾こうかな。生のTRUE LOVE聴かせて。」

「OK!」

スタッフに明日BPMとガーデンパーティをすることを伝える。もちろんスタッフも全員参加で。楽しい食事会になりそう。KIM先生にも声をかけよう。

TRUE LOVEの配信予告が開始。サビの部分が流れている。これだけでも十分話題になっている。

「TEMI 部長、明日 18 時からガーデンパーティを開催したいんです。BPM に LUDY 氏、UMI 氏、KIM 先生はじめ参加者はお任せします。いかがでしょうか？」

「もちろん休みですし、わたしも伺います。」

「紹介していただきたいアーティストがいます。JUNS さんと、先日の歌番組で MC をしていたハスキーボイスの女性は可能ですか？」

「はい、明日伺うようにしますが、またどうして？」

「カップリングのデュエットを作ってみたので。このふたりなら歌いこなせるだろうと思います。若者向きではなく、オトナの男女がターゲットで相当の声量とうまさがが必要です。韓流では不可能ですか？」

「いえ、問題ありません。COCO さんのオリジナルなんて夢のようです。」

「実は LUDY さんは TEAM A-MIX の後輩なんです。デュエットの制作も LUDY さんとできたらなと。」

「そうだったんですね。ソウルも世界的だ。さっそく進めましょう。TRUE LOVE は配信前からかなりの注目度です。デュエットの譜面を送ってください。練習させます。本当にありがとうございます。」

「よくしていただいたお礼です。」

時間よ、止まれ

ガーデンパーティは50名程の華やかな宴となった。ゲストハウスでCOCO主催となれば、TEAM A-MIXと関わりたいアーティストは参加する。TEMI氏の人選だ。それにBPMの生歌も聴ける。

メニューは韓国牛、濟州島の海鮮と野菜をたくさん揃えたBBQスタイルだ。

BPMのメンバー+α程度に考えていたJESもびっくりだ。それにリビングにピアノも持ち込まれている。

JUNS氏がCOCOに話しかける。

「はじめまして。ご挨拶が遅れました、ツアー中だったので。噂は聞いています。JUNSです。部長からCOCOさんがデュエットを作曲したと……。わたしにというお話ですが、本当ですか？」

「はい。その甘くて音域のある声に惹かれました。是非お願いします。あとでわたしの伴奏で歌ってみませんか？」

「是非。相手は？」

「わたしも今日初めてお会いします。」

そこにスタイル抜群の女性が近づく。

「COCOさん、デュエットのお話があると聞きました。はじめましてFELIXです。」

年齢はJUNS氏より年上らしい。エキゾチックな容姿に、ハスキーボイスが最高だ。

「FELIX姉さんがお相手？」

「JUNSが？大スターとなんて無理よ。」

「おふたりの声はわたしの楽曲にぴったりです。是非あとで合わせましょう、わたしのピアノで。お嫌ですか？」

「とんでもない。韓国で最高に話題のTEAM A-MIXのCOCOさんと共演なんて誰もがうらやましがります。絶対にやりたい。JUNSは？」

「もちろんです。あとでみんなを驚かせましょう。」

「譜面は渡されていますか？」

「はい。練習しろと言われましたので。」

「音域はどうですか？おふたりの曲を聴きながら予測はしてみたのですが……。」

「さすがBPMの音域を生かすだけある。ぴったり見抜かれています。」

「良かった。JUNSさんの中～高音、FELIXさんの低音～中音はベストマッチだと思います。合わせてみて調整しましょう。今日は耳の優れた人たちの集まりですから。」

JUNSはCOCOが輝いてみえた。今までにない音域で歌いやすいけどなぜか新しい。奥底の音を引き出してもらった気がする。バラードキングと言われて調子に乗っていた自分が恥ずかしい。まだまだ成長できる。この女性は魅力的過ぎる。

若いアイドルが主流の韓流において、わたしの年齢は需要が少な過ぎる。個性が強すぎて俳優向きではない

ので、バラエティ色が濃くなっている自分に嫌気がさしてきた。まさにこの人は救いの女神だった。独特なハスキーボイスを生かした音域で、
オトナの切ないラブソング。
歌いながら涙が出る。
等身大の自分がいる。
年下の彼を想う年上の哀しさ。
相手がトップスターの JUNS なんて最高のチャンスだ。
COCO 氏のいまの心境なのか、妙に生っぽさがあって艶っぽいのがいい。

JES はふと COCO と会話する JUNS の視線が気になった。

「JUNS さん、COCO さんから目を離さないね。」

「そして JUNS さんを JES が睨んでいる。強敵だよ。容姿、実力ともトップだし、女性にモテるから。それに俺たちよりオトナだよ。」

TEMI 氏の合図で BPM の TRUE LOVE が始まる。

6 人がそれぞれマイクを持ってピアノを弾く COCO の周りに集まる。

COCO が音を奏でる

TRUE LOVE

俺は気がついたんだ

あなたが美しく遠い存在ということに

いつからかずっと君を愛してる

本物の恋は出逢った瞬間から走り出した

俺は必ず君を受け止める

だから君も俺の想いを受け止めて欲しい

I'M IN LOVE 君に恋してる

FALL IN LOVE 君と恋に落ちた

STAY WITH YOU あなたのそばに俺はいる

STAY WITH ME FOREVER 俺のそばにいて欲しい

君と俺の TRUE LOVE

この瞬間、君に会いたい。

この世の誰よりも君と幸せになるんだ。

恋でこんなに幸せになるなんて。

君が教えてくれた幸せを

ふたりで一生感じていたいから。

俺のすべてを受け止めて欲しい

I'M IN LOVE 君に恋してる
FALL IN LOVE 君と恋に落ちた
STAY WITH YOU あなたのそばに俺はいる STAY WITH ME FOREVER 俺のそばにいて欲しい
君と俺の TRUE LOVE

歌い終わると数秒沈黙……。観衆は声も出ないほどに感動したようだ。遅れて拍手と歓声の渦。泣いている人がほとんどだ。

「泣けてくる。これって本物だよね。」

「詩と曲と声がすべてマッチするなんて奇跡、これにオーケストラの伴奏が入ったら今期の音楽賞は総なめでしょう。」

「BPM が新しい。」

TEMI 氏は久しぶりに商品である歌に感動した。涙が頬を伝う……。これは成功間違いなし。弟の JUNO に心から感謝だ。この動画もすぐに配信。明日から大変なことになりそうだ。英語や日本語バージョンも急がないと。もっともこのチームで作りたい。

歌い終わって BPM のメンバーは、COCO を抱きしめている。

「COCO さん、ありがとう。歌う俺たちが感動して涙が止まらない。これって観衆に伝わるよね。」

「歌が素晴らしいからよ。それにみんなの恋心もね。わたしは曲を付けただけ。こちらこそありがとう。素敵なソウルの思い出よ。」

帰国したって COCO さんは離さない。どうすればいいのかわからない……。

「では、COCO さんが気になる歌手にデュエット曲を作りました。是非 COCO さんの伴奏で聴かせていただきます。FELIX と JUNO が歌います。」

「えーFELIX さんと JUNO さんが？意外なコンビだし声質がまるで違う気がする。」

「若い歌手の方がわかりやすいのでは？」

「古臭くないといいけど、いまさらデュオって？」

そんな意見も COCO の演奏で消える。

JUNO の甘い声だ

好きだ、一瞬だった。君にひと目惚れ。

会うたび君に惹かれ、そして愛するように

たとえ離れていても心はともに

もっとも君を愛したい

時間よ、止まれ。ふたりの愛は永遠に

これが最後の恋だから

FELIX のハスキーで艶っぽい声

好きと思えるまで時間がかかる
好きになるとあなたが愛おしく、つらい
なぜあなたなの？いつかは離れる時がくる
傷は深くてもいずれは癒される
時間よ、止まれ。2人の愛は永遠に
これが最後の恋だから

サビの部分はデュエットで、最後はピアノでフェードアウト。

あちらこちらからすすり泣きの声が・・・

こちらも数秒遅れて拍手と歓声が沸き起こった。誰もがふたりの新しい歌声に感動する。予想もしなかったデュエットで、素晴らしく美しいハーモニーを歌いあげたのだ。

タイトルは

「時間よ止まれ、永遠に」

きっと誰もが経験した恋心なんだろう。年の離れた男女の恋というのも、歌うふたりに合っている。そんな仕掛けが新しい魅力を引き出し、聴衆の共感を呼ぶ。ここまで素晴らしいメロディを作り上げるとは・・・。

TEMI氏は、すぐに動画配信の準備とレコーディングの指示を出す。

JUNSはピアノの前に座るCOCOにバックハグ。

FELIXはCOCOの手を取って泣いている。

「COCOさん、あたしを見つけてくれてありがとうございます。これから歌で頑張ります。また作ってください。」

「あなた方ふたりが素晴らしい才能の持ち主だってことですよ。またご一緒しましょう。」

COCOさんって凄いディレクターなんだ。まさに今この場で証明された。奥底に埋もれている才能を見抜き、最大限に生かしてくれる。さすがTEAM A-MIXを仕切る人だ。

この歌詞は、COCOさんの気持ちかな。JUNSさんのパートは俺が歌いたい。

JUNS氏に抱かれてCOCOは車イスに移されると、一斉に人に囲まれる。誰もがCOCOとつながりたいからだ。そこにBPMのメンバーが入りCOCOさんをガードする。

「仕事の話はTEMI部長とお願いします。さあCOCOさん、こちらに。」

LUDY氏とUMI氏のテーブルに・・・

「COCOさん、ご一緒できて最高に幸せです。さすがCOCOさんやJUNOさんたちは凄い。韓流に新しい旋風を巻き起こしそうですね。」

「いえ、皆さんのおかげです。これから本領発揮のMV制作です。帰国したら準備に入ります。どんな曲になるのか楽しみです。」

「曲作りから参加しませんか？」

「是非JUNOに相談してみてください。」

「TECK、BPMは凄いな。あのチームにMV制作を依頼したって？俺も頼むことにするよ。COCOさんって

素敵だな。俺より年上で理想だよ。携帯番号教えて。」

「COCOさんはJUNOさんじゃないかな。それに携帯番号なんて知らないし・・・。」

「そっか。じゃあ自分で聞くことにするよ。車イスでも楽しめるレストラン探して誘うつもりだし。」
さすが女性にモテるJUNS兄さんだ。JESはかなわないよな。

その日の夜にはピアノ伴奏の「TRUELOVE」と「時間よ止まれ、永遠に」の動画が配信され検索数トップ！
明日の完成した「TRUE LOVE」のダウンロード状況が楽しみだ。

COCO、帰国に向けて

「TRUE LOVE」はラジオの生ライブをはじめ、歌番組への出演もあり BPM は超多忙だ。JUNO によってオーケストラの伴奏が譜面にされ、生演奏も精度はともかくある程度可能になった。もちろん LUDY 氏のアレンジで十分生放送にも対応できる仕上がりがだった。

COCO は「時間よ止まれ。永遠に」の伴奏を TEAM に依頼。ピアノとバイオリンの旋律が泣けてくる。仕上げは LUDY 氏。ライブ仕様のピアニストとバイオリニストは COCO の後輩。いよいよ明日から配信だ。

ガーデンパーティから 1 週間。JES は仕事が終わると何時であっても COCO に会いに来る。韓流スターは 24 時間忙しい。クランクインしたドラマの主題歌に「TRUE LOVE」が採用され、撮影に記者会見と夜中までスケジュールがぎっしりだ。世界で一番働くのが韓流スターではないだろうか。COCO は感心するばかり。毎日会えるのがうれしかった。

疲れ切ったカラダで毎日来る JES
その日の出来事を話す笑顔の JES
うれしそうに好物を頬張る JES
話しながら寝落ちする JES
シャワーで濡れた髪を拭く JES
引き締まったボディが美しい JES
また後でと手を振り出かける JES
こんな毎日は辛過ぎる。
こんな濃密な 1 カ月はまるで罰ゲームだ。
いずれ離れることになるんだから
思い切り一緒に過ごしたい。
そしてそのあとは時間が癒してくれる。

ひとは恋をすると、言葉が次々浮かんでくる。音楽家に恋愛はなくてはならないことなのかもね。わたしも少しは成長したかな。

帰国 1 週間前、COCO&JES、3 パターンの着信音ができた。オリジナルだ。携帯画面もふたりの写真。どこにでもいる恋人同士だ。

「COCO さん、これを受け取って欲しい。」

JES が COCO の手に乗せたのは真っ赤な小さなボックスだった。開けるとピンクゴールドのカップリングがあった。

「左手を出して。」

JES は COCO の左手の薬指にはめた。そして自分の左手を出した。

「俺にもはめて。ほら、COCO&JES って文字をデザインしてもらったんだ。クールでしょ？」

ピンクゴールドに光る表面に文字が刻印されている。

「長くはめていると文字がすり減って消えるんだって。そんなずっと長い時間、いっしょいられるって素敵だよ。はずさないで。それと COCO さんのために歌を作ったから一人で聴いてね。」

と CD を渡した。COCO も偶然自分の曲をプレゼントしようと思っていた。音楽家ができることってこれしかないから。

「ありがとう。でも縛られないでね。JES さんにはいろいろな出会いがたくさんあるから、もっと恋愛して。遠くなればいつかは心が離れてしまうから。でも今この瞬間、本当に幸せだから。」

「なんでそんなこと考えるの？俺の気持ちは絶対に変わらない。遠距離だって解決策が見つかるよ。これから COCO さんたちにはソウルからオファーはあるし、俺たちの MV 制作だって。俺に COCO さん以外と恋愛する暇なんてまるでないって知っているでしょう。もちろん COCO さん一筋ってことも。俺は尊敬できる女性じゃないと恋愛できないんだ。すべて俺よりすぐれている女性が憧れだから。絶対に会うことのない理想の女性に会えたから、何があっても離さないって決めているんだ。わかった？だから時間が立てば忘れるなんて思わないでね、ありえないから。カップリングが証です。俺は初めてするから……。」

「あたしだってカップリングなんて初めてよ。なんでトップスター JES を好きになったのか、どうしてあなたなんだろうって考える。年上で、外国人で、遠距離でほんとにタイミングが悪過ぎて笑える。そのうえハングルも話せない。JES さんの英語は素晴らしく上達したけど……。」

「俺にとってはベストタイミングだったよ。JUNO さんのおかげで出会えたし、偶然にセッションして、レコーディングに MV 制作まで。音楽面ではまだまだ追いつけないけど、いつか並べるようにと気合が入った。COCO さんたちみたいに一流になるって決めた。俺を成長させてくれる世界一の女性なんだ、COCO さんは。だから離れないで欲しい。」

COCO は JES の両頬を掌で包み込み、唇にそっとキスをした。

「言葉にできないから……。」

JES は離れた COCO の首筋に手を添え引き寄せてキス。いつもとは違う濃厚でとろけるようなキスだ。

彼らの歌が話題になるにつれ、COCO の素性も知れ渡ってきた。外出もままならないゲストハウス生活なので、撮影されることはないのが救いだ。

「時間よ止まれ、永遠に」で JUNS & FELIX が歌番組の常連に。BPM の「TRUE LOVE」に次いで 2 位をキープしている。

(今日の生放送でリングを見せるから必ずチェックしてね💖💖💖彼氏より)

あら彼氏になったのね。わたしがお揃いをしているとわかったら大変だ。誰かに会うときはネックレスにしようか。JES にはピアノを弾くのを理由にすればいいか。

その日の生放送でしっかり指輪を披露した JES に、ファンからの書き込みが殺到。さすがトップスターだ。

(JES が指輪をしている！誰かとお揃い？)

(恋人ができたの？なんで指輪を？)

COCO にはハングルが理解できないので JES は気にもしないようだ。

「JES、書き込みが凄いやけどカップリングなのか？誰と？」

「そうだよ、COCO さんにあげたんだ。COCO&JES の刻印がクールでしょ。」

どうかばれる前に帰国して欲しいとマネージャーは願った。

COCO は曲を作っている。

疲れ切ったカラダで笑う JES
毎日の出来事を話す笑顔の JES
うれしそうに好物を頬張る JES
話しながら寝落ちする JES
シャワーで濡れた髪を拭く JES
引き締まったボディが美しい JES
やさしくわたしに触れる JES
また後でと手を振り出かける JES
あなたしか見えなくて
いつの間にか近づいている
気づかないまま引き込まれる
逃げようとしても引き寄せられ
あなたの胸に抱かれている
JES わたしのすべてが愛してる

タイトルは「JES IS EVERYTHING」だ

COCO 独特の透き通るような旋律が美しい。

好きな人に歌を作ったのは初めてだ。顔が熱くなる。どうか JES を何よりも大切に思う気持ちをわかってほしい。

実は COCO は歌も相当上手い。学生時代はジャズボーカルとして人気者だった。この声が COCO とわかる人はメンバーの他にはいない。

久しぶりに録音作業をひとりでこなす。何とかデータにして USB に保存。もちろんスワロスキーの USB で JES とお揃い。帰国前に渡すつもりだ。

COCO は少し引き摺る程度でほぼ歩けるようになった。あと 3 日で帰国だ。マミーがジェットでやってくる。JES を紹介しよう。

「COCO、ソウルに到着。迎えのクルマが来ているけどこれでいいの？」

「うん、JUNO が用意してくれているからそれに乗って、渋滞しても 1 時間程度よ。」

冴子が到着した。

「凄い邸宅ね、さすが JUNO。韓国の財閥はスケールが違うわね。」

「うん、JUNO のお兄さんにはよくしてもらったよ、凄く。」

「お礼に最高級の日本茶と扇子、西陣織のクロスを用意してきた。あとでご挨拶に伺いましょう。」

「マミー、ありがとう。」

「KEIに聞いたけど、素敵な恋人ができたんですって？大スターなんでしょ。」

「まあね。だいたい年下なんだ、8歳くらい。」

「あら、うらやましい。年下のスターなんて代わってほしいわ。好きなんでしょ？」

「NYとSOULじゃあ離れたら自然消滅しちゃいそうで。だって相手はアジアのトップスターよ。わたしには無理だよ。」

「COCOだって一流の音楽家じゃない。愛していればいいのよ。それだけで十分。あとは解決できるから。」

「毎日忙しいのに来てくれるの。今日はうちでご飯食べよう。ここは一流の料理人が毎日作ってくれるよ。何がいい？」

「韓国料理よ、もちろん。」

「彼に歌を贈ろうかと。聴いてくれる？」

「音楽家っていいわよね、作れるから。」

COCOは「JES IS EVERYTHING」を流した。

「うわー切ないけど素敵。年上の気持ちが伝わる、耳に残るわ。さすがTEAM A-MIXのCOCOね。」

「TEMIです。ご挨拶に伺いました。」

「マミー、JUNOのお兄さんが挨拶にわざわざ来た。」

「娘が大変お世話になりました。わたしも日本出張の帰りに、ご挨拶に寄らせていただきました。母の冴子です。」

「日本の方と聞いています。」

「はい。お気に召すかどうか日本のお土産です。お受け取りください。」

「ありがとうございます。宿泊や食事はスタッフにお申し付けください。外出の際は運転手に何なりと。待機しております。」

「何から何まで恐縮です。」

「いえ、弊社のアーティストはCOCOさんのおかげで空前のヒットを飛ばしてしまっていて、ありがたいことです。」

「お役に立っているなら安心です。」

「JUNO同様、かなりのイケメン兄貴ね。」

「結婚したい独身男ナンバー1らしい。」

「財力、容姿を備えていたら当たり前か。」

(ドラマの撮影終了。18時に帰ります♡)
行きます、から帰りますに変わったのね。

(はい。今日は韓国料理。母が来ました。)

(マミーが？そっか、一緒に帰国するんだよね。それまでこっちに滞在？)

(待ってます。COCO♡)

COCOさんのママに何をプレゼントしようかな。日本語バージョンのアルバムにしよう。サイン入りで。あとMVも。

「JESさん、母の冴子です。日本語はばっちりよ。日本人だから。」

「JESです。BPMというグループでボーカルを担当しています。これは日本語バージョンのアルバムとミュージックビデオです。」

「ありがとう。日本でもすごい人気と聞きました。確かに素敵ね。」

「声がすごくいいの。」

「COCOのタイプね。JUNOがやきもちやくね。」

3人で夕食。英語に日本語に話題は尽きない、家族のようだ。

「明後日帰国するので、JESさん明日1時間ほど買物におつきあい願いますか？」

「はい。明日リハーサルにおふたりをご招待します。11時頃いかがでしょうか？14時には終わるので、冴子さんのショッピングはそれからで。」

「他のメンバーは忙しいのかしら？」

「明日14時に終わればオフだと思います。」

「では夕食をどうかしら。スターと是非一緒に食事したいから。みんなに自慢しちゃう。」

「了解です。」

「何がいいかしら？韓流式BBQをここの庭でやる？照明もバッチリだし。」

「賛成！」

「ではここのスタッフをお願いします。」

なんかまた話が漏れて大人数になりそうな予感がした。

翌朝、11時にクルマでテレビ局に向かった。COCOもソウルのテレビ局は初めてだ。

ギブスも取れて久しぶりの外出。オシャレをしないと・・・。

セリーヌの真っ赤なブラウスに白いサブリーナパンツ。エルメスの白いミュールとミニケリー。エルメスのブレスレットにパールピアス。そしてJESとお揃いのリングだ。

冴子は全身アルマーニ。やわらかい素材のパンツスーツがエレガントだ。COCOから見ても冴子は美人だ。とっくに成人した3人の子持ちとは思えない。エスカレードから降りる2人は注目だ。エスコートはKIM氏。COCOの手を引いてくれている。けがをしても、運動靴は絶対に履かない。そこはオンナのプライドだ。

TEMI氏の案内で会場に入る。いろいろなグループが順番にリハーサルだ。

「韓流は美男美女に踊りや歌がものすごく上手いのね。」

「JESのグループは最高よ。あとわたしが作ったデュエットも聴いて。」

JUNS&FELIXのデュオに酔いしれて、BPMのバラードに思わず涙する冴子。

「COCO、いい仕事したのね、ここソウルで。」

まるでコンサートのように堪能したふたりはBPMの楽屋に。

「COCOのお母さん、ようこそソウルへ。BPMです。」

「まあ、これだけのイケメンが揃っているなんて本当に素敵！今日の夕食会が楽しみ。」

「なんか話がすごく広がっちゃって、前回同様50名位になりそうだってTEMIさんが喜んでた。JUNS兄さんが自慢しているらしくて。」

「お任せします。わたしはLUDYさんと打合せがあるので、JESさん、マミーをお願いしますね。」

「わたしはKIM先生に相談があるからオフィスに行きます。JESさん、私の携帯番号よ、連絡くださいね。」

「はい。」

「母娘でかっこいいね。日本人だって。有名な建築家らしいよ。」

「JESは桁外れな女性を好きになったんだね。」

「冴子さん、JESです。終わりましたのでお迎えに行きます。」

JESは冴子とデートだ。

「うれしいわ。息子より年下の大スターとデートなんて。アルマーニに行ってください。」

店に到着すると冴子はVIP扱いだ。

「NYから連絡がありました。ソウルにようこそ。スーツとドレス2着ずつ。サイズは今日中にお直してお持ちします。」

「よろしくね。」

試着した冴子さんは本当に素敵だ。JESは思わず見惚れた。COCOさんの堂々とした振る舞いは冴子さん譲りだ。

「JESさん、COCOとお揃いのリングね。ふたりは恋人同士？」

「なかなか本気にしてくれなくて。友達以上恋人未満から何とか恋人に昇格したかな。」

「COCOは確かにモテるわね。JUNOとは名コンビだし。メンバーも個性的で才能豊かだしね。JESさんもトップスター。うらやましいわ。」

「離れたらお互い変わってしまうのかな。」

「不安？」

「俺は絶対に変わらない自信があります。」

「愛はなくならない。時間や距離で消えるのではなく、形が変わっていくだけ。

水のようにどんな器に入れても水であることに変わらない。少し形が変わるだけで初めての気持ちはなくならないのよ。」

「少し形が変わるだけで愛はなくならない。そうですよね。この気持ちは本物だから。」

「年上の外国人で離れていることがCOCOにとっては弱点でしかないのよね。でもCOCOが年下で、韓国人でソウルに住んでいたなら好きになったかしら？」

「いまのCOCOさんだからです。」

「それが恋愛よ。NYに来たら会いましょう。」

冴子さんは素敵だ。そうなんだ。COCOさんでなくてはだめなんだ。なんかすっきりした。もう悩まない。遠距離だってガンガン連絡して、ふたりで会える方法を探せばいいんだし、NYまで13時間だし、バルセロナも同じくらいだ。

帰国前のBBQパーティは盛大だった。COCOのピアノに合わせてBPMとJUNS&FELIXが歌う。ガールズバンドが躍る。料理も最高に美味しい。冴子も十分に満喫したようだ。

夜の22時。冴子はゲストルームに。片付けも終わり、COCOとJESがソファに座る。

「明日仕事は？こっちは16時に飛ぶって。」

「じゃあデートしよう。」

「人も多いし無理よ。写真撮られたりしたら。それにこの脚じゃダッシュで逃げられない。」

「大丈夫だよ。遊園地に行ってそのあと空港まで俺が送るから。もう帰国準備した？」

「今朝荷物は詰めた。渡すものがあるんだ。」

COCOはUSBを渡す。

「お揃いのUSBよ。曲を入れた。あとで聴いてね。編集も全部自分でやったんだ。」

「俺のは聴いた？」

「機内で聴こうかなと。」

「これ、いま聴いてもいい？」

「うわー恥ずかしいから一人で聴いて」

JESはパソコンに差し込んでデータを携帯に送信する。ヘッドフォンで聴いた。

目をつぶって聴くJESの頬に涙が伝う。

「COCOさんの声って素敵。歌うま過ぎ、ずるいよ。歌手じゃん。うれしくて涙が出る。」

「なかなか素直に言えなかったから歌にしたんだ。わたしの気持ちです。」

COCOはJESの頬の涙を拭きながらそっとキスをした。

帰国当日

「ママ、JESとデートして直接飛行場に行くから、ママはKIM先生に送ってもらってね。」

「じゃあ飛行場でね。遅れないでね。」

JESの運転するクルマで遊園地へ。人も少ない開園と同時に入る。サングラスにキャップ。それでもファッションistaであるスターのオーラは隠せない。クラッシュデニムにコムデギャルソンのパーカー、真っ赤なサイケ柄のTシャツに、真っ赤なグッチのハイカットスニーカー、目立つ。COCOはグッチの花柄ブラウスにホワイトデニム。ミュールにミニリュックにサングラスだ。確かに相当目立つが気にしない。ジェットコースター系の絶叫系アトラクションはケガの影響で乗れないが、バイキングや観覧車は問題ない。お化け屋敷では、出口でお化けのスタッフと記念撮影。小学生の団体にJESが騒がれて一緒にこちらも記念撮影。小学生にも大人気だ。そろそろ入場客に騒がれ始めたところで遊園地から退散。ソウルで一番のお気に入りトッポッキを食べに行く。クルマを停めた途端に追いかける。JESは堂々とCOCOと手をつないで歩く。シャッターが凄い。トッポッキのお店でもお客さんが騒然……。気にせず堪能する。もう開き直りだ。最後に食べるトッポッキは美味しかった。

「観覧車で渡せなかったから。」

飛行場に向かう車内で、ブレスレットをCOCOの手首にはめる。COCO & JESと刻まれたリングとお揃いだ。

「俺も同じだよ。はずさないでずっとつけているよ。なにしたらって騒がれるんだからずっとつけていることにする。だから COCO さんもリングもブレスレットもずっとつけていてね、約束だよ。」

「約束する。本当にありがとう。」

「COCO さんの歌、死ぬほどうれしかった。俺の歌は機内で聴いてね。COCO & JES のホットラインは毎日だからね。テレビ電話もかけるから。そして俺以外の人とはキスしないでね。これからもずっと俺以外はだめ。実は嫉妬深いから俺は。覚悟してね。」

「JES さん、好きな人ができたらすぐに言ってね。どうかかわいそうだと思わないでね。わたしはいまでも十分幸せだから。」

「俺は絶対に変わらないから。COCO さんにプロポーズし続けるから。いつか YES の返事をもらうよ。」

飛行場に到着。プライベートジェットが停まっている。冴子は気を利かせているのか機内だ。

「じゃあ、また。」

「すぐ会えるよね。こんなに見送りが悲しいなんて知らなかった。」

JES は COCO を強く抱きしめた。COCO も JES の背中に腕を回してぎゅっと抱きしめた。

そして視線を合わせて最後のキス。搭乗口で待機するクルーも見惚れるほど素敵なシーンだった。シャッター音がしたような気もするが、気にせず抱き合っている。夕陽が幻想的で映画のような抱擁シーンだ。

「JES、全身全霊愛してる。他のひとに振り向かないで。許さない。」

「うれしい。俺は COCO を一生愛し続ける。だからどこにも行かないで。」

「うん、じゃあ帰ります。」

「うん、またね。リングもブレスも外したらダメだよ。」

COCO は機内へ。JES は見送る。

「素敵な別れのシーンだったわよ。クルーも見惚れていた。撮影されたわね。JES さんが大変、まあスターだから仕方ないか。」

「うん。やっぱり恋に落ちたわ、完敗だ。」

JES の歌はゆっくり自室で堪能しよう。

ソウルでは COCO & JES がぶっちぎりトップに。

〈BPM の JES、恋人と熱い抱擁〉

〈飛行場で別れの熱いキス！JES のお相手は COCO！プライベートジェットで帰国する。〉

〈スターの恋！海を越えた愛は実るのか！〉

ふたりのキスシーン写真が検索トップだ。

「JES、かっこいいね。情熱的なキスシーン。」

「つきあっているの？真剣？」

「遠距離でうまくいくの？」

仕事のたびに質問攻め。JES はうれしきで思わず笑みがでる。

COCO MV 制作始動

無事に NY に帰国。ジェシーのお迎えだ。

「おかえり。脚は大丈夫？冴子ママお疲れ様でした。ジェットだから安心だったけど。他のメンバーは仕事に追われているよ。COCO がいない分大変だった。」

「ごめんね。明日からバリバリ働きます。このまま、ブルックリンに送ってね。ママのお迎えは KEI が来るから。」

COCO はジェシーとオフィス兼自宅に戻る。

「ただいま。みんな。いろいろと迷惑かけてごめんね。キムチもいっぱい買ってきたから。COCO の韓国食堂を開店します。」

「おかえり。明日からバリバリ頼むよ。さすがの JUNO もボロボロだよ。」

「JUNO は？」

「スタジオにいるよ。」

COCO は急いでスタジオに向かう。

「JUNO !! 帰ったよ。」

COCO は JUNO に抱きつく。

「会いたかった。JUNO。」

「ソウルでの暇つぶしは本格的だったな。年下君とはどうなった？」

「うーん。1 か月ずっと一緒にいたから揺れてるかも。まあなるようになるよ。それより仕事したい。」

「それが一番だな。明日から忙しいぞ。」

いつもの COCO だ。現実に戻ればすぐに忘れるし、会わなければ熱も冷める、相手は若いんだから。

バルセロナの工事は遅れそう。BPM の仕事はここブルックリンだ。

BPM の新曲がソウルから送信されてきた。

「COCO、LUDY から新曲が送られてきた。こちらの指示通り、歌詞は英語でラップパートは英語とスペイン語できたよ。

タイトルは「HEART BEAT」、スペイン語だと「PALPITACION」かなあ。

女性を激しく思うオトコの苦しさを歌っている感じだな。MV のテーマは？COCO」

「PASSIONATE 情熱的」で行こうよ。6名それぞれカップルダンスで。」

「それなら韓流以上に情熱的で艶っぽく官能的な振り付けで、ヒスパニックを惹きつけないとね。」

「彼らは東洋系イケメン、ラテンの暑苦しさや粘っこさは出ないよね、ボディラインも美しいし、きっと神秘的で新しいかも。」

「振り付けは KIMLEE で行く？韓国系アメリカ人だし。東洋の美しさが理解できるから。」

「あとはスケジュールだね。」

「ダンサーの選抜もあるし。」

「18時から夕食ミーティングね。」

COCO は JES の記事を検索する。韓流はこれですべてスケジュールが把握できる。移動の写真もファンによってすぐにアップされる。

飛行場のキスシーンは相変わらずトップ。

確かにこの写真は映画の 1 シーンのようなのだ。

今日から日本ツアーと聞いている。仁川空港の写真には、しっかりお揃いの指輪とブレスレットが光っている。わざと見せているな。うれしい。

CM 撮影でキスシーンかあ。ドラマでキスシーンを演じた女優と噂になっている。悔しいけどカッコいい。相手は若く美人だ。仕事とはいえジェラシーMAX。

(東京に到着。埼玉、名古屋、大阪、福岡と 2 週間のツアーです。TRUE LOVE はどこでも大ヒット。

COCO さんに会いたくて死にそう。誰ともキスしないでね♡♡♡♡JES)

(CM に MV とラブシーンばかりね。新しい恋人ができたようで。お似合いよ×××)

(ゴシップなんて気にしないで。それより飛行場のキスシーン写真最高だね♡毎日ブレスレットとリングが見えるように意識してるのわかった?)

(うん、写っているね。ツアー頑張ってるね。あまり女性と噂にならないでね。COCO)

(女性は COCO さんだけ♡♡♡♡♡JES)

JES かわいい。こんなやりとりでうれしくなる自分が信じられない。

「COCO、KIMLEE よ、久しぶり。JUNO から連絡もらったよ。韓流スターの MV だって！振り付けね。」

「うん、カッコいいでしょ、彼ら。PASSIONATE がテーマ。どう？カップルダンスで。」

「彼らだったら女性ダンサーの応募が後を絶たないね。ダンサーはヒスパニックがいいの？アジアンも入れようよ。」

「ターゲットがヒスパニックだからダンサーの人選は任せるよ。見栄えがいいのをお願いします。いままでにはない振り付けがいい。」

「いつも無理難題だよ。彼ら言葉は？」

「英語も日本語も問題ない。LUDY 知ってる？彼がディレクションしている。」

「LUDY はソウルで売れっ子だね。ぜひ韓流の仕事をしていただきたいものだよ。こっちくるかな？」

「スケジュール考えてみる。ソウルで練習して、こっちで撮影に持っていきたい。1 週間くらい？」

「うーん合わせるのに 3 日、撮影に 3、4 日かな。予備入れて 10 日みてね。」

「練習用に動画をお願いします。」

「撮りに来てよ。」

「どのくらいで修得できる？」

「彼らの MV 観た感じでは、スケジュールもあるから 1 か月。運がいいことに凄いダンサーがソウルにいるの。彼らも習っているかもね。連絡してみる。」

「それは超ラッキー。」

ダンサーも入れて 10 名程をソウルに呼ぶより、こっちで撮影したほうがコスト的にはいいかも。BPM もソ

ウルよりこっちの方が集中できると思う。JUNO に任せよう。

(COCO さん、やっと日本ツアーが終わった。いまからソウルに帰国です。JES👉👉👉)

(お疲れさま。うまくいったかな?)

(TRUE LOVE は凄い人気だった。歌うたびに COCO さんに会いたくなる。JES👉👉👉)

(離れている分、想いがどんどん強くなる。)

(俺にはかなわないよ。愛してる👉👉👉JES)

「TEMI、JUNO だけ相談がある。MV の撮影はどこでやろうかと。背景はともかく、彼らの踊りの動画をソウルか、マイアミか。カップルダンスのヒスパニック系ダンサーを移動するか、BPM がこっちに来るか。」

「スタジオはどうする？」

「大型スタジオの資料を送ってくれる？こちらは相当数の設備があるけど、ソウルは限られるでしょ？」

「できるなら経費がかかろうともソウルでの撮影が理想だ。」

「1 か月そっちでトレーニングは必要。指導はファンさんを推薦された。ソウルでしょ？振り付けを決めて動画はこっちで作る。」

「ファン氏には？」

「振り付け担当の KIMLEE がファン氏の友人だからラッキーだった。こっちで連絡する。練習相手のチョイスはファン氏にお願いするし。」

「KIMLEE 氏、他 6 名に A-MIX から 3 名が動くことになる。」

「チケット、滞在費一式は任せてくれ。あとは撮影スタジオだな。練習スタジオはうちの一番広い部屋を用意する。検討してくれ。COCO さんの脚は？」

「バイクはまだだけどクルマを運転しているよ。心配ない。」

「凄い写真がアップされてこちらは大騒ぎだった。」

「え？そうなの？」

「JES を検索するとトップに出てくる。」

JUNO は JES で検索。画面いっぱい COCO と JES のキスシーンだ。飛行場とある。帰国の日だな。1 か月野放しにしておくよこれだ。ビジュアルとしては最高だけど、ここまでだ。

COCO は RON とダニーとマイアミに飛んだ。KIMLEE の振り付け動画の撮影だ。

BPM の代役 6 名は、アジア系の超イケメンダンサー、女性は J・ロペス並みのセクシーなダンサーだ。

「かなりのビジュアルを集めたつもりだけど、どう？ダンスも一級品よ。身長も合わせて揃えたから。」

カップルダンスは身長差があまりない方が見栄えがいい。ヒールも計算にいれてある。

「衣装はそっちでお願いね。」

「まあ、美しい。衣装は任せて。明日にでもデザイナーに来てもらうから。」

「明日 10 時から撮影スタジオで。」

「今回はソウル出張になりそうよ。」

「BPMの事務所ってお金持ちなの？」

「JUNOの実家だもん。」

「そりゃあ余裕だね。」

「今日からの宿泊は？」

「ダディのゲストハウスで。」

「少し踊っていかない？久しぶりに。」

COCOは学生時代、本格的にダンスを習っていた。プロ級とっていい。今回のBPMのダンスはCOCOも踊れそうだ。

「じゃあ、練習はじめよう。」

ダニーはダンス大会で何度も優勝したプロだ。いまもPVやMVに出演する。実はCOCOも何本かダニーと出演している。

KIMLEEの振り付けはかなりセクシーでクールだ。それにハイレベル。「HEART BEAT」心臓の鼓動を表現している。さすがだ。

「さすがCOCOとダニー、プロ顔負けね。」

「年齢的にきつい・・・。」

「練習用の動画に入って欲しいの。練習で脚を痛めたダンサーがいて。いまさら代わりがないのよ。一部分だけ数秒だから。RON、編集お願いね。」

「相手はダニーね。練習していく。」

それから着替えて、3時間程KIMLEEにしごかれクタクタだ。JESにばれないように編集するようRONに言うておこう。

父親の会社所有のゲストハウスは20名程宿泊できる邸宅だ。常駐スタッフがいるのでメンバーはよく利用する。ここマイアミは撮影スタジオや音楽スタジオが多く、ロケ地も豊富だ。スケートボードの撮影で気に入ってから頻りに訪れる。

練習用動画の撮影と編集は、マイアミで約1週間。ダニーとCOCOはギリギリまで猛特訓で何とか90秒のパートをやり切った。

「COCO、ダニーさすがね。PVに出演しているだけあって踊りもキレてるし、呼吸もピッタリ。それにセクシーよ。」

「ありがとう。ダニーのリードのおかげよ。」

「COCO、脚は大丈夫？腫れてない？」

「さすがに少し痛むけど。まあ大丈夫。」

撮影を終えてNYに戻る。さあ編集だ。

ブルックリンの朝。COCOは脚がズキズキ痛い。やり過ぎたかな。

「おい、COCO！入るぞ。」

JUNOだ！マイアミの動画を見たんだ。

「ダニーとあんな激しいダンスを踊って、脚は大丈夫なのか？」

「ちょっと痛い。」

「みせてみる。うわ、熱く腫れている。練習用動画でマジになるな。バイクにクルマも当分禁止。」

「大丈夫だって。」

「ドクターに往診頼むから部屋から出るな。」

JUNO はマジで怒っている。いうことを聞くしかない。編集室に行こう。動画が見たい。

COCO はシャワーを浴びて急いで仕度。編集室へ。

「ダニー、おはよう。マイアミの動画は？」

「JUNO に怒られたよ。COCO もでしょ？」

「うん。部屋に怒鳴り込んできた。」

「凄くカッコいいよ、俺たち。」

正面向かって左がポジションだ。たしかに KIMLEE の指導のせいかプロのダンサーに劣らずパッと見はわからない。

「キャップかぶっているから COCO ってわからないよ。それに動画の主演はメンズだから。」

「ところでダニーのパートは誰？KEI か JES じゃない？センターに入ってくるし・・・。」

練習用動画は編集されてソウルのファン氏に送られる。KIMLEE とファン氏、JUNO のリモートミーティングだ。

「JUNO です、ファン先生初めまして。どうかよろしく申し上げます。練習期間は？」

「KIMLEE の言う通り 1 か月で何とか仕上げる。練習相手の女性は、ハイレベルなダンサーを用意したので完成度は期待して。」

「ファン、どうもソウルに行くことになりそうよ。トッポッキ連れて行ってね。あとこっちの仕事があるんだけどソウルでやっちゃいたいな、JUNO と打合せしてから連絡する。」

「ピンチヒッターのふたり、アジア系ですごくいいね。」

「A-MIX のダニーと COCO よ。この人たちダンスも凄いのよね。」

「ソウルでも話題のグループと仕事ができるなんて最高だよ。JUNO さん、ありがとう。」

「こちらこそよろしく申し上げます。」

「KIMLEE、こっちの仕事って？」

「ソウルからガールズグループの振り付けのオファー。JUNO の実家ではないみたい。FIT エンターテインメントかな。曲もグループの詳細も届いた。」

「ついでに稼いじゃって。遠いソウルまで行くんだから。」

「そうね。他にもないかしら。」

「聞いておくよ。」

いよいよ MV の準備だ。今日は振り付けの神、ファン先生とのミーティング。BPM も緊張だ。

オールブラックでストローハット、PUMA のシューズがトレードマーク。

「久しぶりだね。君たちのダンスはハイレベルだ。今回の「HEART BEAT」カップルダンス、すでに友人の振付師によって女性ダンサーの猛特訓が始まっている。1 か月で仕上げる。ソウルも練習用の女性ダンサー

がすでに始動している。まずは動画を見よう。」

画面は歌がすでに編集されているダンスシーンだ。男女6組が歌のパートによって入れ替わる。ヒスパニック系の美人揃いだ。男性はアジア系。完璧な練習動画だ。

「ダンサーのけがによって一部分代役で編集されているけれど、遜色ない踊りなので気にしないで。」

「どれどれ？」

「そんなことよりどこが誰のポジションか説明する。」

メンバーは真剣だ。

次の動画は、メンバー一人ひとり、各パートのカップルダンスだ。個人練習用だ。

「この動画も A-MIX が作ってくれた。あと急遽代役も務めてくれた。あとでゆっくり見るとわかる。」

それから各自動画を参考に、みっちり2時間の特訓。鼓動の喜怒哀楽をリズムで表現しているので、かなりハードでセクシー度が高い。

「新しい振り付け、いままでにないセクシーさもあるし、ヒスパニックを意識していると聞いたよ。背景はどうなるんだろう。」

「あのひとたちが創るなんて、相当カッコいいよね。ダンスも完璧に仕上げよう。」

JES はかなり疲労度蓄積。ドラマの撮影と、音楽番組の収録が忙しいせいで風邪をこじらせ喉を痛めている。

「JES、左奥のパートは JES だよ。これダニーさんだよ、すごいプロだ。みて！ってことはこのキャップの女性は COCO さん??？」

「COCO さんって踊れるの？かなりうまいんですけど、ふたりとも・・・。」

JES は目を凝らした。ブレスレットとリングがある。ダニーさんと踊っているのは COCO さんだ。歌も凄いくけどまさかダンスまで。パーフェクト過ぎる。

「JES とお揃いのリング！COCO さんだよ。」

ダニーの頬を手でなぞる仕草で左手のリングがバッチリ映る。

まいったな。これって・・・。COCO さんから抜け出す出口はない。どんどん彼女の深い魅力にはまっていく。どこまで俺を惹きつけるのか・・・。COCO さんをしっかりと抱きしめたい。撮影はソウルと聞いている。A-MIX のメンバーはダンサーとともに入国。1か月後には会える。

うわー、リングとブレスレットでバレバレだ。仕方ないか・・・。歌の次は踊りなんてプロの JES に恥ずかしい。

この振り付けは鋭角の動きでなく流線形の動きを意識している。心臓の鼓動は人の生きる原点だから、ロボットのようない規則的な動きは排除している。関節を生かした美しくしなやかな手脚の動きと、喜怒哀楽の感情を表す眼差しが重要だ。

ブルックリンでは背景をどうするか、意見交換だ。ターゲットはヒスパニック、情熱的な絵で。

「パッションは色彩で表現して、ヒスパニックのアイデンティティをビジュアルで、球体に入れて流すのは？シャボン玉のように。」

「ビジュアルって例えば？」

「ヒスパニックの原点は、スペインやポルトガル、南米でしょ。彼らの共通項はラテン音楽、サッカー、ワイン、芸術、建築、風貌、料理、気風があるじゃない。それをビジュアルにして球体に入れて鼓動のように飛ばす。」

「うーん。イメージは湧いたけど……。球体とシャボン玉はアリだな。球体に闘牛のアップとかはパスだな。当たり前すぎて気持ち悪い。」

「衣装は？」

「RED×GOLD×BLACK。」

「ベルギーの国旗にならないように……。」

「そうだね。衣装も話題にしたいから。」

「ソウルには？」

「アレックスとジェシー、RONはNY。COCOとダニーと俺はソウルに。1か月後を目途に。」

(COCOさんって歌も踊りも一流なんだね。俺のパートみたよ。JES👉👉👉)

(リングでわかつちやったね。恥ずかしい)

(なんかもうCOCOさんから抜け出せない。出口はないよ。ずっと引き込まれそうだ。)

(どうしたの？トップスターのJESが。)

(絶対に別れるなんて言わないで。離れないから。決めた。)

(うん。どう踊りの方は……)

(毎日猛特訓。いままでとはまるで違うからどうなるかわくわくしてる。)

(またソウルで会える。)

(リングとブレスレットははずさないでよ。)

(了解です。)

韓流のニュースを見ると、相変わらずBPMの「TRUE LOVE」はトップ。「時間よ止まれ、永遠に」が追っている。印税長者になりそうだ。

「HEART BEAT」はさらにそれを超えるだろう。

そうだ、JESが贈ってくれた歌を聴こう。機内で聴く予定がバタバタしてゆっくり聴く時間がなかった。作詞・作曲・演奏・録音すべてJESだ。美しいギターにやわらかい声。

離れていても いつもあなたを想う
触れてなくても あなたを肌で感じる
あなたの頬の感触が手のひらに残る
キスの余韻が甘く僕の唇をなぞる
抱きしめたときのあなたの香り
今度会ったらあなたのすべてが欲しい

どうか僕のすべてを受け入れて欲しい
あなたは僕のすべてだから JES

素晴らしいメロディと歌声だ。
胸が苦しくなる。
このまま彼を好きでいいのか。
好きになれば別れがつらくなる。
なんで JES なのか。出会う前に戻れたら
こんなに苦しめないのに。

距離があると、ふたりの「想い想われ歌」専用の iPod が切ない。

BPM の特訓は順調だ。やればやるほどセクシーな振り付けだ。COCO さんを想って踊ると感情表現、カラダのキレともに絶好調。

JUNO の兄 TEMI は、BPM の仕上がりを確認しながら、NY、マイアミから客を迎える準備をする。ダンサーチームをゲストハウスに、A-MIX はホテルに。自社の練習室はもちろん、ソウルで一番大型の撮影スタジオを押さえた。

「社長、航空券以外はすべて準備しました。

あとは日程含め最終調整だけです。」

「順調のようだ。BPM の方はどうだ？」

「こちらも仕上がってきました。」

「BPM はいまどれほど稼いでいる？」

「うちの事務所で NO.1 です。特に TRUE LOVE はアジアでトップですから、さらにアップです。」

「メンバーのギャラは？」

「韓国でも一番だと思えます。」

「よくしてやってくれ。きちんと自立できるように。」

「はい。」

「ビルを買い取って貸スタジオに改装する。

手頃な物件をピックアップしてくれ。この件は内密に進める、他言無用だ。」

「そろそろ手狭なのでいい考えです。」

ここ1年、父は資産運用に熱心だ。ビルの買収も2件目だ。俺も JUNO も母さんの資産もあるし十分なんだけど。それに他言無用って母さんに内緒ってことだな。何かある……。

COCO & JUNO ふたりの DOGATTI

2週間後にソウル出発だ。

「ねえ、JUNO。ソウルでバイク乗らない？いちいち送迎車は面倒。監視されているみたいだし。」

「いいけど。大型だろう？心当たらないな。」

「DOGATTIの友達に連絡してみる。確かソウルにランチがあった気がする。」

「レーシングチームの監督か？」

「マルコ、COCOよ、久しぶり。元気？いまモナコ？」

「COCO！ちょうど連絡が取りたかったんだ。NY？JUNOもいる？」

「うん。」

「すぐにモナコに来てくれる？新モデルのPVに出演して欲しい。」

「え？？いきなり？プロに頼んでよ。」

「モナコならロケ地としては最高だし、モデルはCOCO & JUNOで。ちゃんとDOGATTIを乗りこなせないと決まらないし、誰でもできるもんじゃないんだって。編集とサウンドはTEAM A-MIXでお願いしたい。至急の案件！助けて。」

「ソウルに入るのを遅らせないと。JUNOに聞いて！チケットは？」

「もちろんジェットを飛ばすから。」

「こっちのお願いも聞いてもらうからね。」

「なに？」

「ソウルに1カ月滞在するからDOGATTIを2台用意してくれる？ソウルにランチがあったけど。」

「映画撮影用でいい？」

「うん、きちんと走るなら。」

「整備は頼んでおくよ。宿泊先に届けるようにする。」

「じゃあ、明日モナコに向かいます。JUNOとジェシーでね。」

「うちのライダーも同乗するから。」

「JUNO、モナコでモデルだってやる？ソウルを少し遅らせればいいけど。ダンスチームを先にソウル入りでいいか。」

「モデルって、なんで？DOGATTIはミドルエイジがターゲットか？」

「高価だから中高年でしょ。おじさん、おばさんってことよ。」

「何が何でもカッコよく決めてやる。」

「明日午前中に飛ぶって。」

「了解。」

モナコは天気も食事も景色も最高だ。一流のアスリート、俳優、富裕層、芸術家など世界から集まり資産家がほとんどなので、COCOのダディも拠点にしている。飛行場にはたくさんのプライベートジェットが並ん

でいる。海には大型クルーザーが何隻も逗留している。さすがの光景だ。

「おふたりさん、わざわざモナコにようこそ。DOGATTI ニューラインの撮影なんだ。アジア全般の富裕層をターゲットにしたマシンで、カップルでツーリングを楽しんでほしいということで呼んだってわけ。」

「どんなシーンか教えて。絵コンテある？」

「走るシーン、停まって海辺に並んで夕陽を眺める、ヘルメットを脱いでキスシーンって感じかな。」

「キスシーン??? JUNO と? あら素敵!」

「初めてじゃないでしょ、キスシーンは。」

「まあね。他のPVでもキスしたよ。」

「ライダーズーツにブーツ。イメージカラーはRED×SILVERだよ。明日朝4時に集合。夜明け前に走って、日の出を見るシーンから。」

「朝陽と夕陽の2バージョンね。了解。」

アジアってことはソウルでも流れるのかな。JUNO とキスシーンか、ばれたら JES は大変だな。誰ともキスしないでくださいって言われているし……。まさかDOGATTIの動画には気づかないよね。リングとブレスレットははずさないよね。

COCO と久しぶりの撮影だ。キスシーンか、うれしいな。引き受けるんだから年下君とはそう真剣でもないのかな。いいことだ。

DOGATTI はとにかく走りやすい秀逸のモデルで、このまま買取したいくらいだ。カメラマンはテストライダーの撮影で慣れているので、走りながらもスムーズだ。

マシンを降りてヘルメットを脱ぐ。

並んで朝陽を眺める。

そして向き合い抱きしめ合って、

見つめ合ってキス。

こんな流れだ。

身長185cmのJUNO と168cmのCOCO は、キスシーンの身長差がちょうどいいらしい。

サンライズのシーンはさわやかに、サンセットのシーンはも濃密に・・・と監督からのオーダーが入る。

「COCO、真剣に行くからね。」

「うん、JUNO に恋愛ビーム浴びせます。」

サンライズキスシーンは、

JUNO と COCO が向き合う。

JUNO が一歩踏み出し、COCO を見つめる。

COCO の両頬を掌で包み込み、やさしく熱いキス。

サンセットバージョンの撮影は、今までに見たことのない美しい夕陽が、海面をオレンジに覆っている。

JUNO は COCO を抱き寄せ
COCO の首にそっと手を添えて唇を重ねる
COCO は JUNO の首に両腕を回し
JUNO は COCO を強く抱きしめて
さらに唇に甘く深いキス
とても美しく濃厚なキスシーンに、カメラが回り続けた。

10秒程で唇が離れてカット！OK。

スタッフはうっとり2人のキスシーンを見つめていた。

「うわー、最高だよ。オレンジに輝く夕陽をバックに、オトナのラブシーンなんて・・・。COCO と JUNO、最高。ありがとう。」

マルコはこのふたりのラブシーンを見て、早急にアジア全域に配信する準備に入る。

新モデルは、TEAM A-MIX の COCO & JUNO のおかげで確実に反響を呼び、売れると確信した。

すごく素敵なキスだった。JUNO にドキドキだ。カラダから力が抜けたわたしを JUNO が抱いて支えてくれた。JES のキスをもっとオトナにした感覚だ。

COCO と本気のキスは最高にうれしかった。全身が鼓動で震えていた。どうかこのまま俺の胸にすべてをあずけて欲しい。ソウルには行かせたくない。

ジェシーはカメラ越しにふたりを見ていた。やっぱり最高のカップルだよな。COCO と JUNO は、すべてにおいてピッタリだ。さすがに友達は卒業だな。COCO は年下君では到底無理。COCO のソウル病もそろそろ冷めて欲しい。

さて、これから俺たちで最高の PV を作らなきゃね。音楽はどうする？ヒットを飛ばしたいな。

マルコ、任せて。最高にクール&パッションなビデオにしてみせるよ。

5日間のモナコは、2日で撮影は終わり、2日間はフリー。3人でツーリングとグルメ三昧だ。

「撮影は先方のスケジュールで、1週間ソウル入りが延びた。練習ができるからいいとしよう。」

「さらにステップに磨きをかけないと、2拍遅れる。待ち遠しいけど、完璧に仕上げたいからね。」

「そうだよ、JES。なんとって一流の御一行様がソウル入りだからね。」

BPM は相変わらず多忙なスケジュールのなか、ファン氏とダンサーによる特訓に励む。

(ソウル入りが延びちゃったね。JES💖)

(いろいろと仕事の調整がつかなくなったりでごめんなさい。COCO)

(1カ月が1年に感じる。もう限界。会いたい病で入院だね。)

(ソウルでのダンス、期待しているよ。)

(是非、一緒に俺のパートを練習しよう💖)

なんか COCO さんが素っ気ない・・・。💖マークも少ない気が・・・。離れていると変なことばかり考えちゃ

うな。

ブルックリンでは DOGATTI の制作で超多忙だ。

曲は JUNO の一言で「YOU ARE MY EVERYTHING」だ。アジア全域の大ヒットソング。英語バージョンでいく。TEMI 氏とアーティストは快諾だ。

この曲ならすぐにソウルでも話題になる。PV もヒットして、韓国で誰の目にも触れることになれば、年下君も COCO を諦めるだろう。JUNO はそれを理由にこの曲を選んだのだ。

あーもう完全に JES とは終わりそう。よりによって韓国の歌手でアジアの大ヒット曲を持って来るなんて・・・。確かに DOGATTI のコンセプトと歌詞は合致する。わたしが約束を守れなかったんだから仕方ない。言い訳はしたくない。いつから配信かなあ。ソウル滞在中は避けたいけど・・・。

映像は美しく感動的だ。曲も大人のラブストーリーにぴったり・・・。モナコの景色とサンライズとサンセット 2 バージョンは時間差で流したら効果的かも・・・。それにしても JUNO と COCO のキスシーンはビジュアルとして最高だ。A-MIX の代表作品間違いなし。ジェシーはうれしくて仕方ない。

モナコから帰国して 2 週間、徹夜作業で DOGATTI は仕上がった。モナコでは大絶賛。さっそく 2 週間後、中国、日本、韓国、シンガポール、マレーシア、中東エリアを皮切りに、新モデル発表に合わせて配信すること。

COCO は絶体絶命。

3 日後、ソウル入りだ。

COCO@SOUL 「HEART BEAT」

NY から COCO、JUNO、ダニー。マイアミから KIMLEE、女性ダンサー 6 名、通訳兼マネージャー 2 名の総勢 12 名がソウル入りだ。

ファースト、ビジネスクラスに別れて 1 3 時間、快適な旅。仁川空港のゲートを出ると、スタッフがエスカレーター 3 台で迎える。

「ようこそソウルへ。荷物は他のクルマで運びますのでそのままこちらへ。まずはわたしどもの事務所へお越しください。」

エントランスでは TEMI 氏がお出迎えた。

「ようこそソウルへ。契約の確認もありますのでこちらへ。ダンサーの方は練習場にご案内します。」

KIM 先生によって契約内容を確認し、練習室のファン氏の元へ。

「素晴らしい練習用動画をありがとうございました。BPM もそろそろ来るので一度合わせますか？時差ボケなんて言わないでください。」

「日頃から移動が多いので、そんなやわなカラダではないわよ。ファン、久しぶり。」

「KIMLEE、ソウルにようこそ。」

そこへ BPM のメンバーがやってきた。

「COCO さん、お久しぶりです。」

JES は COCO にまっしぐら、そしてハグ。

「元気だった？ダンスの仕上がりを楽しみにしてきたから。」

「明日って聞いていたのに、今日来るなんて嬉しすぎる。」

「相変わらず COCO ファンだね、JES 君は。」

あれ？COCO さんはリングもブレスレットもしていない。どして？周りを気にしてる？

さっそく本番のメンバーと振り付けを合わせてみる。

「ファン、さすが完璧じゃない。」

「まあみてて。曲に合わせるから。」

微調整ですぐにできそうなほどパーフェクトに仕上がっている。もう少し女性ダンサーの速さに追いついてくれれば・・・。

さすが選抜されたダンサーだ。動きに隙がないし、かなりの密着度。首や頬をなぞる指使いにドキッとくる。弾力いっぱいボディラインだ。

うわーセクシー度 MAX！JES かつこいい。

さすが BPM だ。理想通りのシンクロ。これなら世界に十分通用する。COCO は見惚れているな。たしかにかつこいい。

「ファン、3 日ちょうだい。明日から細部の調整に入るからお願いよ。うちのダンサーはシンクロがいまひ

とつ。そっちはステップがもたついている。」

「了解。明日からみっちり仕上げるからそのつもりで。」

COCO、JUNO、ダニーはホテル。KIMLEE グループはゲストハウスに滞在する。夕食は TEMI 氏の招待でゲストハウスにて韓流式 BBQ だ。

韓流スターやダンサーも含め 40 名程参加する。さっそくスタッフによって準備が始まった。KIMLEE は大喜びだ。

(COCO さん、どこにいる?)

(地下の練習室よ、ピアノ弾こうかと。)

(ひとり?)

(メンバーは打合せ、わたしだけよ。いつもの練習室はダンサーが占領しているから。)

(今行く。)

(待っています。)

JES が練習室へ。ここは防音でしかも窓がない。一応グランドピアノがある。

JES は COCO にバックハグ。

「会えた、やっと会えた。滞在はホテル?」

「そうよ。本物の JES だ、うれしい。」

JES は COCO にキスをする。

COCO は JES の手を握り締めてキスに応える。

「HEART BEAT どうだった?」

「素敵な曲ね。振り付けも最高。」

「ねえ、一緒に練習しない? 動画持ってきたし鏡があるから。毎日練習しながら COCO さんのこと考えた。」

「あら、だいぶセクシーに踊っていたけど。それに相手のダンサーはかなり美人よ。」:

「俺には COCO さんしか見えないから。」

COCO は靴を脱いで裸足になる。軽いストレッチをしてから JES と踊る。全パートを覚えているのでスムーズだ。

やっぱり COCO さんとがいい。こんなに密着するなんて初めて。COCO さんは最高にセクシーだ。

ダニーと練習して良かった。身長も同じ 185cm 位だし、シューズを履けばリフトもいい感じだ。

すると JUNO の声が。

「COCO、脚を痛めるぞ。ホテルで少し休まないと。行こう。JES さん、後程 BBQ で。」

また JUNO さんだ。いつも COCO さんを連れて行く。もしかして JUNO さんは COCO さんが好きなのかな?

見えないと思うと JES といる。ソウルでは仕方ない。

(COCOさん、何でリングとブレスレットはずしたの?)
(さすがにいま恋人宣言できないでしょう。)
(NYに置いてきた?)
(まさか、いつも肌身離さず持っているし、リングはネックレスにしているよ。)
(そうなんだ。嫌になったのかと・・・。)
(そんなことあるわけないでしょ。JESが離れることはあるかもね。スターだから。)
(ありえない。)
(だいぶ騒がれているみたいだし、女優やダンサーと。)
(ただのゴシップ。宣伝もあるから。)
(仕事なら仕方ない。キスシーンもなかなかでしたけど。)
(ドラマ観たの?)
(うん、キスシーンにベッドシーンもね。)
(ジェラシー??? COCOさんが。)
(恋人だったら当然でしょ。相手は若くてキレイな女性ばかりだし。)
(俺にとってオンナはCOCOさんだけです。)

18時には次々とクルマがゲストハウスに入ってくる。最高の食材が客人を迎える。同業なので会話は弾む、あちらこちらで歌って踊って、最高の宴だ。もちろんJESはCOCOにぴったり。

「やっぱり飛行場のキスシーンもあるし、JESとCOCOさんは恋人同士?」

「JESにはいろいろ噂もあるけど、あの感じじゃベタ惚れね。」

「だいぶ年上じゃない?」

「JUNSが狙っているって。」

「JUNOさんが本命でしょ。」

「COCOさん、お久しぶりです。おかげさまでデュエットは絶好調です。また是非曲を作ってください。」

「相変わらず素敵なお声ですね。わたしよりJUNOがいますよ。」

「COCOさんのピアノで・・・。」

「いまからやりましょうか? JUNSさんの好きなHOW CAN I LOVE YOUで。」

「是非。」

COCOはセンターのピアノでイントロを弾き始める。会場は一斉にピアノに注目。JUNSがCOCOの肩に手を置いて歌い始める。甘いメロディに酔いしれる。JUNSとCOCOは視線を交わしながら歌う。

するとサビの部分の英語でCOCOとJUNSのハーモニーだ! COCOの歌はJESしか聴いていない。観衆はCOCOの素晴らしい声に驚く。ハスキーでいて音域がある。FELIXに似ているのかJUNSとピッタリだ。

「動画は撮っているな。」

TEMI氏がスタッフに確認する。この声なら、是非ピアノ伴奏とセットでデュエットをお願いしたい。

「JUNO、COCOさんは歌もハイレベルだな。」

「踊りも歌もプロだよ。ただピアノが飛び抜けた才能で、クリエイティヴは世界クラスってことだよ。」

「JUNSとのデュオはどうか・・・。」

「本人はやらないと思うけど。PVに参加するならアリかも。考えてみるよ。」

JESよりはJUNSの方が安全圏か。

拍手喝采でアンコールに「TRUE LOVE」のかけ声が……。BPMがさっと位置に着く。

KEIのささやくような声で始まる。COCOの演奏は素晴らしい。KIMLEEやファン氏も聴き入っている。6人全員でコーラス。そこにJUNOとCOCOがさらに違う音域でハモる。8重奏だ。

最後にアドリブ、ダニーの伸びのある高音で終わった。即興とは思えない演出に観衆は大喜びだ。

何をやってもカッコいいTEAM A-MIX。すぐに動画アップだ。観衆のSNSに次々アップされる。

さあ、明日から忙しい。

JUNSとCOCOのデュオ、BPMとTEAM A-MIXのコラボ動画は検索トップ。書き込みも凄い。

(A-MIX ソウルにいるの?)

(是非ライブやって!)

(JUNSと出演して欲しい)

(BPMと共演して欲しい)

凄いコメント数だ。TEMIはどうしても音楽番組に出演させたい。

2時半ホテルに入った。さすがにソウル入りした当日の忙しさに疲れた。

(COCOさん、どこ?行ってもいい?)

(バーで待ってる。)

20分後、JESはバーに。

「今日は忙しかったね。やっと2人だね。」

「ほんと、凝縮された1日だった。空から地上に。踊って、歌って、弾いて。」

「悔しいけどJUNSさんとのデュオ最高だった。それにJUNOさんとダニーさんも凄い。COCOさんの周りは素晴らしいオトコだらけだ。俺が惨めになる。」

「何言ってるの、アジアの大スターが……。」

「COCOさんと恋人宣言したい。」

「何もみんなに知られる必要はないんじゃないかしら?」

「公認の仲にならないと心配で頭がおかしくなりそうだ。」

「いまは無事に撮影を終わらせることよ。JESのために最高のMVを作りたいから。」

「撮影が終わったら遠出しない?」

「ツーリング行こうか。大型バイクあるし。運転できる?」

「もちろん。どこにバイクがあるの?」

「ホテルに停めてある。明日からソウルでバイク通勤よ。」

「COCOさんが大型バイクに乗るなんて最高にクールだ。」

「JESは?」

「バイクをかうお金はあるし、乗りたいけど暇がない。」

「そっか。あたしは通勤やら毎日乗っているから、ソウルでも乗りたかった。」

「じゃあツーリング行こう。走行中でも韓国が誇る NEXT DOOR のインカムがあるから任せて。」

「是非明日メンバー分を購入します。おつきあいください。」

「連絡するね。練習スタジオに来るでしょ。」

「うん、早く帰って休んで。」

それから3日間、来韓したダンサーと猛練習だ。その合間に番組収録やドラマ撮影が入る。BPM のマネージャーはスケジュール調整に大忙しだ。

JUNO とダニーは「HEART BEAT」の曲をダンスに合わせながらの編集だ。COCO は DOGATTI で移動しながらショッピング。

「COCO さん、TEMI です。打合せのお時間いただけますか？」

「はい。いまショッピング中です。ランチご馳走してくれますか？」

「はい。お連れしますよ。」

「では10分後、事務所のエントランスに向かいます。」

「お待ちしております。」

10分後 TEMI はエントランスへ。すると大型バイクが入ってきた。珍しいな、DOGATTI か。

え?? COCO さん?

ヘルメットをはずしたら COCO だ。

「COCO さん、このバイクは？」

「滞在中、撮影用の DOGATTI を拝借しました。乗りやすいですよ。」

本当にスケールの大きい女性だ。周囲も桁外れで驚かされる。JES が惚れるのも無理はないが、JUNO が恋人と聞いている。

「何をご希望ですか？」

「韓国家庭料理!!」

「わかりました。」

TEMI 氏が COCO を連れて行ったのは、邸宅を改装した韓国料理レストランだ。

「メニューはお任せします。」

次々と美味しい韓国料理が出てくる。食いしん坊の COCO はうれしい。

食べるのもピアノ同様豪快な女性だ。JES でなくても惚れる。

「COCO さんお願いがあります。」

「はい、なんでしょう。」

「ソウルで楽曲を発表しませんか? TEAM A-MIX として、できるなら韓流とのコラボでお願いしたいのですが。」

「JUNO に一任しています。是非お兄さんから依頼してみてください。」

「COCO さんからの一押しをお願いします。」

「韓流スターとですか・・・。誰がいいかな。TEMI さんから候補を出してみてください。ピアノですよね。」

「歌もお願いしたい。」

「え??？」

「BBQの時に聞き惚れました。JUNOもかなりのレベルですし、COCOさんの歌も素晴らしい。」

「考えてみます。」

「できるならソウル滞在中に。それと年末の音楽祭に出演をお願いしますか？」

「年末ですか？12月31日カウントダウンとか……。日本みたい。」

「はい。いかがでしょうか？」

「それもメンバーと相談します。」

「COCOさん個人としてはどうですか？」

「うーん。JUNO次第ですね。わたしだけでは何もできないので。ソウルは遠い。」

「いいお返事をお待ちしています。」

「これから練習スタジオに入ります。」

COCO、JES とデート

明日はいよいよ本番の撮影だ。今日は夕方から休養で自由時間だ。

(COCO さんどこ?)

(ホテルに戻ってる。)

(デートしよう。遊園地に行こうよ。クルマで16時に迎えに行く。地下の駐車場で♡)

(了解です。)

美容院に行こう。COCO はホテルの美容院に向かった。JUNO はラジオ番組に出演予定だ。ダニーは映像のチェックで忙しい。

今日のファッションはダナキャランのブラックのブラウスにブラック&ホワイトのストライプのテーパードパンツ。真っ赤なプラダのサンダルにリュック。赤毛に良く似合う。

そしてペアリングとブレスレット。

JES は練習を終えて着替えに宿舎に戻る。

COCO さんはリングとブレスレットしてくれているかな。

16時、JES の運転する紺の Audi がホテルの地下駐車場に入る。入口に COCO が待っていた。

急いで助手席に乗り込む。

「普段の日のこの時間は遊園地も人が少ないからいろんなアトラクションに乗れる。」

「すぐに JES ってわかっちゃうから大変だよ。」

「別にいいもん。COCO さんと写真撮られたって。飛行場のキスシーンで有名だし、今日は遊園地のキスシーンにしようかな。」

JES の言う通り、遊園地はガラガラだった。

すでに入場口のスタッフにバレバレ。いきなりジェットコースター。そしてバンジーマシン。バイキングと絶叫系を次々はしごだ。

観覧車に並んで座ると、いきなり肩を抱かれてキス。前の車両から見られるって。もうすでに撮られているかも。JES はまるで動じない。堂々と手をつなぎ、肩を組み、観覧車でキス。ソウルの景色はきれいだ。漢江が美しい。観覧車を降りた途端にシャッター音が。人だかりができて一斉にカメラを向けている。JES は COCO の手を握り、人込みをかき分けながら歩く。白いブラウスにレモンイエローのパンツ、キャップにサングラス、全てグッチコーデの JES は最高に目立つ。警備員の配慮で遊園地を脱出。

「SNS はきつと凄いね。俺は構わない、恋人と撮られるのはうれしい。公開デートみたい。」

「マネージャーに怒られるね。」

「漢江のカフェに行こう。」

カフェはカップルが数組。中途半端な時間らしい。奥の窓際に座る。

「映画に行こう。」

JES は携帯で映画館を調べる。

「アクション映画にしよう。」

座席を予約する。

「この映画館はカップル用に大きな椅子でくつろぎながら鑑賞できる。それに館内には数組しか入れないんだ。デートに最適。」

「いつも誰と行ってるの？」

「メンバーと・・・。」

「ふーん。」

カフェを出る頃には JES とばれていた。もう写真を撮られることに麻痺したようだ。JES と COCO はキャップにサングラス、でもバレバレだ。

映画館はリクライニングシートにテーブル、ふたりだけの映画館のような作りだった。平日だからか JES と COCO だけ。ポップコーンとコーラで最高に楽しい時間だった。

夕食はサムギョプサル。店は繁華街にある。ここでも JES は堂々と手をつないで歩く。さすが退勤時間も重なり人出が多い。あちらこちらから「JES だ」の声が。

店に入ると客が気づく前に奥の席に着く。

10分後には被写体だ。それもかまわずサムギョプサルを堪能する。

もう周囲を気にしてられない。どうせ逃げられないなら、思い切り被写体になってやると開き直った。それにハングルはわからない。

「クルマはどうする？」

「あとでマネージャーが迎えに来るし、クルマはスタッフが取りに来てくれるから、マッコリを呑もう。」

ホテルまで送ってもらい部屋に戻る。やっぱり JES はスターだ。パソコンで JES を検索すると写真だらけだ。トップは観覧車のキス写真。漢江のカフェ、サムギョプサルの店、繁華街。どう見ても恋人同士だ。それにリングとブレスレットのドアップ写真もある。確かにここは全市民が一流カメラマンだ。

また JUNO に怒られそう。

JES はアップされた写真がうれしくてたまらない。特に観覧車のキス写真は最高だ。リングとブレスレットのアップなんて、撮った人を褒めたいくらいだ。

「JES、ここまですれば公認だよ。しばらく大変そうだね。」

「撮影でスタジオにこもっているから記者に追われることもないよ。」

今日から振り付けの撮影だ。関係者全員が見守るなか、10時に始まった。十分に合わせたのに緊張のせいかな、なかなか OK が出ない。KIMLEE とファン氏の英語とハングルが飛び交っている。

「COCO、昨日は無防備過ぎるぞ。JES はともかく COCO がきつくなるから。ソウルの遊びはいい加減にしろよ。」

「遊びじゃないもん。」

「どう考えたってつきあうのは無理だろう。ソウルだけで遊んでいればいいよ。NY からバルセロナに移るんだから、ソウルの恋人はあり得ないことだろ？好きだけで突っ走るなんてらしくないぞ。」

本気の恋って相当難しいみたい。距離ってそんなに重要？アーティスト同士だったら、ツアーに出れば1カ月～3カ月会えないカップルだっているのに。

本番の撮影は3日間で無事終了。あとはNYで音響などの効果音やビジュアルなど編集作業だ。KIMLEEは、ソウルでファン氏と仕事をしてから帰国するのであと1週間は滞在する。

COCOとダニーはBPMのビジュアルがあるので明日帰国。JUNOはTEMI氏とソウルの仕事の打合せで数日遅れての帰国だ。

収録を終えたJESが23時にホテルに。

「COCOさん、明日空港まで送るね。ツーリングは次回必ず。」

「うん。そうしよう。ソウルでライブやるとか、レコーディングとか、それに年末の音楽祭に出演とかTEMI氏からいくつもオファーがあるし。」

「ほんと？」

「JUNOが了承すればだけど・・・多分。」

「明日14時の便だから、11時に迎えに行くね。空港のラウンジでゆっくりしよう。」

12時に仁川空港に到着。JESは堂々と空港をCOCOと歩く。なぜか記者がいる。誰か韓流スターの取材か？

「JESさん、恋人の見送りですか？」

「JESさん、お相手はTEAM A-MIXのCOCOさん？」

「いつからおつきあいしていますか？」

「カップリングですか？」

次々ハングルで質問が浴びせられるなか、JESは搭乗手続きを終え、ラウンジへ。JESはどこでも顔パスらしい。記者からやっと解放された。VIP専用ラウンジにはふたりだけだ。JESはCOCOの手を握っている。

「離れているけど俺たちは大丈夫だよ。」

「消滅するならそれまでってこと。形は変わっても愛は変わらないって思ってるよ。」

「そうだよ。COCOさん、愛してる。」

「またすぐに会えるよ。COCO & JESがあるし。JESは忙しいからあつという間に時は過ぎるよ。」

「確かに年末までスケジュールはぎっしり。MVが発表になればもっと忙しくなる。」

「あたしもバルセロナへの移転もあるし、仕事も移動するから大変かも。」

空港スタッフが搭乗時間を告げる。

「じゃあまたね。仕事のラブシーンやゴシップはほどほどに願います。今回のMVも気分良くなかったんだ、実は・・・。それにわたしはジェラシーMAXタイプだから。」

「えええ？そうなの？うれしいな。」

JESは搭乗口に向かうCOCOの腕を引いて抱きしめる。そしてキス。本物のキスだ。

COCOはJESにカラダをあずけた。ゆっくり深いキスだった。

ラウンジのスタッフはびっくりして部屋を出る。JESはCOCOから離れない。COCOはそっとJESの頬に手を当てて、唇を離した。

「行くね。素敵なキスをありがとう。」

「愛する人と離れるってこんなにつらいなんて知らなかった。」

JESはそう呟きながら COCO の後ろ姿を見送った。

JUNO は COCO とのレコーディング、ライブ、年末の音楽祭の出演について TEMI と打合せだ。A-MIX も仕事が詰まっている。レコーディングについてはペンディング、音楽祭の出演は調整することで話はまとまった。

「ソウルは自分の国だけど遠いんだ。だから調整が困難で。近いうちにバルセロナに移転する。こちらもソウルまでは NY と変わらず移動に 1 日かかる。すべての仕事をこなすための長期滞在となると、チームの仕事に支障がでるし。すぐに OK とはいかない。」

「前向きに考えて欲しい。そういえば JES が COCO さんと付き合っているらしい。」

「どうかな。遠距離だしソウル滞在が続いたから仲良くなった程度じゃない？」

「JUNO が本命だと聞いたけど。」

「ずーっと一緒にいるから、COCO にとって空気のような存在なのかも。俺はずーっと一緒にいるつもりだよ。」

「親父が夕食を一緒にしたいって。母さんとはきちんと会っておけよ。」

「もちろんそうするよ。」

今日の 17 時、屋外スクリーンに DOGATTI の PV が YOU ARE MY EVERYTHING の曲とともに流れた。ネット上で動画配信されている。

(DOGATTI の PV、カッコ良過ぎ。)

(モデルが素敵!)

(もっと流して・・・)

(このカップル誰? キスシーンが最高!)

洗練された映像と韓流歌手のヒットソング、配信と同時にコメントが書き込まれていく。

「JUNO、うちのスクリーンに流れている DOGATTI の PV、モデルは JUNO と COCO さんか？」

「歌手はこの所属だから大々的に流しているのか・・・。そうだよ。かっこいいだろ。」

「かなりの評判だ。検索数もトップ。ダウンロード数も凄い。どう見ても恋人同士だな。」

「まあそういうことだよね。」

「JES はショックだろうな。」

「韓流スターはドラマや CM、MV でラブシーンだらけでしょ。気にしないんじゃないかな。」

「JES、見た？」

「何が？」

「YOU ARE MY EVERYTHING で検索してみて。」

「DOGATTI の PV が何か？」

「最後まで見て。」

JESは声も出ない。この素敵なキスシーン2本はJUNOさんとCOCOさん？夕陽や朝陽が顔にあたって、はっきりの確認できないけどシルエットはまさにそうだ。

「JESはショックかもしれないけど、一流の映像だよね。本当に美しいよ。」

「韓国で話題独占だろうな。大ヒットした曲だしね。」

この2人は本当にお似合いだ。誰もがそう思う。JUNOさんがうらやましい。COCOさんとこんなにピッタリなんて。COCOさんだって凄いラブシーンを撮っているし。俺の方が嫉妬するよ。

JUNO と JES

JUNO は母が代表の財団を訪ねる。ここは美術館も兼ねている。この時期は現代芸術の展示らしい。COCO が好きそうだ。

「気に入ったのがあれば、引っ越しのお祝いにどうぞ。」

「母さん、久しぶり。近々ブルックリンからバルセロナに移転するよ。2点ほど購入しようかと・・・。」

「COCO さんの好みならソウルの作家と、アルゼンチンの作家が面白いかも。」

「僕も好きだ。COCO のいまはパッションータだからいいかもね。お祝いでもらえるの？」

「当たり前よ。息子からお金はいただけないわ。NY 便が決まったら梱包して積み込むから。明日の夕食は付き合っただけ。」

「もちろん。」

「その前に、チャリティパーティがあるの。それも付き合っただけ。」

「正装？」

「そこまでじゃないから気楽にね。わたしもワンピースよ。エスコートしてね、JUNO は自慢の息子だから。できれば演奏して欲しいけど。」

「ピアノあるの？」

「もちろん用意する。」

「じゃあ、母さんのご希望を叶えます。」

「明日15時に迎えに行くわ。ホテルね。」

「JUNO、今晚夕食に3人で行こう。」

「父さん？いいよ。TEMI もでしょ。」

「19時にホテルに迎えに行く。」

今日、明日と親孝行だな。久しぶりだから断れない。COCO は仕事しているかな。顔が見たい。時差があるからまだNYは早朝か・・・。あとでリモートミーティングだ。オトコ3人の夕食会なんて何年ぶりだろう。

ブラックのイッセイミヤケで決める。マオカラーのジャケットにストレートパンツ。白いブラウスはスタンドカラーで。グッチのモカシンにサングラス。モデル以上の容姿は相当目立つ。ホテルのエントランスでは視線集中だ。メルセデスのリムジンが入ってきた。

「相変わらずかっこいいな。」

「TEMIこそ今日はヴァレンティノか。」

「父さんは現地集合だ。韓流懐石で料亭だ。」

10分程で邸宅を改装した高級料理店へ。奥の座敷に通されると父がいた。

「おう、2人とも揃ったか・・・。」

「どうしたの急に・・・。」

「まあ、食べよう。」

家庭料理と違って繊細な味で盛り付けが美しい。器も一流だ。
最後のデザート、ライチが運ばれた。

「実は重要な話がある。2人の胸に留めておいてほしい。母さんには絶対に内緒だ。」

「愛人でもいるの？隠し子とかさ。」

「・・・・・・・・。」

「父さん、そうなの？」

JUNO が驚く。TEMI は顔色一つ変えない。

「母さんと結婚してから好きな女性がいた。結婚生活はそれなりに満足だった。なのに出逢ってしまった。別れることはできなかった。お前たちが生まれてしばらくしてから彼女に子供が生まれた。そしていなくなったんだ。必死で探して見つけたときは、2歳の男の子と釜山で慎ましく暮らしていた。陰ながら援助をしたが、2年後彼女は病気で亡くなったんだ。息子をわたしに託して……。母さんの実家の手前、一緒に暮らすことはできない。友人の病院が経営する施設に預けたんだ。もちろん十分な援助は惜しまなかった。」

「いまは？どこにいるの？」

「28歳、立派に育ってくれた。もちろん、わたしが父親だということは知らない。」

TEMI は一言も話さないで聞いている。

「よく聞いてほしい。JES が君たちの弟だ。」

「え！！あの韓流スターのJES？」

「父さん、JES のためにビルを買収したりスタジオを作ったりしてたんだね。」

「ああ、何か残してやりたくて、できる範囲でJES 名義にしている。母さんには言わないつもりだ。気づいているかもしれないが。」

「その女性を愛していたんだね。」

「最初で最後の恋愛だった。もちろん母さんとの結婚生活には満足している。素晴らしい息子にも恵まれた。でもどうしようもなかった。わかってくれとは言わない、知っていて欲しかったから話した。」

「オトコだから理解できる。もちろん母さんには口が裂けても言えない。気づいているかもしれないけど、聞かれたら否定する。」

「TEMI と同意見だ。父さんを否定しないし、JES も受け入れるよ。」

「JES には時期をみて話すつもりだ。」

「兄弟ともにJES と仕事をしているし、特別いままでと変わらないよ。わざわざ今話すことでもないし。」

「出来のいい息子3人なんて父さん凄いね。」

「ありがとう。」

JES が弟か……。同じ女性を好きになるのは同じ血が流れているからか……。いつかは知ることになるだろうけど、それは当分先だな。

23時、さてブルックリンに連絡しよう。

(COCO さん、DOGATTI 見たよ。悔しいけど素晴らしい映像だった。)

(やっぱり相当流れたのね。)

(だってうちの所属歌手だし、屋外スクリーンで流しまくりだ。)

(もう、JES のラブシーンに文句言えません。)

(なんで JUNO さんなの?)

(DOGATTI の指名だったから。知り合いだし。)

(ふーん。)

(忙しいみたいね。JES は毎日動く先々で撮られてアップされるからソウルにいるみたい。)

(リングとブレスレットは?)

(もちろん、はずさないよ。)

(リハーサルが始まる。またね。)

(頑張っ。)

(何があっても愛してる)

(COCO)

BPM 「HEART BEAT」 始動

DVD ジャケットデザインはアレックスだ。BLACK×RED で心臓 (♥) をイメージ。メンバーそれぞれのセクシーカット、各パートの歌詞が入る。

「アレックス、最高！カンプレーションは JUNO に送った？」

「そろそろ連絡あるよ、きっと。」

「ジェシー、ダニー、ビジュアルは？」

「パッションータ全開に仕上がった。」

「JUNO に見せるよ。COCO、JES に惚れるなよ。」

「もう、十分惚れてます。」

COCO のソウル病はまだ継続中か……。

JUNO は MV 最終調整、DVD 発売までソウルにいるつもりだ。MV の背景、ビジュアルと音響、歌、ダンスすべてがひとつになった映像は新しい。全編英語で、ラップはスペイン語も入る。そしてヒスパニック系のセクシー美女とのカップルダンス。韓流にはない新生 BPM が誕生した。ポスターデザインも TEAM A-MIX だ。

明日、動画配信がスタート。今晚中にソウルの街に彼らのビジュアルが登場する。駅、バス停、商業施設などにポスターが貼られ、街中の屋外スクリーンや屋内ビジョンに彼らの MV が流れ、バスや地下鉄の車内や外装はラッピングされる。ソウルが BPM 一色に染まる。壮観だ！その様子を動画撮影し NY に送る。きっとメンバーは興奮して喜ぶだろう。

BPM のメイキング映像も流す予定だ。振り付け、歌のレッスンなど「HEART BEAT」が完成するまでを追った映像だ。BPM の音楽を愛する姿を感じて欲しいと COCO の願いだ。より彼らはアーティストとして深味を増すだろう。

予想通り、翌朝から SNS に写真がアップされ、書き込みが殺到する。ソウルの朝が BPM で染まる。アーティスト冥利に尽きる光景だ。

書き込みもにぎやかだ。

「ここまでする JUNO さんって凄い。」

「A-MIX の仕掛けだって。ソウルが俺たちの街になっている。メイキングなんて最高。」

「振り付けやビジュアルがヒスパニック調で新しい。いままでの BPM とは違う雰囲気だ。」

「JUNO ありがとう。ここまでとは……。さすが世界の TEAM A-MIX だ。メディアジャックのアイデアも素晴らしい。新しい形だ。チームに感謝する。」

「アメリカの 17% を占めるヒスパニックの心に響かないとね。このダンスなら間違いなく話題になる。ギャラは最高額をいただくから覚悟してね。」

「会社の利益を考えれば当然だ。」

JES はただただ A-MIX の凄さに驚くばかりだ。

本当に桁外れのチームだ。俺たちをここまで引き上げてくれるなんて……。これもすべて COCO さんとの出会いから。ジェラシーなんてほんと小さいことだ。絶対に COCO さんを離したらダメだ。俺が成長する姿を彼女に見届けて欲しい。出口なんてあるわけない。もう抜け出せないんだ、彼女から。

(COCO さん、ありがとう。ソウルが BPM で染まった。JES💛)

(動画見たよ。かっこいいね、さすが。)

(COCO さんたちのおかげです。やることがハンパない。)

(当然、わたしは TEAM A-MIX の COCO よ。)

(会いたい。死ぬほど会いたい。抱きしめたい。キスしたい。)

(すぐに会えるよ。これから忙しいよ、JES は。プロモーションがあるでしょ。ツアーもあるし、ファンに新生 BPM を見せないと。それにアメリカツアーの準備をしないとね。)

(ソウルに来て。アメリカに行くまで待てないよ。)

(また連絡するね。JES を愛する COCO💛)

また JES はわたしから一段と遠い存在になるのか。作品を通して一緒に進んでいくのか。まだまだ未知の関係だ。でも人を愛するのに理由はいらない。わたしは JES を愛している。

COCO が帰国してから 3 週間。新生 BPM の反響も見届けたし、成功する可能性も十分。あとはアメリカデビューの準備だ。アジアツアーと同時に仕掛けなければ……。まだ NY を離れられない。JUNO は明日帰国する。

COCO と JES と JUNO

BPM は収録や番組出演で超多忙だ。舞台のセットもどんどん豪華で複雑になってくる。

各ダンサーのポジションや、振り付けを考えたスペース、心臓の鼓動を意識したセットなどいままでにはない広いスペースを確保しなければならない。

歌番組の舞台装飾スタッフは大道具の設置に慣れていない。照明も BPM 仕様に細かく指示されている。すべて JUNO の指示だ。妥協は許されない。話題の楽曲だけあって注目度も高いし、出演回数が多い。合間の設置時間に余裕がない。

「今日は設置スタッフが少ないけど、大丈夫なのか？」

「はい。時間はかかりますが何とか間に合わせます。」

「収録だから照明は特にチェックするように。舞台設定は少々時間がかかっても問題ないから。」

いよいよ BPM の収録だ。A-MIX の鼓動の音は低音が効いてワクワクさせる。センターを照らす照明は、オレンジに光るパッションータ全開だ。

JES がセンターに入りダンサーとカップルダンスに入った。すると舞台中央の大型照明が揺れ始め落下した。大きな音とともにガラスの割れる音が響いた。あつという間の出来事で埃が舞う。叫び声上がる。

「JES の上に落ちた。JES が下敷きになっている。照明をどけて。救急車！」

BPM のメンバーが近寄り叫ぶ。一斉に舞台に駆け上がる。JES は動かない。ガラスが刺さったのか血溜りができ始めている。

5分後にドクターカーが。照明が持ち上げられ、JES をタンカーに乗せる。救命医によって止血、点滴されながら運ばれた。TEMI 氏が同乗する。

救急入口から救命センターに運ばれる。スタッフに声をかけられても JES は反応しない。

「すぐに MRI の準備！」

「内臓の一部が損傷。血液検査、輸血準備して。」

「先生！AB の RH マイナスです。すぐに輸血センターに連絡します。」

「家族は？血液検査に協力してもらって。」

JUNO が病院へ到着。

「JUNO、血液検査だ。AB 型か？」

「確かそうだった。」

JUNO の血液採取。JUNO は RH マイナスだ。

「お兄さんですか？よかった。これで間に合う。すぐ輸血します。」

JES は手術室に運ばれた。腎臓が損傷しているとのこと。

「JUNO 大丈夫か？JES の血液は珍しいのに JUNO も同じとは。良かった。」

「相当採取されたからクラクラする。何があったって？」

「大型照明が落ちて下敷きになった。」

「ソウルの舞台スタッフは最低だな。」

「すぐに替える。こじんまりの装置に慣れて、気が緩んでいるのか。」

「帰国は延ばすことにする。父さんは？」

「今向かっている。」

6時間にも及ぶ大手術だった。父、TEMI、JUNOは3人で無言だ。

「幸い出血も治まり、腎臓も摘出しないで済みました。ただしガラス片によって、相当量の出血でショック状態でした。まだ意識は戻りません。今日、明日と慎重にICUで見守ることになります。」

「ありがとうございました。」

「JUNO、大丈夫か？よかった、血液が適合して。ソウルにいてくれて感謝だ。TEMI、後のことは頼む。JUNOは戻って休め。わたしがついているから。」

「何かあったら連絡してね。ホテルに戻る。」

この事故はBPMによってCOCOは知る。NYは夜中の0時。TEMI氏に連絡する。

「COCOです。JESは？無事なんですか？」

「6時間の手術でした。JUNOがいて助かりました。大量の輸血が必要でJUNOが唯一適合したのです。まだ意識は戻りません。」

「病院は？」

「COCOさんが入院した病院です。」

「そちらに向かいます。到着時間がわかり次第ご連絡しますのでお迎えをよろしくお願いします。」

「え？NYからですか？」

JUNOに父から連絡だ。

「傷口から出血した。悪いが病院に戻ってくれるか。」

「すぐに行く。」

JUNOは病院着でベッドに横たわる。JESのために採血だ。

「オトナの男性ギリギリまでの量を採血しますので2日間の入院です。」

「はい。」

「KEI、お願い。ジェット飛ばして！一生かけても航空運賃払うから。お願い。」

「どうした？ジェットは待機させるけど。」

「JESが事故で瀕死の状態、JUNOがたくさん血液をあげて大変なの。JUNOは入院で、JESは意識が戻らない。どうしよう。」

「わかった。すぐに準備して連絡する。」

COCOはメンバーに連絡を入れる。みんな制作室で仕事をしている。

「JESとJUNOが大変なの。照明が落下してJESが下敷きに。JUNOが輸血して入院。とにかくジェットを飛ばしてもらってソウルに入る。」

「COCO一人じゃ心配だから俺も行く。ちょうど仕事も終わったし。」

「RON、お願い。」

ジェットは3時間後に飛べるとのこと。COCOとRONはジェシーの運転で飛行場に向かう。「2人とも大丈夫だよ。JUNOの仕事もあるしソウルでやることはたくさんある。なんかここ数カ月ソウルに翻弄されているよな。」

「うん。」

飛行場にはKEIが。

「どうせソウルに飛ぶなら、母さんが付き添いで行けって騒ぐし、事故の件もある。それにソウルの仕事も増えて、契約の件も見直すから行くことにした。それにJUNOもCOCOも心配だし。」

「COCO、機内で休んでね。」

「ありがとう、RON。KEI、TEMI氏に連絡してね。迎えのクルマを頼んだから。」

明日夕方に到着する。

「ジェットでNYから明日夕方到着だ。」

「誰が？」

「COCOさんだ。BPMに聞いたらしい。すぐに電話が入った。」

「COCOだけ？」

「RON氏とKEI氏がソウル入りだ。」

「助かった。仕事はRONとCOCOに頼めるし、契約の件はKEIが来たし。ありがたい。」

「宿泊はホテルを用意する。BPMは当分難しいな。」

「JESが回復しないとね。」

「ドラマやCMと、それぞれの仕事を片付けるようにする。記者発表もあるし。事故の件はすでにSNSにダダ漏れだよ。」

TEMIは記者会見の準備だ。プライベートジェットなんてCOCOさんにとってJESとJUNOは大切な存在なんだろう。周りは振り回されっ放しだが助かる。

JESの事故は大きなニュースとなった。公になることで仕事への影響を最小限に抑える。

COCOは飛行場から迎えのエスカレードに乗り込み病院へ。

「JUNO、何があったの？顔色は悪いし。輸血したって??」

「JESはICUだ。まだ意識は戻らない。」

「うん。ガラス越しでしか様子がわからなかった。」

「必ず回復するから大丈夫だ、若いから。」

JUNOが退院した翌日に病状が安定したJESは特別室に移された。目覚めるのも近い。

ソウルではMVの調整をNYとやり取りする毎日。個人のパートはKEIとTECKが撮り直しに入る。プロ集団は一切妥協が許されない。エンターテインメントの欧米で鍛え上げられたチームには、アジアレベルでは太刀打ちできないとTEMIは痛感した。

装置に不安があるので、ライブ用に縮小バージョンの舞台装置と設置法に切り替える。完治するまでのJES用に振り付けを考案。JESはボーカルメインで、カップルダンスはしばらく封印だ。

MVの完成で、全米とヨーロッパの主要音楽ポータルサイトから配信する戦略だ。JESが完治したら音楽番組出演のスケジュール調整に入る。ダンサーの契約や演出も含め膨大な事務作業がある。ここはCOCOとJUNO、KEIの出番だ。

彼らがいなければ、アジアの小国が、ここまで国境を超えて、パーフェクトなプロジェクトを完成することができただろうか？TEMIは自分に降ってきた幸運に感謝する。そして韓流スターの未知数な魅力を、TEAM A-MIXによってさらに引き出すことができると確信した。

「アジアでヒスパニックの香りがするグループがいるんだけど、BRADのサイトから配信しない？新しい風が吹くかもよ。最近のマンネリから脱出しようよ。」

「COCO、いきなり久しぶり。ダニーやRONとは話すけど。新しい逸材ってどこに？」

「A-MIXでMV作ったの。アジア×ヒスパニックでKIMLEEの振り付けよ。それにいまソウルにいるRUDYの曲。トータルアジアよ。どう興味ない？」

「歌詞はもちろん英語だよな？発音は？」

「ラップパートはスペイン語を入れて、全編英語よ。発音は問題ない。あたしが話していると思って。」

「デモテープある？」

「ダニーがそっちにデータを送信した。MVももう少しで完成する。」

「A-MIXなら信用するよ。他の仲間にも連絡する。デモテープはティザー効果を狙って、一斉に同じ時間に流したら面白いかも。」

「ありがとう。いいの？」

「そちらには借りがたっぷりあるので、少しでも返さないね。」

BRADがメジャーの音楽サイトに飽き飽きして、仲間とインディーズ系のサイトを立ち上げたとき、TEAM A-MIXがMV作成したバンドがライブ出演、一気に広がった経緯がある。それからA-MIXが発掘したアーティストを優先的に配信するようになったのだ。

「COCOたちのイチオシなら間違いなくヒットするよ。了解。」

「他の仲間にもわたしから連絡するから、BRADからもよろしくね。」

「COCO、もしかしてBRADってTHE INDIESの？」

「KIMLEEも知っているよね。そうだよ。彼のINDEPENDENT精神に惚れて、スタートからいろいろと組んでいるんだ。」

「A-MIXの推しだったから一気に成長したって噂は本当だったのね。」

「そこまでじゃないけど、いい協力関係ね。」

「BRADからインディーズ系のサイトに一気に広まるね。」

「まずは聴覚を刺激するつもり。」

「ヒット間違いのないね。さすが用意周到だ。あたしも含めマイノリティのつながりっていまのカルチャーでは絶大だね。COCO、ずっと仲良くしてね。」

2人の会話を聞いていたTEMIはさっそくスタッフにTHE INDIESのサイトを開くよう指示をする。そのサイトにはアメリカのインディーズ、そしてマイノリティのアートがすべてある。ここから韓流のBPMが配

信されるなんて夢のようだ。メジャーを狙って数年費やすより何倍も効果的だ。絶対に A-MIX との協業関係は継続しなければ。韓流の可能性がもっと広がる。

「JUNO、配信の方は BRAD に頼んだ。デモテープを仲間のサイトにも声かけて、一斉に同時配信、聴覚を刺激するって。」

「面白そうだな。さすが INDIES だ。彼らは COCO の話なら全て快諾するはずだよ。」
COCO に関わると必ず成功するのは、彼女の鍛え上げられた感性と、人を信じる心があるからだ。そして何より仕事を愉しむ姿が美しい。その輝きは学生時代から変わらない。ずっとずっと惚れているんだから、離れないでと願うばかりだ。彼女以外考えられない。

瞼が重い。真っ白い天井、カラダが動かせない。どこだ？何があった？指は動く。手を握っているのは誰？

「JES、目が覚めた？COCO、わかる？すぐに先生を呼ぶから。」
駆け付けた医師は、脈をとり聴診器を当て機器の数値をチェック、バイタルの安定を確認する。
「まずはひと安心ですね。痛むところはありますか？」
JES は首を横に振る。はやく COCO さんの顔が見たいからどいてくれ。
「まずは目覚めたことを会社に連絡しますので失礼します。後程伺います。」

「JES、よかった。ずっと眠っているから心配だった。凄いケガだったんだよ。急いでソウルに来たんだ。JUNO が輸血して 3 日程入院してたけど、いまは MV の仕上げにかかっている。本当に心配したよ。」
COCO は泣いている……。一気に張り詰めた神経が解き放されたようだ。

「ご・め・ん」
「話さなくていいよ。また少し眠って、ここにいるから。」

眠い……。JES は瞼を閉じた。
診断によると歌えるようになるには 2 か月程度。腹部損傷で完治するまで発声ができないということだ。確かにお腹に力が入らなければあの美声は難しい……。パフォーマンスを披露するには 3 か月はかかりそうだ。慌てることはない。その間にじっくり戦略を詰めて、MV でヒットすればいいのだから……。

目が覚めると社長と TEMI さんがいる。
「目が覚めたか？復帰まではまだかかるが、1 週間ほどで退院できる。ゲストハウスにしばらくは滞在するように手配した。」

「もう大丈夫。明日から食事もできるし。リハビリも始まるから。」
「何か必要なものがあれば言ってくれ。」
「COCO さんは？」
「A-MIX は MV の仕上げに。COCO さんはアメリカサイドでのプロモーションを仕掛ける毎日だ。彼女の人脉は桁外れに凄い。BPM の曲が一斉に流れる日も近い。JES のけがを知ってプライベートジェットで飛んできたぞ。それに JES のカラダには相当量の JUNO の血が流れている。感謝しろよ。」

「JUNO さんが？なんで？」
「ふたりの血液型は珍しいので、一致しなかったら危なかったんだぞ。」

「JUNO さんは命の恩人だね。」

実は兄弟だけだな……。まだ言えない。

COCO は毎朝、毎晩 JES の顔を見に来る。バイクは地下駐車場に。専用エレベーターで 15 階の病室に。以前 COCO が入院したときの JES のようだ。

「退院したらゲストハウスに移動だって。まるで COCO さんのときと同じだね。」

「警備もしっかりしているし記者対策だね。わたしは来週帰国します。BPM のプロモーションの段取りもあるし、JUNS さんとのデュエットもあるんだ。」

「えーゲストハウスで誰にも邪魔されずに、結婚生活の練習ができると思ったのに。それに JUNS 兄さんとデュエットってなに！」

「TEMI さんに頼まれた。RUDY さんと JUNO が組むしね。MV も撮るらしい。恥ずかしいから断ったんだけど。」

「なんで俺じゃないの？」

「まだまだ療養が必要でしょ、JES は。」

「COCO さんがピアノ？」

「うん、歌いながらね。JUNO がギターかバイオリンらしい。」

「ヒット間違いなしだ。JUNS 兄さんはずるいよ。あの声は最高だよ。」

「うん。もう少しボイストレーニングすると一段上がるけどね。本人次第かな。参鶏湯テイクアウトしてきたから食べよ。」

ふたりは毎日夕食を病室で食べる。

「珍しい血液型なのに JUNO さんのおかげで命拾いしたでしょ。病院のスタッフは兄弟だって言ってるんだ。」

「へえ。聞いたことないけど。歌う姿は似ているよ。それに声質も同じだし。特に高音は発声がそっくりかな。」

「兄弟だったらとっくにわかるでしょ。俺だけ捨て子??? 似ていないし……。TEMI さんも兄貴ってこと? ありえないや。」

「イケメン度は同じでも、顔はそれぞれ違うよね。」

「看護師さんに COCO さんが彼女だってこと知れ渡っているよ。」

「毎日お見舞いに来るからじゃない？」

「お揃いのリングとブレスレットだから。」

「いまさら否定することもなし。本当のことだからいいよ。」

「だってそうだよって言っちゃったから。もう公開されたも同然だよ。」

「超遠距離恋愛! ね。」

「DOGATTI の PV は凄い評判で街中に流れているって聞いたよ。この窓からも映像が見えるし。」

「気にしないで。」

「会えなかった分だけここでキスしてもいい？」

そういいながら、隣に座る COCO を見つめ、そっとうなじに手を当て顔を引き寄せた。そして唇が触れる。

ゆっくり COCO の唇を開き深く入ってくる。COCO は受け止めながら彼をさらに引き寄せる。

うっと JES の声が漏れた。

「JES、傷口が痛むの？この姿勢はだめね。治ってからにしましょう。」

「COCO さんやめないで。お願いだから。」

「ストップよ。困らせないでください。」

「撮影でも絶対に JUNO さんとキスしないで欲しい。」

「あら、仕事では JES も相当キスしているでしょ。」

「仕事でも JUNO さんは嫌だ。決まり過ぎだよ。」

「おかしなジェラシーね。撮影だから決まらないと変でしょ。JES も仕事のキスは、頭にくるほど最高にかっこいいよ。また明日来ますね。おやすみなさい。」

「待ってるね。連絡したら必ず返事してね。」

COCO さんとのキスは全身に鼓動が走る。ドキドキだ。もっとずっとしてきたい。もっと触れたい。抱きたい。離れたくない。

「COCO、こっちの仕事は大体終わったからそろそろ帰国しよう。MV はほぼ完璧。ブルックリンで最終チェック。それから LA に飛んで BRAD と戦略会議だ。」

「了解。JES はゲストハウスに移ったしひと安心です。これから行ってくるね。」

「チケットを用意するよ。」

JES は点滴もなく、日常生活は不自由しない。傷口が少々突っ張る感じは残っている。毎日 COCO が待ち遠しい。

(何時にこっちに来る？JES💕)

(18時には。COCO)

(食事は用意したから早く来て💕JES)

(着替えて行きます)

(今日からここに泊まってね💕JES)

COCO は帰国までゲストハウスで過ごすつもりで仕度する。みんなには内緒だ。

18時、エントランスにバイクの音が響く。

COCO さんだ。JES が出迎える。

「明日 JUNO は KEI と KIM 先生と打合せ。RON はソウルの友達に会いに行くって。あたしは休み！」

「ずっと一緒にいられるね。曲作らない？」

「いいね。」

外出はできなくてもこのゲストハウスなら十分ゆっくりできる。

夕食はスタッフが作った韓国家庭料理がテーブルいっぱい並ぶ。

「お腹空いたー」

「COCO さんは韓国人だね。毎日韓国料理を食べている。」

「あっちでは美味しい韓国食堂がないから、本場で思い切り堪能します。明日の夜はメンバーを呼ばない？」

みんなでBBQしようよ。」

「えーせっかくふたりきりなのに。」

「彼らはJESがいない分、大変なんだから労ってあげようよ。」

「わかった。連絡するよ。」

明日は全員集合だ！

「COCOさん、絆創膏の交換を手伝って。痒くて……。シャワー浴びたら湿っているし。」

JESはダブルサイズのソファベッドに横になり、シャツを捲る。立派な腹筋と胸筋がお目見えだ。こっちが恥ずかしい。

内臓の損傷を修復するための手術痕は7針ほど……。かさぶた状態でほぼ治っている。ガラスの破片が刺さった傷も完治だ。消毒をしてから絆創膏を貼る。

JESはCOCOの腕を掴んでカラダを抱き寄せた。

「傷に良くないでしょ。」

JESはCOCOの上に重なりCOCOの唇にキス。

「今日はCOCOさんと特別な夜にしたい。」

そういつて思い切り抱きしめながら、熱い熱いキス。

どうしよう。心の準備ができていない。こっちは若くないのよ、勢いに任せられない。

JESの指がブラウスのボタンをゆっくりはずしていく。上半身裸のJESは肩から胸筋、腹筋となだらかな隆起が美しい。COCOの首筋に彼の唇が触れた。

「これ以上はだめ。傷口が開くから……。完治したらにしよう。」

「いやだ。止まれない。」

「出血でもしたら大変。せっかく治ってきたのにメンバーに迷惑かけられないでしょ。」

「大丈夫だって。」

「いや、わたしは激しいのが好きだから腹筋は重要よ。だめ、絶対にだめ。」

なんとか彼の腕から抜け出しブラウスを羽織る。

「わかりました。では激しいのは次回ということにします。」

そういいながら思い切りCOCOを抱き寄せて激しいキス……。とろけそうでカラダから力が抜ける。

JUNOのキスに似ている。

「じゃあ、今日はベッドで一緒に寝よう。」

ああ、もう少しで誘惑と欲望に負けるところだった。こっちも久しぶりで熱くなり過ぎたかも……。LOVE感覚が目覚めたかな。

翌朝9時に往診だ。

「JESさん、昨日激しい運動やトレーニングはしていませんか？縫合痕から少々出血があります。」

「ギターを弾いたりしてたからかな。」

「くれぐれも腹筋を使わないように。もう少しの辛抱ですよ、若いから気の毒ではありますが2週間は我慢してください。」

医者は女性の気配を感じ取ったようだ。まあ的確な診断ではあるけれど。

「COCO さん、2 週間はだめだって。医者って鋭いね。」

「ほらね。無理は禁物よ。」

「COCO さんは激しいのが好きだって言ったよね。治ったら思う存分楽しませてあげる。」

「そう簡単に年上は落とせないから、いい気にならないように。」

「練習を積んでからにします。」

「二度と触れないください。」

「COCO さん、ピアノ弾いて欲しい。」

「女性歌手向けにバラードを作ってみたの。聴いてくれる？まだメロディだけなんだ。」

美しい曲だ。女性が男性を想う切ない恋の歌なのか……。女性の恋心って複雑だ。音が絡み合っただけなら重なり合う。さすが COCO さんの演奏だ。雰囲気から 30 代半ばから後半の女性ボーカルかな。

「候補の女性ボーカルは？」

「決めていない。RUDY 氏に相談してみる。」

JES の電話が鳴った。

「KAI？どうしたの？俺は順調に回復しているけど……。いま？ゲストハウスで療養中。」

「JES、相談にのって欲しいことがあるんだ。」

「じゃあ、待ってる。」

「仲間？」

「うん、同じ事務所でバラードがすごく上手い PAM の KAI。歌の相談じゃないかな。メインボーカルだから……。」

「聴いてみたい。」

JES は PAM のバラードを流した。4 人グループでそれぞれの音程が美しいハーモニーを奏でる。讚美歌のような響きは COCO 好みだ。韓流恐るべし。

「いいね。四重奏だよ。どこが KAI なの？」

「一番の高音……。」

「音域が広いね。」

20 分程して、マネージャーの運転するワゴンで到着。KAI が入ってきた。

「JES どう？トッポッキとホットク買って来たよ。好きでしょ。」

KAI は COCO の存在に固まった。

「COCO さんのことは知ってるよね。」

「はい。いつも練習室の演奏を最前列で聴いていました。JUNS 兄さんとのデュオは最高でした。ゲストハウスのパーティも参加しましたよ。それに JES の彼女だって評判だし。」

「正式にははじめましてね。TEAM A-MIX の COCO です。」

「PAM の KAI です。突然申し訳ありません。JES、相談があるんだ。ドラマがクランクインするんだけど、主題歌を歌わないかって言われている。歌詞は自分で作りたいけど作曲はできなくて。RUDY さんは忙しいし。JES 助けて。」

「どんな感じなの？」

「年下の俺が年上の女性に恋するんだ。それもかなり高嶺の花に……。最後はハッピーエンドだけど、どんな環境にもめげずにアプローチする。彼女は年下の俺との恋愛に臆病なんだ。それでこんな詞を英語と韓国語で作ってみた。」

年下の俺との恋は不安なんだ
俺との別れに備えるのもわかる
でも俺は別れの日を恐れない
もしこの先別れるときがきても
たとえ記憶をなくしても
俺はまたあなたに会って
そして愛するだろう
それが俺のすべてだから

「こんな感じの詞です。どうかな。」

「あら素敵。英語バージョンに曲をつけてみましょうか？」

「えええ！！A-MIXのCOCOさんが！！」

「COCOさん、マジで。」

COCOは歌詞を読みながらピアノの前に。

「ベートーベンの「悲愴」第2楽章をベースに、やさしく語るような旋律にしたけどどうかな。」

それこそ「悲愴」というタイトルとは趣が違う2楽章だから、結婚式でも歌えるようにハッピーな余韻も残して。そこにKAI君の高音を効かせてみた。ちょっと歌ってみて。」

得意な音程は、さっき歌を聴いたので合うはずだけど。もう少し上げてみるかな。一気に1オクターブあげたら面白いかも。

「どう？1オクターブ一気に上げられる人は少ないから差別化できるでしょ。囁くように歌いながら高音を伸ばす。オトナのオトコの雰囲気よ。JESはどう思う？」

「きちんと歌い込めば最高のバラードだよ。いままでから一段階ステップした感じだよ。COCOさん、俺が歌いたい。」

「ここまでの音域は出したことありません。というか初めての曲調です。」

「ピアノだけでもいいし、いろいろとアレンジしてもいいね。ストーリー次第かな。チームに相談してみれば？」

「担当者をここに呼べばいいよ。COCOさんをわざわざ呼ぶなんて失礼だ。」

KAIはマネージャーに連絡をする。多分A-MIXのCOCOさんと言えばすっ飛んでくるだろう。

15分後、マネージャーとドラマの監督、音楽担当者にTEMI氏が……。COCOは知らん顔を決め込んでいる。幸い誰も、どうしてCOCOがJESといえるのかは聞かなかった。

「COCO さん、KAI の相談にのったんですか？」

「たまたま JES さんのお見舞いに来たらこうなりました。余計なおせっかいでしたか？」

「いえいえ、COCO さんに曲を頼んだと聞いてびっくりしました。」

「英詞を見てちょっと合わせてみただけです。気に入れば RUDY 氏にアレンジを頼みますけど。」

COCO のピアノで KAI が歌う。いままでに聞いたこともない伸びのある高音と、囁くような低音。1 オクターブ一気に上げる歌唱力。KAI の魅力全開だ。

「凄く歌いやすい。高音一気に上がる場所は練習しないと、まだまだです。」

「そうね。ボイストレーニングをきちんとやることね。」

「素晴らしい。この曲は KAI にいただけますか？是非主題歌に使いたい。」

「監督にお任せします。ピアノだけのバージョンと、アレンジしたもの、英詞、韓詞とシーンでうまく使い分ければ、ヒットにつながるかもしれません。」

「そうさせていただきます。あとは TEMI 部長にお任せします。」

「では作詞は KAI、作曲は TEAM A-MIX の COCO、編曲 RUDY で。このネームだけでヒットします。どうかレコーディングまでソウルにいてください。」

「PAM のコーラスを入れても華やかになりますね。JUNO にまた怒られそう。」

「今日の夕食は BPM のメンバーがここにくるんだ。KAI もどう？BBQ がいいかな。」

「PAM のメンバーに声かけたい。」

「食材一式、スタッフもわたしの方で用意します。参加者を募ってもいいですか？」

「TEMI さんにお任せします。(またいつものように大掛かりな食事会だ・・・)」

「では準備は 16 時から、18 時に開始ということで。」

JES と COCO だけになった。

「結局また宴だね。30 人は来るよ。ふたりだけになりたいのに・・・。」

「まあ仕方ないよ。っていうか KAI 君を呼んだのが発端でしょ。」

「COCO さん、ありがとう。相手は超有名女優で KAI はだいぶ緊張していたんだ。恋人役だからいいところ見せられるよ。」

「いい声しているからうまくいけばヒットするね。」

「間違いない。もう相談のるのはやめた。COCO さんの曲は俺だけの作品にしたいから。」

COCO の電話が鳴った。JUNO からだ。もうバレたか・・・。

「COCO 帰国する予定はどうするんだ。それにゲストハウスで何やってんの。これ以上創作しないで欲しい。もうパンパンなんだから。」

RUDY に無理矢理頼んで、明後日 10 時からレコーディング。明日音を作ろう。10 時にスタジオ集合。今日の BBQ は RON と行くからそこで打合せ。1 週間ぎりぎり、ここまでしか帰国は延ばせないからな。

COCO の代わりはいないんだから。」

「はい。あと女性ボーカル向けのバラード作ったんだ。」

「それは今日、兄貴と相談しよう。それが最後だぞ。そんなに暇なら、すぐ帰国すればよかった。」

「それじゃあ、あとでね。」

「JUNO さん？」

「うん。もう帰国は延ばせないって。1週間後。KAI 君のおかげかな。」

「あと1週間一緒だね。」

JUNO と COCO

18時にはすべてセッティングされ、続々と客が集まってきた。トップバッターはもちろん BPM。COCO に曲をねだりにきたらしい。

「今回の滞在中は無理だけど、向こうで考えてみるね。コンサート用のそれぞれのソロってことね。」

「お願いします。JES ばかり決まっているのはずるい。」

「俺は COCO さんの彼氏だから当然なの。」

このぶんじゃあ、PAM にも頼まれそう。逃げないと JUNO に何言われるか・・・。

「COCO はもう締め切りだぞ。断れない性格なんだからいい加減にしてくれ。」

JUNO と RON だ。

「JES 君もここまで・・・。あとは RUDY に頼むように。」

いつの間にか俳優、スタッフなどドラマ関係者からアーティストまで40名以上集まったようだ。JES の快気祝いもあるが、A-MIX 狙いもあるだろう。

KAI 君のお相手の女優さんは本当に美しい、ここ数年ヒット連発だ。確か軍人と女医の恋を描いたドラマで最高視聴率をたたき出し、HOW CAN I LOVE YOU と YOU ARE MY EVERYTHING を大ヒットさせたドラマの主演女優だ。

「JUNO さん、DOGATTI の PV は素晴らしいです。またあの曲が聴けるのがうれしい。」

「実物のあなたはさらに美しい。はじめまして、TEAM A-MIX の JUNO です。気に入っていただけて光栄です。今回のドラマの主題歌もヒットするといいですね。」

「チームの作曲でしたね。」

「KAI 君からのお願いでした。」

「楽しみです。」

「いま、聴いてみます？」

「え??？」

「COCO、KAI 君、さっそくできたばかりの主題歌を聴かせたら？RON はギター、わたしはバイオリンではいってみる。」

JUNO の声に会場から一斉拍手が沸き起こる。TEMI 氏はさっそく動画撮影の準備だ。

COCO がピアノを弾くと KAI の囁くような低音が始まる。ギターとバイオリンは COCO のピアノと重なり合い、KAI の魅惑的な歌声とまるで4重奏だ。JUNO の合図でサビのパートは、COCO、JUNO、RON のコーラスが入る。KAI の高音が響く。会場は静まり返っている。そして監督の「素晴らしい」という声で歓声と拍手の渦だ。

「A-MIX って楽器はもちろん、歌も一流だよ。それにダンスもプロらしい。なんで創作集団といわれるのかな。」

「歌やダンスより、さらに際立つ才能があるからさ。」

TEMI 氏の本音だ。

ドラマ関係者は初めて生の演奏を聴いて興奮気味だ。これで KAI も堂々と俳優に交じって演技できるだろう。

「YOU ARE MY EVERYTHING をお願いできますか？」

「COCO、ピアノは引き受けたから久しぶりに歌ってみたら？」

「声出るかな。」

「助けるから任せて。」

「COCO がソロで歌うのは、すごく久しぶりだな。」

「RON さんは聴いたことあるんだ。」

「昔ね。ピアノの弾き語りはあるけれど、歌のみは最近ないかな。」

JUNO が弾き始める・・・。COCO が JUNO の肩に手を置いて囁くように歌い始める。

WHEN I SEE STARS, I THINK OF YOU THEN I ALWAYS PRAY FOR YOU・・・

RON のバイオリンが静かに入る。

WHEN I FEEL YOU IN MY HEART THEN I HEAR YOUR VOISE FROM YOUR EYES・・・

サビの部分は切ない COCO の高音が響く。ピアノとバイオリンが美しい旋律を奏でる。そして COCO の音域の広さ、声量に引き込まれる。主演した SON.H の頬には涙が伝う。オリジナルとはまた違う魅力だ。最後は静かにフェードアウト。

しばしの静寂・・・。

「いますぐレコーディングできる。」

と RUDY の声に、観衆は我に返って拍手と歓声だ。

カッコ良過ぎを何連発も食らったけど、COCO さんの歌と彼らの演奏は極上だ。出口がないどころではない。もう完全に引きずり込まれている。360 度すべてが素敵過ぎる。JUNO さんと見つめ合って歌う COCO さんの艶っぽさは初めて見る。DOGATTI のキスシーンのようだ。

TEMI はくらくらする。どこまで奥深い女性なのか・・・。RUDY の言う通り、すぐにレコーディングできる。彼女ほどの声を持つ歌手がここに何人いるだろうか？いないだろう。

JUNO が歌やダンス以上に、秀でた才能のピアノがあり、そして最高の創造力に恵まれた女性であると言い切ったのがわかる。

「TEMI、COCO が作ったバラードがあるんだけど聴いてくれる？誰が歌ったらいいか教えて。歌詞は UMI 氏に任せろって。COCO、弾いてみてくれるかな。」

COCO が弾き始めると注目だ。

「バラードだね。歌詞はまだなんだ。誰が歌うの？」

弾き終わると FELIX が COCO のもとに・・・。

「COCO さん、わたしにこの曲をください。必ずヒットさせます。お願いします。」

「確かに音程はあなたよね、わたしと同じ音域だから。どうかな？JUNO。」

「TEMI は？俺はいいと思うよ。年齢的にも声質も同年代の女性が共感する、きっと。」

「では、FELIX で行きましょう。」

「COCOさん、ありがとうございます。JUNSさんとのデュオで益々歌手として欲が出てきました。必ず成功します。」

「TEMIさん、JUNSさんとのデュオはもう少し時間をくださいね。ちょっとやり過ぎたようで……。すみません。」

「デュエットの約束をいただいただけで十分です。できれば年末の音楽祭に参加してください。」

「あとは時間との勝負です。クリスマスソングのオフアヤ、スノーボードのPV、CMなど超多忙ですから。」

JUNOの隣には美しいSON H氏が寄り添う。

あら、さすがJUNO。恐ろしく美しい女優さんに気に入られた感じね。すごくお似合いよ。こっちのJESお坊ちゃんは不機嫌みたい。

JESはCOCOの演奏が決まり過ぎてジェラシーMAXのようだ。

アーティストの宴は華やかだ。ドラマ関係者も十分に楽しんだ様子。

「JUNOさん、また機会がありましたら呼んでくださいね。是非ご一緒させてください。」

「はい、喜んで。数日後には帰国します。時間があれば夕食はいかがですか？」

「明日は記者会見の後はオフです。是非会場で待ち合わせしましょう。」

「記者席で待っています。」

SON H氏といい雰囲気だ。JUNOはアーティストとして世界に認められているし、財閥の御曹司でもある。アジアでトップ女優の彼女よりグレードは上。彼氏には最高だ。それにグッドルッキング。

TEMI氏はJUNOとSON H氏の姿に満足だ。

23時に宴は終わった。スタッフによって片付けられ、JESとCOCOだけになった。

JESはまだ機嫌が直らない。

「どうしたの？傷が痛む？絆創膏を貼り替えよう。」

JESは黙ったまま、ソファに横になりシャツを捲る。相変わらず彫刻のように美しいボディだ。COCOはそっと剥がして消毒、そして新しく取り換える。

「COCOさんは俺だけしか触れない。」

と言いながら、COCOを押し倒す。ジェラシーMAX君のキスは少々荒っぽい。COCOは彼の顔を離すと、掌で頬を包みながらやさしくJESの唇に触れた。そして彼がCOCOに入ってくるのを受け止める。ロングキスだ。カラダの力が抜けて、彼にカラダをあずける。キスだけで十分満たされた。

「どうしたの？」

「COCOさんとJUNOさんはカッコ良過ぎて嫉妬する。だからいっぱいキスがしたくなる。だれが見たって超お似合いだし、俺はかなわない。」

「そんなこと考えてたの？わたしはJUNOとカップルリングはしていないよ。JESだけよ。」

「そうだよ。それに美しくて有名なSON Hさんとグッドショットだったから、もうSNSに上がっているかも。」

「JUNOってすごくモテるのよ。」

SNSにはA-MIXの演奏、KAIの歌と宴の動画がたくさんあがっている。

そのなかにはJUNOとSON H氏のツーショットが……。お似合いだ。

「俺とCOCOさんは今回ないね。でもファンに元気な姿見せられたからいいか。」

「そうよ。それが一番。明日から忙しい。」

COCOはKAIとのセッション、レコーディングで2日間は超多忙だ。

JUNOはSON Hの記者会見が終わるのを記者席で待っている。

「SONさん、今回は年下の彼との恋愛ストーリーですが、ご自身はいかがですか？」

ひと通り作品についての質問が終われば、プライベートの恋愛について質問されるのは、彼女クラスならお約束だ。

あれだけの美人で人気、実力もあればプライベートの質問は仕方ないな。気の毒に。

今日のJUNOはヨージヤマモトのブラックジャケット、パンツ、シルバーのブラウスにグッチのサングラス。会見場なので記者席は薄暗くまだ気づかれていない。

「最近、以前から気になっていた方に実際お会いしてときめきました。おつきあいまで発展すればうれしいです。」

「どなたですか？」

「お友達からスタートですね。」

「この会見をご存知ですか？」

SON氏がJUNOの座席に視線を向ける

「はい、ここにきているようです。」

記者が一斉に彼女の視線の先へと振り返る。

うわーマジッ！！

「TEAM A-MIXのJUNOだ。」

あー見つけた。JUNOは座ったまま彼女の視線に合わせる。シャッター音とフラッシュの嵐。

あーやられた。

「それでは記者会見を続けます。」

司会者の声で記者は元の位置へ。JUNOは外に出る。

さすがのサプライズ。一流女優はやることがハンパない。今日は追いかける一日だな。

記者会見が終わり、JUNOは関係者エリアに入る。

「一瞬で時のひとになりそうですよ。事前に教えて欲しかったな。」

真っ白のスーツのSON氏が美しい笑顔で

「JUNOさんが見えたので思わず言ってしまった。自分でも驚きです。」

「歳の差カップルでもないのに、わたしでは話題性に欠けます。」

「TEAM A-MIXのJUNOさんなら充分です。」

「さすが大女優は記者を手玉に取るのが上手いですね。」

「長く女優してますから。でも今日は本気ですよ。」

「夕食のご希望は？」

「食事の前に歌を聴かせてください。」

「ではうちのスタジオに行きますか？」

「はい。迷惑でなければ。」

「SON 氏が来たら大騒ぎだろうな。」

会社は SON H 氏と JUNO の来社で大騒ぎだ。トップ女優をエスコートする JUNO も負けていない。TEMI が飛んできた。

「SON さん、どうしましたか？」

「JUNO さんの歌が聴きたくて、夕食の前にこちらに連れてきていただきました。騒々しくてすみません。」

「スタジオ借りるよ。」

TEMI は大女優の突然の来社に慌てた。SNS には先ほどの記者会見での発言が話題だ。JUNO は凄いな。彼女の相手には文句なしの条件だし真実になれば大スクープだ。

「ご希望は？」

「YOU ARE MY EVERYTHING と HOW CAN I LOVE YOU、そして今度のドラマの主題歌をお願いします。」

「COCO いる？呼んで。」

「いえ、JUNO さんをお願いしたいです。」

「わかりました。」

完全 JUNO でいくな。さすが大女優。

JUNO のボーカルは最上級だ。女性が聴けば確実に惚れる。まして自分のためだけに歌うなんて最高だろう。

記者会見のあとすぐに SNS にアップされることも計算だろう。JUNO はもちろんわかっている。TEMI は動画撮影の指示を出す。これだけの聴衆がいるなかで演奏するのだから、SNS は避けられないと承知の上。番宣を兼ねた彼女の戦略だ。

JUNO のボーカルとピアノは素晴らしい。

甘くハスキーな低音、高音は透き通る響き。

話す声、歌う声すべてセクシーだ。

SON 氏はうっとり聴き惚れている。

SNS には

「最高のビッグカップル誕生か！天才音楽家とトップ女優の恋！」

「TEAM A-MIX の JUNO とトップ女優 SON H 恋人宣言」

など大型ニュースだ。当分はこの話題でソウルが盛り上がる。

JESはこのニュースを聞いてガッツポーズ。

どうかSON氏と恋人になりますようにと願うばかりだ。

(芸能スクープ記事みて。俺たち並みのビッグニュース💖💖💖JES)

(あら、素敵。いま休憩中。レコーディングは順調よ💖COCO)

(JUNOさんかっこいい。)

(あっちでJUNOのゴシップなんて慣れているし、女優や歌手は数えきれない。凄い美人だしいいんじゃないかしら？COCO)

(帰宅時間がわかったら連絡ください💖JES)

(はい)

JUNOとSON Hは日本人経営の鮎屋に向かう。

一軒家を改装し予約でしか入れないお店だ。

「こんな場所にお鮎屋さんがあるなんて知りませんでした。」

「以前、COCOの母親が日本人ってこともあって紹介されたお店です。板前も皆さん日本人です。COCOは機内食が苦手なのでここで太巻きを作らせています。プライベートジェットのときはメンバー全員分のお弁当が用意されます。」

「チームの皆さんは経歴も家庭環境も一流ですね。」

「そうですね？仕事に対する情熱は一流でありたいと願っているけど。確かに環境は似ているかもしれません。」

「今度の主題歌はヒットしますね。」

「そうですね。COCOはずしたことがない。」

「記者会見はどうご覧になりましたか？」

「ある意味プロモーションのダシにされたかなと思います。策略？」

「いえ、JUNOさんへの気持ちは本当です。おつきあいしてみませんか？わたしと。」

「恋愛って時間と記憶を共有するものだってCOCOが言います。わたしとでは超遠距離だし難しいのでは？」

「COCOさんはいまBPMのJES氏と恋人関係ですね。遠距離をどう克服しているのかしら。」

「ここんところソウルの仕事ばかりで、遠距離までいっていないらしいですよ。」

「そうなんですか。それでは電話番号を教えてください。あとメールアドレスも。わたしは頑張ってみます、JUNOさんとの遠距離恋愛を……。まずは一歩進めます。」

「では自国の友人からってことでなら……。」

店内ではかなり注目されている。店の入口までクルマを呼ぼう。多分記者が張っている。彼女は撮られるつもりでいる。それもたまにはいいかも、美人だし、COCOへの刺激になるかも。

「KAIくん、サイコー！明日JUNOと合わせて無事終了だね。」

「COCOさん、ありがとうございます。きっとヒットします。視聴率も楽しみです。」

「JUNO、明日は何時？スゴーい甘いロマンスの始まりかしら？」

「明日は朝から合わせてレコーディングは午後一番で行こう。」

「デートはいいの？超美人女優と。」

「COCOこそ超美形な韓流スターとの逢瀬はいいのかな？」

「わたしは、いまから遠距離の訓練中です。」

「こっちはただの友達だから。」

「こっちも友達以上恋人未満よ。」

お互い遠距離恋愛向きでないな、いつも仲間に囲まれていたから。本当に惚れた相手と離れるのは無理があるかも。

やっぱりそばにいないと難しいかも。

一緒にいる時間がハッピーだと、離れる寂しさをわざと忘れようとする。

両極端の揺れって辛さが募るだけ。それって恋愛じゃないよね。JUNOにはJESが恋人だって言い切れない自分がある。友達って聞いてほっとする自分もね。

JESとの遠距離恋愛が始まれば答えは見えてくる気がする。わたしって勝手だな。

(COCOさん、終わったらダッシュで来てね💕💕JES)

(18時に到着予定 COCO)

店の外は記者だらけ。SON氏の肩を抱き、かばうように迎えのクルマに乗り込む。

「恋人宣言ですか？」

「帰国予定は？」

「遠距離恋愛ですか？」

などハングルで質問の嵐だ。JUNOは終始無言、メルセデスは発進する。

「これもトップスターの戦略ですか？」

「ソウルの記者が敏感なだけです。そんなことより、日本酒とお鮭のマリアージュは初体験です。浦霞の吟醸、気に入りました。」

「これもCOCOの影響です。気に入っていただけで何よりです。」

「COCOさんとは？」

「A-MIX全員が音楽院の仲間ですから15年来ですね。ここまで気の合う素晴らしい仲間と出会えたことが、人生最高の幸せだって思います。まるで生きることに不可欠な空気のような存在ですかね。」

「COCOさんは女性です。」

「そうですね。彼女はチームにとってかけがえのない女性です。わたしの創造力は彼女ナシでは生まれません。」

「・・・。彼女を超えるって大変。」

「超えられることはないです。唯一無二の存在だから。」

「・・・。またお会いできますか？」

「はい。連絡お待ちしております。」

「美味しいお鮓、また是非。」

「はい。また行きましょう。」

想像以上の絆で結ばれている。仕事で育まれた友情と恋愛は別だと思っていたけど、そんなレベルはとうに超えている。でも彼はわたしの運命の人だと信じている。彼を空港で偶然見かけたとき、視線を外すことができなかった。ずっと彼が見えなくなるまで見送っていた自分が信じられない。まさに運命の人だ。友達からでもいい。接点さえあれば。

厳重な警備をくぐるバイク音がする。COCO さんだ。JES は待ちかねたように扉へ向かう。扉が開くと同時に COCO を抱きしめる。

「JES さん、夕食は？」

「サムギョプサルの準備 OK。」

カラダをかがめて COCO を抱きながらキス。185cm の JES に抱え込まれる。

「会いたかった。KAI とのレコーディング動画見たよ。KAI はかっこいいけどまだまだ子供っぽいから COCO さんをとられる心配はない。」

「いちいちそんなこと気にしていたら、わたしは毎回違う JES の共演者との噂で頭がおかしくなる。」

「俺の場合は会社が仕掛ける宣伝だから。それに COCO さんみたいな女性は世界中に COCO さんだけ。それより JUNO さん凄いね。アジアで最高の女優に告白されるなんて。そのあとお鮓屋さんでデートだって。動画で見たよ。」

「JUNO のゴシップはアメリカで慣れている。ソウルほど話題にならないけど、デート位では。共演者や楽曲提供したディーバとはジャストタイミングで記事になる。ある意味これも宣伝ね。それに友達だって聞いた。」

「ふーん。そうなんだ。」

なんか COCO さん、変なの！かなり JUNO さんを気にしているような・・・。

「わーサムギョプサルはうれしい。いただきましょう。帰国前に JUNS さんとのデュエットのレコーディングをする予定。動画はソウルでは無理そう。年内は NY を動けない。」

「お互い今年はハードスケジュールだね。ケガさえしなければ余裕もあったのにな。」

「もうすぐ歌えるんだから贅沢言わない。あなたはアジアのトップスターよ。」

KAI、COCO、JUNO、RON のセッションによる主題歌のレコーディングは無事に終了！プロモーションのスケジュールに入る。

「COCO、JUNS 氏との HOW CAN I LOVE YOU を JUNS 氏のアルバムに入れてサービスで YOU ARE MY EVERYTHING の COCO とのデュオ、ピアノ、バイオリン、ギターでセッションでレコーディングしよう。」

「録音だからピアノは JUNO お願いね。」

帰国寸前までレコーディングだ。アレンジの編集は NY で。ともかくレコーディングはソウルで済ませる。TEMI 氏の指示でレコーディングの様子も動画で撮影する。ソウルって凄いな。

超多忙ではあるが18時にはゲストハウスに向かう。

「JUNS 兄さんとのレコーディングはどう？」

「動画を撮ってもらったから見る？」

そこには予想はしていたが、それ以上に成熟したオトナのバラードがあった。JUNS のいままでとは違う感情が声になって胸に響く。完璧なデュオのナンバーがある。同じ歌がデュオによってここまで変わるのか。COCO さんの声と伴奏が絡み合ってくる。まさに新しいバラード歌手 JUNS の誕生だ。

「MV は撮るの？」

「何とかスケジュール合わせて撮る予定だけどまだ見えない。忙しくて・・・。」

「これって大ヒットだね。動画がすごくカッコいい。」

「ただの動画よ。」

「JUNS さんと COCO さんのデュオは最高にかっこいい、悔しいけど。いつか俺もデュエットしたい。」

「ファンに殺されるから無理ね。もう少し歳を重ねれば許されるかもしれないけどね。」

「帰国はいつ？」

「明後日朝一番で。明日は帰国に向けていろいろ調整があるの。ちょっとやり過ぎたからね。予想外のレコーディングがあったし。」

「今度ソウルにはいつ？」

「うーん、わからない。」

「不安だけど、遠距離でも絶対に気持ちは離れないって決めたから覚悟して。」

「そんなに決めつけなくても十分よ。それに JES のことは SNS ですぐにわかるから。」

なんでお腹の傷口が治らないんだ。COCO さんのすべてが欲しいのに・・・悔しい。確かに腹筋が使えなければ愛し合えないかも。その分すごーいキスをしよう。

「明日は会いに来て泊まれないから、ごめんね。」

「じゃあ、今晚が最後ってこと？」

「うん。」

「一緒のベッドで寝られるだけでもいいか。我慢するよ。」

「傷口が開いたら今までの療養が無駄になるし、JES の復活が遅れたらみんなに迷惑がかかる。スターの宿命よ。」

「またピアノ弾いてくれる？」

「わたしが JES に作った JES IS EVERYTHING を生演奏で。」

「俺が作ったのも弾いて。タイトルは

COCO IS EVERYTHING にしたから。俺だけが見る動画を撮るよ。」

「遠目をお願いします。」

JES はピアノに向かって COCO の肩を抱きながら歌に酔いしれる。ピアノはもちろん、COCO さんの生声が艶っぽくて、切なくて気を失いそうだ。

「どう？ご満足いただけましたか？」

返事の代わりに COCO を振り向かせてそっと唇にキス。

「COCOさんは誰よりも素晴らしい。俺に愛されるために生まれてきたんだ。」

「あら、素敵なフレーズ。歌詞にしたいな。」

翌朝早く COCO はゲストハウスをあとにする。JES は薬が効いたのか、COCO が出かけるのも気づかずに熟睡。起きたときには隣にいた COCO はいなくなっていた。

(COCOさん、どうして起こしてくれなかったの。見送りしたかった。JES)

(ぐっすり寝ていたので。早く治して欲しいから。)

(帰国までの最終チェックがあるので、終わったら連絡するね♡COCO)

(往診やらリハビリでずっとここで痛い思いをしています。早く慰めてね♡♡JES)

医師によるとそろそろボイストレーニングができるそうだ。見立てより2週間早い回復は、若さと鍛えられたボディ、そして本人の地道なりハビリのおかげらしい。JES えらい！

さすがスターとしての責任と役割を心得ている。COCO はうれしかった。

仕事も終わり16時にはカラダが空いた。

「COCO、明日はロビーに7時半集合だよ。」

「了解。JUNOは？」

「出かけたよ。デートかな。」

「話題の女優とね。さすがJUNOね。RONは？」

「RUDYと約束がある。」

「じゃあ明日ロビーでね。」

JUNOはSON氏と帰国前のデート。待ち合わせはロケ現場、仁川空港。JUNOは大きなバラの花束を持ってお迎えだ。ガラス窓の美しいコンコースが最後の現場。KAIがSON氏に駆け寄り抱きつく、そしてキスするシーンだ。ガラス越しのオレンジに輝く夕陽が美しい。

カットOK!の声で終了。JUNOを見つけて彼女が駆け出した。ヒールの響く音とともに思い切りJUNOの胸に飛び込む。スタッフは茫然と見つめる。まるでドラマの1シーン。JUNOは驚きながらも彼女を受け止める。真っ赤なバラの花びらが宙を舞う。あちらこちらからシャッター音が……。彼女はかまわずJUNOのカラダに腕を回す。

「やっと会えました。」

「お疲れ様です。うれしい歓迎ですね。」

「はい。」

「撮影と勘違いされますよ。」

「かまわない。ストレートな気持ちです。」

「さあ、仕度して。待っていますから。」

SON氏は30分程で着替えてJUNOと並んで駐車場に、濃紺のjaguarで空港を出る。

「どちらに行きましょうか？」

「映画を観ましょう。」

「記者に追いかけるられます。」

「もう気にしません。」

「あなたが問題ないならかまいませんよ。」

濃紺の jaguar クーペはソウルの中心街に向かう。

COCO は JES の待つゲストハウスへ。JES は最後の晚餐にふさわしい演出を準備。すし職人を呼んで日本食を堪能する、出張料理サービスだ。COCO さんはフレッシュが好きだから喜ぶな。バイクの音がした。

JUNO のクルマは、商業施設の前に停まる。

「クルマは案内係にキーを渡して、行きましょう。」

「ここは？」

「このホールで試写会があるの。」

「記者やファンが群がっていますね。」

「かまわない。堂々とエスコートしてください。」

JUNO は SON 氏と腕を組みながら、フラッシュや記者の叫び声をかき分けて入っていく。場内に入ると俳優や監督、映画関係者が一斉にふたりを捉える。今日はソウル中の話題だな。明日帰国するからいいか。

JUNO は彼女の戦略にはめられたようだ。

「気分を害しましたか？」

「いえ、あなたとだから誇らしいです。せっかくだから楽しませていただきます。」

JES と COCO はカウンターに並んで握り寿司を堪能する。

「JES さん、ありがとう。とっても美味しい。」

「良かった。」

出張スタッフは3名。まさか韓流スターで療養中の JES と、話題独占の TEAM A-MIX の COCO の前で握るとは思わなかったのか緊張している。

「あの一夫ファンなんです。サインをいただけますか？」

「俺のアルバムにサインするからいい？あとで写真もみんなで撮ろうか？」

「いいんですか？是非！」

スタッフは大喜びだ。

「彼は療養中なので粉茶をお願いします。」

「粉茶って？」

「日本のお鮓には絶対にはずせないのよ。」

「はい。超上級をご用意しています。冴子様直伝です。」

「久しぶりね。こっちはいかが？」

「NY よりネタの心配がありません。海に囲まれている国ですから魚介が新鮮です。お久しぶりです。ここで会えるとは思いませんでした。皆様はお元気ですか？」

「マミーも KEI もメンバーも元気よ。JUNO と RON はソウルで、明日わたしたちは帰国です。」

「次回は必ずうちの店にいらしてください。昨日 JUNO さんが来店してくださいました。」

「知ってる。大女優とデートだったって。」

「さすがJUNOさんです。NYと変わらない。」

「COCOさん、この店知ってるの？」

「うちのマミーはNYでお得意さん。ソウル出店はJUNOの紹介で。上海、台湾、シンガポールうちのメンバーの紹介よ。」

「皆様には出店のたびにお世話になっています。今度はバルセロナに移転とか。」

「バルセロナに出店したいときは連絡ちょうだいね。」

「なんかみんなつながっているんだね。凄い人脈だ。」

「たまたまよ。JUNOがここの出身だから。」

「この粉茶美味しい。」

「粉末でお湯を入れるだけよ。大将、粉茶を分けてくれる？」

「はい。気に入っていただけたようですから、缶ごと差し上げます。」

「ありがとう。JESさん、あまり飲み過ぎると眠れなくなるからほどほどにね。」

「ご馳走様。」

試写会が終わり、騒がしい会場から逃げるようにjaguarに乗り込む。

「夕食のご希望は？」

「お任せします。」

「では静かに落ち着ける韓国懐石料理で。」

JUNOは以前に父と兄と会食した庭園の美しい懐石料理店へ予約の連絡を入れる。

「TEAM A-MIXのJUNOです。2名で個室の予約をお願いします。20分で着きます。帰りはクルマを置いていきます。」

「JUNO様、いつもありがとうございます。お待ちしております。」

「あの店は毎晩予約でいっぱい。1カ月先まで埋まっていると聞きますが・・・。」

「たまたまラッキーだったのでしょうか。」

財閥の御曹司と女優では扱いがまるで違うのがここ韓国だと知らされる。

出張職人による食事を終えて、スタッフとの記念撮影。いまはふたりきりだ。

「次はいつ会えるかな。」

「まずは完治しないと。これだけソウルと縁があるからまたすぐ会えるよ。年末の音楽祭には間に合いそうだね。復活を待っているから。」

「COCOさんは年末の音楽祭に出演依頼があるでしょ。どうするの？」

「チーム次第かな。」

「クリスマスも離れているの？」

「お互い仕事でしょう。JESも相当忙しいよ。」

「そうだね。」

「それでは帰ります。明日朝一番だから。」

玄關に向かうCOCOの手を引っ張り壁に押し付けたJESは、彼女の首筋を引き寄せ、思っきりキスをす

うわーこれがよく言われる「壁ドン」か。

カラダから力が失われ、波が押し寄せるようだ。ここまでで十分。流されてしまいそう。COCOはJESの熱いキスに返すように彼のカラダを強く抱きしめた。そしてそっと顔を離す

「JESのキスが大好き。でもここまでね。早く治して。」

「ずっとしてきたい。独占したいんだ。」

「別れがつかなくなるからもうやめて。大好き、愛してるJES。」

バイクの去る音が聞こえなくなるまでCOCOを見送った。

「いつ帰国ですか？」

「明日の朝一番で戻ります。」

「明日ですか？それは予想外でした。ソウルへはいつまた？」

「まだわかりません。ドラマは向こうでも観られるようにします。期待してますよ。」

「JUNOさんの情報はどうすれば？」

「SNS文化は韓国の特徴です。連絡ください。これは名刺です。アドレスが記載されています。時差があるので電話が無理ならメールでどうぞ。」

「はい。必ず連絡しますので無視しないでくださいね。」

「大女優の連絡を無視するオトコなんていませんよ。帰りましょう。送っていきます。」

帰りはハイヤーだ。

「それではまたソウルに来たときはお誘いします。おやすみなさい。」

「友達以上にしてください。わたしはJUNOさんに恋をしたようです。」

「素敵なジョークと受け取っておきます。いつでもご連絡ください。」

たしか女優のSON H氏だよな。とびきり美しい。相手は財閥の御曹司で音楽家だ。大女優に告白されるなんてどんだけ凄いんだ。うらやまし過ぎるだろう。それをサラッとけん制するなんて・・・。

ハイヤーの運転手はまるでドラマを観ているようだった。

ジョークって。かなり真剣に告白したんだけど通じなかったのかしら。あの人にはなにも通用しない。

うーん、ちょっと自信喪失。

確かにトップ女優だけあって美しさは抜群、才能も際立っている。演じる仕事はなぜか信じられないんだよね。それに比べて音楽家は正直でわかりやすい。COCOはどうしたかな。部屋に連絡入れてみるか。

JESと離れるのは確かに淋しいけれど、反面帰国して元の生活に戻れる安心感もある。異国で異質で異業界で収まりがいまひとつだったせいか、リセットしたい。JUNOは戻ってきたかな。連絡しよう。

「JUNO、いまどこ？帰国準備は終わった？」

「いま車内。あと5分でホテルに到着。COCOは？」

「部屋だよ。少し飲まない？バーに行くから来てね。」

「了解。」

やっぱり COCO の声は安心するな。早くいつものペースに戻りたい。

JUNO の声を聴くとホッとする。ソウルはやっぱり異国で仕事先なんだな。

JUNO とバーで1時間程話したら落ち着いた。ぐっすり寝て明日帰国だ。朝食バイキングは6時。コーヒーをテイクアウトでポットに入れてもらおう。早朝じゃ太巻きは無理だし。

COCO と話していたらもう NY 気分だ。ソウルではいろいろあり過ぎてどうもリズムが狂っている。早々に修正しないと。帰国することにほっとしている。

7時半にホテルを出発。3人は帰国手続きをしてVIPルームへ。

「出発時間になりましたらご案内します。」

そこへ SON H 氏がいきなり JUNO の胸に飛び込んできた。COCO と RON は固まる。

「間に合った。JUNO さんにどうしても会いたくて・・・。」

「SON さん？またどうして。」

「朝一番の NY 便はこの時間だとわかってクルマを飛ばしてきたの。」

「JUNO、COCO と先に入っている。」

RON と COCO は部屋を出ていく。

「びっくりです。大女優らしくない。」

「好きになることと女優は関係ありません。ソウルに来るときは連絡をください。」

「はい。そうします。今日も撮影ですよ。遅れないように行ってください。わたしもそろそろ機内に向かいます。」

SON は JUNO を見つめ、いきなり唇にキス。JUNO はそれに応えるように、顔を傾け彼女の頬を掌で包んで唇を重ねる。

「あまりからかわないでください。わたしは俳優ではありません。」

「本気です。一晩悩んで勇気を出してここまで来ました。またお会いできますか？」

「はい。撮影頑張ってください。NY で拝見します。」

美男美女の映画のようなキスシーンにスタッフは見惚れたようだ。

「彼女のために SNS には上げないで欲しい。もしあげたら法に訴えますから。」

そう言って JUNO は機内に向かった。ファーストクラスは3人の他2組程。NY までの長旅だ。RON と COCO はイヤフォンで音楽を聴いている。まるでなにも見なかったように・・・。

あーびっくりした。あの女優が JUNO にラブなんて。それにしても凄い美人、JUNO にはぴったり、お似合いよね。JUNO も本気なのかな。なんだか胸がチクチクする。

COCO もいるのにいきなり参った。まあ欧米式でキスは挨拶感覚だし、COCO の前で初めてのこともな

い。誤解されたか……。しばらくソウルは勘弁願いたい。

なんかソウル滞在が続いたことで、いろいろとリズムが狂っているよな。COCOのソウル病にJUNOはトップ女優とラブ……。帰国したら修正しないと、なんか気持ち悪いな。

スキャンダル

NYでの日常が戻ってきた。ブルックリンの街は肌に合う。バルセロナへの移転は、異常気象による大雨の影響で、まだかかりそうだ。ソウルの仕事と、通常の仕事2班に分かれて超多忙、6人がフル回転の毎日だ。

JESは回復し、カップルダンスシーンをボーカルのみの演出に改訂して音楽番組に出演。コマーシャル撮影、取材と露出がどっと増えている。3か月でほぼ完治するとはさすがだ。

BPMは新曲をリリースするたびにトップに輝く偉業を達成、TEAM A-MIXによるTRUE LOVE HEART BEATは最高収益となり、TEMI氏からお礼の連絡が入る。

THE INDIESのBRADのおかげで、BPMの曲が全米に流れる。マイノリティに人気のラジオ番組が一斉に流し始めたので、徐々にランキングが上がってくるはずだ。

SON H氏と共演のKAIは主題歌もドラマも絶好調。大女優にオトナの魅力を引き出してもらっている様子。当分ドラマ出演が続く予定。

JUNS氏はCOCOとのデュオが大ヒット。いまやバラードとデュエットのキングだ。

COCO作曲のバラードは、UMI氏の歌詞で、FELIXがオトナの恋を歌いあげて、映画の主題歌に。こちらは彼女の歌手人生最高のヒットとなる。

ソウルでの仕事は大成功だった。ただし殺到するオファーはすべてお断りだ。スケジュール調整ができない。年末の音楽番組出演は無理そうだ。

COCO & JESは毎日会話している。その日の出来事や出演番組の動画、写真にスケジュールなど通常の恋人同士と変わらない。そしてふたりとも超多忙の売れっ子だ。

ソウルから帰国して4か月。復帰したJESのスキャンダルが連日検索トップに。

「HEART BEAT」のMVは、海外進出を意識してヒスパニック系の美女軍団。通常のコンサートやライブ出演は、ファン氏が選抜した韓流ダンサーだ。JESのスキャンダルのお相手は、カップルダンスのパートナーだ。20代前半でダンスがうまく、スタイル抜群。出演するとき2人は、協賛ブランドのカップリングだ。セクシーな振り付けにカップリングが堂々と動画で再生。

「腕を組んで深夜のデート。」

「熱い視線は本物の恋だから。」

「同じレザージャケット！公認のカップル。」

JESの彼女となれば一気にスター扱いだ。行く先々でツーショットを撮られている。確かに本物の恋人同士に見える。

(最近騒がしいみたいね。COCO)

(スポンサーの宣伝ばかり。みんな売名行為だよ。うんざり。JES)

(さすがスター。COCO)

(COCOさんは気にしないでしょ。JES)

(韓流サイトは消去します。)

(キリがないからそうしてください。明日はソウルを離れてコンサートです♥JES)

COCOは、韓流関係のサイトはすべて消去。彼のスケジュールも気にしない。一切ニュースは見ない。ジェラシーではなく、スキャンダルと自分が同レベルになるのが嫌だ。こんなくだらない渦に自分が巻き込まれるなんて絶対に許せない。それでも連日恋愛記事がアップされることに。

COCOは日に日にこのスキャンダルの主人公と恋人であることに疑問を感じていた。毎回変わる相手のひとりに思われるなんて情けないし許せない。もううんざりしている。

「JUNO、韓流式ゴシップは宣伝もあるっていうけど、常連と恋人なんてらしくないよね。」

「そうだな。一切耳に入れなくても、見過ごせない。宣伝だろうが否定しないんだったら、COCOの恋人の資格はないな。巻き込まれるなよ。もう離れているんだし、自然消滅でいい気がする。

そっちはソウルにお任せってことで、こっちは通常モードでフル回転していこう。連絡もあえてこっちから入れなければ、超多忙な韓流スターとはフェードアウト。」

「彼はわたしが、ゴシップなんて気にしないと思っている。立場や年齢関係なく彼のスキャンダルは傷つくの。」

「そこまで恋人女性への心遣いを年下君に求めても無理だよ。彼にはCOCOを守ることはできない。ガキだから。」

「そうだね。」

見ない、聞かないことに慣れてお互い超多忙を極めているときに、どこから入手したのかCOCOの携帯に電話が・・・。

「TEAM A-MIXのCOCOさんですか？トップスキャンダルです。JESさんのおつきあいは終わったんですか？教えてください。」

COCOは無言で切る。すぐに携帯が鳴る。鳴りっぱなしなんてどうしたの？

「JUNO、助けて。携帯が鳴りやまない。ソウルの記者みたい。どこから番号が知られたの？」

「電源を切れ。ソウルに連絡してみるから。」

もう着信が20件って???なんなの？

「KEI、JUNO。COCOの携帯にソウルのゴシップ記者からひっきりなしに連絡が入る。これが続いたら訴えるつもり。ソウルのKIM先生と相談してくれる？ソウルにいるならまだしも、こっちまで追いかけるなんて異常だよ。それにどこから携帯番号が漏れたかが気になる。」

「こちらで対処する。携帯は替えたほうがいいかもな。JUNOはTEMI氏に連絡して欲しい。」

「ジェシー、COCO に新しい携帯を用意して欲しい。番号もすべて刷新でね。」

「ソウルの彼はいいの？」

「あいつのせいだからいいよ。それにソウル病も終焉ってことだ。」

「それはいいことだ。」

「TEMI、JUNO だけど、COCO の携帯にソウルのゴシップ記者から連日連絡があって迷惑だ。JES との関係を知りたいらしい。どこから番号が漏れるの？JES サイドしか考えられないけどね。もう携帯は替えた。収束できないならこっちで訴訟を起こすから覚悟して。嫌ならさっさと終わらせて欲しい。いまのままじゃソウルからの仕事はストップだから。契約事項にも記載されているはずだよ、確認して。KEI からソウルの KIM 先生に話はいくはずだからよろしく。」

「至急、調べるから訴訟は勘弁して欲しい。ダメージが大き過ぎる。」

「COCO を傷つけるなんて絶対に許さない。調査も中途半端だったら容赦しない。」

「どうやら TEAM A-MIX のアンタッチャブルを侵犯したらしい。」

「そうだよ。怒らせたね、わかった！」

COCO の携帯電話、番号すべて刷新された。記事も見ない。検索もしない。

COCO はスキャンダルの主人公の恋人であることをやめた。

JUNO は相変わらずのゴシップに呆れた。JES らしい寝姿を背景に、自撮りした彼女の写真が SNS にアップされソウルは大騒ぎ。JES 本人ならベッドシーンが流失したってことだ。

「JUNO、TEMI だけど、COCO さんはどうしてるかな？」

「ソウルのことは見ない、聞かない。携帯も全て新しくしたから。パソコンも触らせない。ピアノ弾きながら作曲している。」

「相当ショックだろうな。」

「彼氏が好きとか嫌いのレベルではない。ゴシップ垂れ流しの状況に嫌気がさしたのと、同じレベルと思われたのがショックらしい。あれだけの才能の持ち主だから、それなりにプライドが高いのはわかるよね。この件については一切話さないしね。当分そっちの仕事は受けないから。」

「わかった。本当に申し訳ない。」

COCO は作った曲を渡しにジェシーのデスクへ。MAC の大型画面の左端に小さく、韓流ゴシップのベッドシーンがそのままに。

これって JES？顔は隠れているけど彼女はダンサーの子だ。ずいぶんひどいことするな。記事を止めればいいのに、わざと掲載しているのか。ここまで馬鹿にされたことってなかった気がするけど……。何やってんだろう、自分が惨めでならない。

「ジェシー、デスクに新しい曲のデータを置いたから。」

「ごめん、ちょっとスタジオに行ってた。」

ジェシーはデスクに戻って青ざめた。画面を消さずに残っていたからだ。どうしよう。

COCO はいつも通りだし小さかったから見なかったかな。

「JUNO、COCO だけ具合が悪いから部屋に戻って休みます。」

「熱はある？風邪か？」

何も言わずに電話は切れた。折り返しかけるが電源 OFF。

どうしたのかな？ずっと曲作っていたから疲れたんだろうな。そっとしておこう。

翌朝は10時からミーティング。

「JUNO、COCO がまだなんだ。」

「めずらしいな。カフェには？」

「携帯もつながらないし、クルマもバイクもある。」

「部屋に行ってみる。」

「COCO 具合悪いのか？入るぞ。」

JUNO は暗証番号をプッシュして部屋に入り、寝室のドアをノックする。応答がない。

「COCO 開けるぞ。」

COCO はベッドに座っている。

「どうした？」

COCO は一点を見つめて反応がない。JUNO は COCO の肩を抱いて

「くだらないことは気にするな。仕事だよ。」

COCO は JUNO の顔を見つめながら

「何も聴こえないの。音も声も何もかも。ただ自分の声が頭に反響しているだけ。助けて JUNO。」

え？聴こえないって・・・。JUNO はすぐにメモを書く。

(シャワーを浴びて仕度して。病院に行こう。一時的だよ、ストレスフルもあるから。)

COCO はうなずき、シャワールームに入った。

JUNO は制作室に入りチームに尋ねた。

「昨日、COCO に何か変わったことはなかったか？ストレスから耳が聞こえないみたいだ。これから診察に連れて行く。」

「はっきりわかんないけど、席をはずしてたら COCO がデスクに来たんだ。そのとき画面の端に例の記事が残っていて。でも COCO の態度はいつも通りだったから気にしていなかったけど。」

「何時頃？」

「15時過ぎ・・・。」

「それが引き金だ。そのあとすぐに具合が悪いから部屋に戻って連絡が入ったから。」

「あれを見たとしたらかなりショックだよ。」

COCO は相当なストレスが原因の突発性難聴と診断された。3日間の入院だ。COCO が検査中に JUNO は医者にストレスの原因を話した。心療内科の診察もお願いする。

音楽家である COCO は絶対音感を持つ。聴こえない恐怖は想像を絶する。JES を許せない。
絶対にソウルには関わらない。BPM のアメリカ進出におけるプロモーションは断るつもりだ。

COCO & JES が途絶えた。電話もつながらない。現在使われていませんって？携帯が壊れたのか紛失したのか……。考えるともう1週間だ。ツアーの忙しさを言い訳に気付くのが遅かった。どうしたんだろう。いまさら不安になる。嫌な予感だ……。連絡方法がない。

「TEMI さん、JES です。COCO さんと連絡が取れない。A-MIX の連絡先を教えてください。」

「JES、今回のゴシップが原因で、もうソウルと関わらないと断言された。訴訟騒ぎになるかも。連絡はできない状態だ。」

「ゴシップって？」

「ここ毎日騒がれている JES だよ。」

「COCO さんは気にしていなかったけど。」

「ともかく連絡は無理だ。」

JES はいままで事の重大さに全く気付いていなかった自分を責める、が手遅れだ。あれだけの音楽家である COCO さんが、こんなくだらない記事を読んだら、プライドがズタズタだ。ましてスキャンダルの主役である俺の恋人なんて絶対にありえない。なのにゴシップ慣れしている俺は気にしなかった。

COCO さんが怒ったり泣いたりするわけがないと思いついていた。どうしたらいいか。

そうだ、RUDY さんに JUNO さんの連絡先を聞こう。

「RUDY さん。JES です。JUNO さんの連絡先を教えてくださいませんか？」

「どうしたの？」

「COCO さんにつながらない。携帯番号が替わったみたい。」

「それってもう連絡しないで欲しいってことじゃないかな。」

「え????」

「あれだけのスキャンダルを知ったら、彼女は無理だよ。くだらない記事の主役が自分の恋人なんて許せない。もっと早く真剣に記事を訂正しないと。ソウルの感覚でそのままにするなんて通じるわけがない。JES が無責任過ぎる。許してもらえないよ、彼女だから。」

「あれはすべて嘘だし、相手が勝手にアップした。それにベッドの写真は俺じゃない。」

「じゃあ、なんですぐに彼女に連絡して訂正しなかったの？」

「……………どうしたらいいだろう？」

「どうにもならない。諦めるしかない。言い訳を聞いてくれるつもりなら連絡は絶たないでしょう。それにもう愛情もない、連絡が欲しいとも思っていないから。」

「はっきり聞きたい、彼女の口から。」

「少し時間を置くように。それから記事の訂正は迅速に。いまさら彼女の目には入らないと思うけどね。」

RUDY は JUNO の電話番号を JES に教えた。

COCO は無事に退院した。右耳の聴力が完全には戻っていない。そしてメンタルはボロボロのまま。本人が一步踏み出すまでは休養をとるよう医者に言われた。KEI に相談しよう。

「KEI、COCOは無事に退院したけど回復には時間がかかる。別荘でゆっくりするのがいいかも。ハンプトンに連れて行こうと思う。」

「別荘のスタッフにはCOCOが滞在する準備を指示しておく。ピアノは調律を入れておくからJUNOが付き添ってくれるとありがたい。」

「こっちの仕事は予定通り進行しているので問題ない。COCOとしばらく滞在するよ。3カ月程でバルセロナのオフィスも出来上がるので、移転する予定。あっちにはマヨルカ島の別荘もあるから。COCOの体調考えて万全な体制にするよ。」

「症状は？」

「聴覚は半分ほど戻ってきている。ピアノは触らない。ソウルのことは何も話さない、まるでなかったように・・・。」

「もうソウルに行くことはないだろう。」

「わざわざ行かなくても仕事はできるようになっているから。それにCOCOがソウルに入ることはもうない。」

「TEMI氏の仕事は？」

「十分こっちでできるから問題ない。ペンディングだった仕事はすべて断ったから。」

「COCOの彼とは？」

「あいつが原因だから、もうフェードアウトだね。」

「ひどい話だな。わかった。JUNOと一緒になら安心だ。どうか妹を頼む。」

翌日JUNOのマセラッティでCOCOはハンプトンの別荘に。庭は手入れが行き届き、生活用品はすべて揃えられていた。近日冴子が様子を見に来ると連絡が入る。

バイクは、数日後トラックで搬送される。

ここは美味しいレストランやブティック、書店も充実、不便は一切ない街。COCOが回復するまで滞在するつもりだ。そして明日にはJUNOが仕事をしやすいように、制作室同様の設備が揃えられる。医者から2か月は療養するようと言われた。この別荘には家事、警備スタッフが常駐している。しばらくはJUNOとCOCO2人の生活になる。

恋は熱く、愛は温かい

JUNOは何も聞かない、言わない。程よい距離感で傍にいてくれる。もう誰もわたしを傷つけない。閉ざされた心がそっと開いていくようだ。

「COCO、ゆっくり休んでね。家中あなたの好きなカサブランカを生けたから。」

「マミーありがとう。ちょっと疲れた。異国での慣れない毎日が無理だったみたい。それに気づく前に耳が聴こえなくなっつらい。もう他人にいろいろ言われたり、ネタにされたくないし、バカにされるなんて2度と嫌なの、許せない。ただ人を好きになっただけ、恋しただけなのに・・・。」

「そうよ、COCOは何も悪くないのよ。純粹に恋を楽しんだだけよ。もう夢から覚めて。JUNOが見守ってくれるから。」

「うん。わたしにはいつもJUNOがいてくれるし、やさしい仲間もいる。それ以外何も必要なかったのに浮かれているからこんなことになったんだね。」

「ゆっくり休んで。バルセロナに行くんでしょ、みんなで。お気に入りのマヨルカの別荘も準備しておくから静養してね。」

「バルセロナの内装と家具はマミーに一任するからお願いします。」

「あら、高くつくわよ。」

「JUNOに交渉してもらうから。しばらく何も考えたくない。」

「大丈夫よ。JUNOがいるでしょ。」

「うん。」

いままで中傷されたり、悪意にさらされることがなかっただけに、今回は相当応えているから心配だ。

「JUNO、COCOをお願いね。異国の環境に惑わされただけ。JESさんはCOCOを受け止め切れなかったのよ。JUNOさえよかったら、もう距離を置かずにCOCOの隣にずっといて欲しい。」

「そうします。もう15年も想い続けているからCOCOしか考えられない。そろそろきちんとするつもりでいたから、COCOのソウル病はいいきっかけになります。」

「あなたとならだれもが認めるし、COCOが幸せになれるから。」

毎日が穏やかに過ぎていく。JUNOと朝は庭を散歩して、美味しいレストランで食事をする。スタッフに料理を習ってJUNOに作ってみる。メンバーと庭でBBQを楽しむ。少しずつCOCOが戻ってきた。

「JUNO、COCOはだいぶ戻ってきたね。」

「うん、表面はそう見えるけど心まではわからない。何も言わないから。」

「JUNOがそばにいるから安心なんだね、COCOは。ただ楽しいだけじゃダメなんだ、男と女って。」

「だから健やかなるときも、病めるときもって、神父さんが結婚の誓いで言うのかもな。」

「JUNOとCOCOって当たり前すぎてたけど、いま見るとすごく素敵なカップルだよね。」

「JUNOはずっとCOCOを愛しているし、COCOもJUNOを愛してるってやっとながら気がついたんじゃないかな。」

「RONの言う通り、あれはソウル病だったってことだね。」

メンバーは2人を包む空気感と、COCOをやさしく見つめるJUNOを見て、やっぱり最高のカップルだと確信した。

ハンプトンで1カ月、JUNOはピアノの音で目覚めた。早朝からCOCOがピアノを弾いているのか。着替えてリビングに。

「JUNO、おはよう。あとで病院に連れて行って。聴力が戻った気がする。」

「久しぶりに弾いているね。」

「うん、急に曲が思い浮かんだから忘れないうちに。」

「恋も愛も恋愛もLOVEだけど、それぞれ違うって気づいたんだ。MY TRUE LOVEよ。聴いて。」

やさしくささやくようなCOCOの声

恋は激しく 愛はやさしい

恋は熱く 愛は温かい

恋は激しく燃えて 愛はやさしく包み込む

恋に悩み 愛に癒される

恋に泣いて 愛を知る

恋に傷つき 泣いたら涙を拭いて 顔をあげて

あなただけの愛がそこにあるから

MY TRUE LOVE 真実の愛がそこにある

恋に傷ついたからこそ生まれた感情がそこにある。やっぱり音楽家は正直だ。いまある気持ちがそのまま音符と歌詞になる。

「誰に歌ってもらおうか。PAMの歌唱力ならいい四重奏に仕上がる気がする。」

「PAMってソウルの？」

「うんそうだよ。すごく美しいハーモニーを奏でるグループよ。歌だけで勝負している。ハングルと英語、日本語で。英語の発音次第ではBRADに配信してもらいたい。」

「もうソウルは懲りたと思っていた。」

「創作は別モノよ。いい曲ができれば、素晴らしい歌手に歌って欲しいから。」

「PAMのアルバムを聴いてみてから、アレンジを考えることにするよ。」

BPMでなくPAMか。確かに美しい4種の声が重なり合い、歌唱力で勝負している。COCO好みではあるな。

「病院の帰りに美味しいイタリアンで食事しよう。」

「COCOさんの聴力はほぼ戻っています。何よりピアノを弾き始めたことが、少しずつ回復している証拠ですね。」

「そのようです。今朝からピアノを弾き始め、曲を作っていました。」

「JUNOさんの支えがあればこそです。極力刺激しないように、ゆったりと過ごしてください。いまの環境

は問題ないですね。」

「ではまた来週に連れてきます。」

「JUNO、サッシカイヤでシチリア料理ね。」

「お一元気が出てきたな。了解。」

魚介が美味しいシチリア料理というよりサッシカイヤが目当てだな。COCO は白の辛口に目がない。

「冴子さん、COCO がピアノを弾いて作曲しています。診察ではほぼ聴力は戻っているとのこと。夕食はサッシカイヤでイタリアンでした。安心してください。」

「JUNO、ありがとう。あなたのおかげよ。もうあんな COCO の姿はみたくないから。しばらくは移動しないでね。」

「はい。そのつもりです。」

「JUNO、ジンライムが飲みたい。つき合って欲しい。」

「いいよ。久しぶりに2人で飲むか。」

JUNO はスタッフにジンライムと、ブルーチーズ、イチジクにレーズンの準備を指示。COCO とソファに並んで座る。

「JUNO 聞いて。わたしは本気で JES に恋をした。毎日ドキドキして楽しくて、彼とずっといたいと思った。だからってゴシップに惑わされたり、耐えたりするつもりはなかった。わたしは年上だから、外国人だからゴシップなんて気にしないと思われていた。それってあまりにも都合がいい話だよ。せめて自分の身になって考える思いやりが欲しかった。あんなゴシップをそのまましておける神経がわからなかった。わたし自身、ハングルを理由に気付かないふりをしていたのか、我慢していたのか。最後に見た写真は許せない。たとえ本人じゃなくても、連絡もせず、訂正も釈明もないってことは、所詮わたしとの仲はその程度だったって。辛いよりも悔しくて、いつの間にか何も聴こえなくなっていた。」

「COCO もういいよ。わかっているから。これからはどの国にしようとしても傍にいる。」

「ありがとう。これからは自分の心に従って、目の前の人を大切にする。愛ってやさしくて温かいって思うから。」

いつの間にか COCO は JUNO にもたれかかりながら眠っていた。今晚、PAM 仕様に曲を書き上げよう。

COCO の精一杯の気持ちだから。

JES は弟だったな。身勝手過ぎて呆れるが、韓流スターで若く、恋愛経験もなければ仕方ない。あいつに COCO は到底無理だ。

JUNO は COCO をそっと抱き上げ寝室に、ベッドに寝かせる。もう決して COCO を離さない、誰にも触れさせない。そっと COCO の唇にキスをした。

「RON、仕事か？」

「JUNO、COCO は？」

「だいぶ回復した。今日は曲を作ったぞ。さっそくアレンジして欲しい。COCOはソウルのPAMに四重奏で歌わせたいらしい。」

「え？ソウルに？曲はJUNO？こっちはずっとここに泊まり込みだからすぐに仕上げるよ。」

「頼んだぞ。」

「明日には上げるよ。」

COCOが作曲するなんてやったね。さすがJUNOだ。

「TEMIか？JUNOだけど。COCOがPAMに歌って欲しいと曲を作ったんだけどどうする？」

「PAMに？」

「そう、COCOは彼らの歌唱力を認めているから。どう？彼らの英語の発音は？いないならほかに回すよ。」

「いや是非お願いしたい。英語の発音は問題ない。それにしても彼女がよくソウルに作ってくれたな。」

「ずっと休養していたんだ。もう吹っ切れたらしい。ソウルに行くこともない。英語とハングルの歌詞はこっちで作るから日本語をお願いします。ヒットを狙うなら外国語の歌詞は必須だよ。歌はしびれるほどいいから。それから仕事の依頼はしないでね。当分韓流は勘弁願いたい。」

「わかった。」

「明日データで送る。そうだ。結婚するかも。韓流式は面倒だから事実婚で。」

「相手は？」

「ずっと一緒にいるCOCOだよ。」

「それは素晴らしい。そっちできちんと式は挙げるように。」

「もちろん、考えてるよ。」

TEMIに曲が届いた。「MY TRUE LOVE」。繊細な歌詞とメロディに胸を打たれる。四重奏が重なり合う曲は、まさに歌唱力が問われる。さっそくPAMを呼ぶ。

「この歌をどう思う？」

いきなり聴かされてPAMはその場で固まる。

「歌いたい。この曲は誰が？」

「作詞、作曲はTEAM A-MIX COCO アレンジはTEAM A-MIXだ。どうだ？他には内密に。良ければすぐにRUDYを呼んでレコーディングに入る。」

「よろしくお願いします。」

RUDYはこの曲を聴いて、COCOの気持ちを十分に察した。愛とはJUNOさんのことだな。やはりあのふたりに割って入ることはできない。JESもいい経験になるだろう。この曲を聴いてCOCOさんと気がつかなければ、無駄な時間だったってことだ。

レコーディングは順調だ。すぐにJUNOに送られる。

「COCO、ソウルのPAMからレコーディングのサンプルが送られてきたよ。」

「へえ、予想以上にいいね。英語の発音もバッチリ。すぐにBRADに連絡する。」

だいぶ元に戻ってきたな。BPM より PAM だ。少し JES も反省するといい。

「BRAD、COCO。最近グッとくる切ないバラードってないでしょ。作ってみたから聞いて。」

「COCO が作詞作曲？聞きたい。」

「データは JUNO が送るから。いまハンプトンで静養中なんだ。」

この曲ならイケる。発音も問題ない。東洋系はいまに全米を席卷するな。美しく繊細な歌声は今の時代にグッとくる。

ソウルでは一斉に PAM の「MY TRUE LOVE」が流れる。恋と愛を歌うこの曲はあっという間に話題に。作詞作曲が TEAM A-MIX COCO というのが拍車をかける。2 日目でトップに躍り出た。

ひとつの過ちに100の未練

JESは淡々と仕事をこなしていた。感情表現が乏しくなった。ただ毎日の仕事をこなしているだけだ。メンバーもあまりの変わりようになす術がない。原因が本人にあるんだから助けることもできない。さすがソウルだけあってあのくだらないゴシップは消えたが、相変わらず女性との噂は絶えない。JESも隙だらけだ。ダンサーも代わった。

「JES、PAMの新曲は聴いた？素晴らしい曲だから。」

「興味ない。」

「そう、楽曲提供はA-MIXだよ。」

「え？？もうソウルの仕事はしないって。」

さっそくリハーサルの映像を見る。

「これってもしかして。」

「作詞作曲はCOCOさんだよ。レコーディングはRUDY兄さん。」

この歌詞って、俺のこと？恋って俺との？じゃあ愛は？JUNOさん？そんなことって。

JESはRUDYのオフィスに。

「RUDY兄さん、PAMの新曲はCOCOさんの？」

「らしいな。JUNOさんから頼まれた。COCOさんがPAMに歌って欲しいって。」

「恋と愛って、俺のこと？」

「さあ、何も聞いていないけど。TEMIさんによるとJUNOさんが結婚するらしい。」

「COCOさんと？そんなことって、いやだ。」

「相手は聞いていないけど、療養中はCOCOさんに付きっきりだったとか。彼女は相当病んだらしい。」

JUNOさんに聞いてみればいい。もしJESがCOCOさんの恋人だったとしたら、とんでもない過ちを犯したってことだ。

MY TRUE LOVE

恋は激しく 愛はやさしい

恋は熱く 愛は温かい

恋は激しく燃えて 愛はやさしく包み込む

恋に悩み 愛に癒される

恋に泣いて 愛を知る

恋に傷つき 泣いたら

涙を拭いて 顔をあげて

あなただけの愛がそこにあるから

MY TRUE LOVE 真実の愛がそこにある

この歌を聴いていまさら連絡できない。でもこのままでは諦められない。

「JUNO さんですか？JES です。」

「やっと連絡がきたか。どうした？」

「COCO さんは？」

「なんとか復活しそうだ。もうボロボロだったからな。そっちではずいぶんといいい加減な奴のせいで散々だったから。」

「……。どう謝ったらいいかわからなくて。それにすべての連絡方法が途絶えて。」

「もう話すこともないからだ。あれだけいい加減な態度で COCO を傷つけて、何を今さら謝るのかな。相手の成長を妨げるどころか、奈落の底に突き落とすなんて、あれだけ COCO に愛されたオトコのすることではない。自分がされたらどうするんだ。COCO の気持ちを思いやれない奴に恋人の資格はない。もう会うこともない。あの詞で十分に感じたはずだ。」

「どうすればよかったんだろう。」

「訂正したか？ 釈明したか？ 誠心誠意尽くしたか？ どうせゴシップだからと放置して、年上の外国人だから気にもしないと決めつけていただろう？ もう終わりだ。もう関わるつもりはない。これからは愛する女性に対していい加減なことはするな。」

電話は一方的に切れた。

RUDY さんの言う通りだった。うまくいっていると信じて最高に幸せだったのは、ただの身勝手だったのか。COCO さんを思いやる気持ちが欠けていた。彼女はすごく傷ついたのに釈明も訂正もしなかった。それもツアーを言い訳に1カ月間、謝ることもしなかった。どんなに後悔しても戻れない。あの時こうしていれば、あの日あの時間に戻りたい。自分の未熟さに未練ばかりが残る。たかがゴシップと無視した過ちが、いくつもの未練を残す結果になってしまった。ずっとあの歌を聴き続けなければならないなんて辛過ぎる。ただ確かな事実として、COCO さんとの幸せは、自分で終わらせてしまったということだ。

「最愛」

COCO は毎日ピアノを弾いて作曲に没頭している。少しずつ日常を取り戻しているようだ。あれから携帯は触らず、インターネットも一切しない。別に困ることはない。COCO に連絡を取りたいければ JUNO がいるからだ。

「COCO、わたしはどうも君の秘書らしい。」

「だって携帯とかメールはもう触りたくないから。嫌なら RON に頼むからいいよ。」

「誰も嫌だなんて言ってないよ。不便じゃない？誰かに連絡とりたくなったら困るよ。それよりいつバルセロナに移転する？」

「うーん、自分の気持ちが整理できたら。」

「わかった。2か月で完全に内装もインテリアも収まって、インフラも整備、電子機器もスタジオ設備も完璧に仕上がる予定だから。」

「それまでには大丈夫よ。今晚は調理スタッフに KIM 先生のレシピで韓国料理をお願いしたから一緒に食べよう。」

「いいね。食材も届いたの？」

「うん、調味料や保存素材は売るほどあるから、生鮮や野菜は仕入れてもらった。」

「楽しみだ。」

JUNO は BPM の MV がヒスパニックから始まり、いまや全米ベスト 50 にランクインしたと連絡を受けた。素晴らしい、BRAD のおかげだ。東洋系のダンスグループとして人気を博し、各賞の候補としてエントリーされるだろう。仕事は大成功だ。アメリカで JES と会うこともあるかもしれない。早々にバルセロナに移転しないと不安だ。COCO のことになるとうまく自信がない。腕の中からすり抜けてしまうようで怖い。あらためて COCO に告白して、友達以上には思えないと言われたら・・・。

COCO は自分が予想以上に回復が早いことに驚く。これ以上ないほど傷ついたはずなのにいつの間にか忘れて、時が解決してくれる。そしていまの生活に癒されている。きっと JUNO がいるからだ。

PAM 仕様の歌を作ったのも、心の傷が癒えたからだと思う。あんなに好きだった JES との思い出も少しずつ消えていくよう。でもそのときの愛する気持ちを込めた歌は残る。それで充分だ。

わたしがいま言えることは、自分の心に従って目の前の人を深く愛すること。思い切って JUNO の気持ちを聞いてみるつもりだ。

ダイニングテーブルには色彩豊かな韓国料理が並ぶ。

「わたしは初めて作りましたが、とても美しい料理ですね。このレシピはこれから生かすつもりです。」

JUNO 様、改良点があれば是非ご指導願います。」

「COCO はすでに韓国料理ラヴァーだから、これからもよろしくね。ワインはどうする？」

「うーん、シャンパンで。ピンクがいい！」

「いつもはみんなを呼ぶけど、今日は JUNO とふたりがいい。」

「どしたの？ 静寂に慣れたかな。そうだ。マルコから連絡があった。DOGATTI の PV をまた制作したいから出演して欲しいって。どうする？ 今回はもう少し大人っぽくセクシーらしい。」

「いいよ。JUNO が相手なら。」

「絵コンテ見てから決める？」

「DOGATTI に乗れるならいい。」

「明日脚本と絵コンテが送られてくるよ。モナコへの旅も気分転換にいいかも。」

マルコには COCO の病状は話してある。前回のキスシーンが好評で、DOGATTI はミドル世代に相当売れた。今回は海辺のホテルでちょっと上級のラブシーンがあるらしい。すごくうれしいけど COCO はどうかな。

シャンパンで韓国料理を久しぶりに堪能したふたりは、食後酒にジンライム。ガラス張りの窓から見える、ライトアップされた庭を眺めながらソファに並んでいる。

「JUNO、話したいことがある。」

「なに？」

COCO は JUNO にカラダを向けて、視線を合わせる。COCO の漆黒の瞳に吸い込まれそうだ。

「ずっと一緒にいたよね。わたしはこれからも JUNO と一緒にいたい。JUNO に女性として愛されたい。ずっとずっと愛し愛されたい。」

「え……。」

「無理ならいま言って。傷は浅い方がいいから。いまさら女性として考えられないならそれも仕方ない。友達としてやっていくつもり。」

JUNO は感激で言葉にならない。

COCO のカラダを抱き寄せ唇を重ねる。それも情熱的に。甘くやさしいキスなんてできない。いままでの COCO への想いを込めて、息ができないくらい熱いキス。

COCO は全身を JUNO にあずける。自分で支えられないほどとろけそうだ。

JUNO は唇を離して COCO をじっと見つめる。

「COCO 以外の女性を考えたことはない。ずっと前から一緒になるって決めていた。COCO にとっては友達でしかないのかと諦めかけたこともある。でも JES とつき合う COCO を見て嫉妬した。ラブソングを次々作る幸せそうな COCO といるのは辛かった。ハンプトンでの生活は夢のようで毎日うれしかった。COCO を必ず幸せにするって誓った。いまの COCO の告白は最高にうれしい。本当に夢のようだ。」

「幸せにするって約束して。絶対にわたしを傷つけないって。」

「約束する。」

「美人女優からのアプローチに胸が痛んだ。JES が好きなはずなのに、JUNO が他の女性と仲良くするのが嫌だった。帰国して JUNO といるのが当たり前の日常にほっとする自分がいた。今日はわたしの想いを伝えたかったから。ありがとう、JUNO。」

JUNO は COCO の頬を包みこんで唇を重ねる。そしてそっと COCO の唇を開いていく。COCO の香りが鼻腔を抜けて、やわらかい舌の感触に欲情する。

「COCO、このまま生まれなくなりそうだ。今晚はゆっくり休んで。」

「うん、わかった。おやすみ。」

JUNO は全身が熱くなった。最愛の女性からの愛の言葉に感激し、彼女とのキスに最高の幸せを感じた。COCO を抱きたい気持ちがどっと押し寄せてくる。彼女はわたしにとっての最愛の人だ。

COCO は心臓の鼓動が速く、全身が愛する気持ちで溢れるようだ。もっと JUNO に抱きしめられたい。ふたりの愛は、長い年月と記憶によって育まれてきた揺ぎ無い愛だと確信した。

DOGATTI のストーリーが届いた。

海辺までツーリング

夕陽を眺めながらのキスシーン

シャワーを浴びて濡れた女性の髪をタオルで拭く

壁にもたれかかるバスロブの女性を抱きしめて濃厚なキス

ふたりは朝陽が降り注ぐベッドで目覚める

寝ている女性を男性が見つめながらキス

男性は女性を抱き寄せる

重なり合って濃厚なキス

かなり上級なラブシーンだ。

「COCO、このストーリーどう思う？」

「さすが JUNO の淹れたコーヒーは美味しい。」

COCO は、絵コンテを見ながら

「素敵だね、映画の 1 シーンを切り撮った感じがする。映画監督の作品だね。曲は MY TRUE LOVE でいかない？ミドル世代は恋じゃなくて愛でしょ。」

「マルコに相談してみるよ。アレンジはこっちに依頼するつもりらしいから。できれば来週にでもモナコで撮りたいらしいけど、体調を見ながらだね。飛行機が心配だから。」

「ドクターに聞いてみる。」

JUNO とだったらどんなラブシーンだってできる。というか JUNO としかできない。

このタイミングでこの撮影は凄い幸運だ。

ぜひ完成させたい。PAM ならソウルで洪水のように流される。COCO を傷つけた罰だな。

「COCO、ちょっと出かけてくるけど、すぐに戻ってくる。バイクだから渋滞もないし。何か欲しいものあるかな？」

「パニーニ！アボガドとチーズがいい。」

「了解。」

JUNO はバイクで宝飾店に向かう。COCO とお揃いのカップルリングをオーダーする。

「JUNO 様、お久しぶりです。」

「カップリングとブレスレットを作りたいんだ。デザインの相談にのってほしい。」

「それはおめでたいことです。お相手はどんな方でしょうか？」

「COCO だよ。」

「それは何と素晴らしいことでしょう。JUNO 様と COCO 様のカップルジュエリーを作れるなんて夢のようです。COCO 様ならオーダーですね。個性が際立っていますから。唯一無二でないとなりません。」

「そうなんだ。」

「石はダイヤ×エメラルドはいかがでしょう。交互に囲うようにデザインします。グリーンのエメラルドは、似合う方はなかなかいない個性が強い石ですから。」

「エメラルド、緑色だね。神秘的だ。お願いします。」

「JUNO 様は、プラチナのスクエアで、エメラルドとダイヤを1粒ずつ入れます。裏にはお2人のお名前 COCO & JUNO と刻みます。」

支配人はデザイナーにその場でイラストを描かせながら説明する。

「いつできますか？」

「幸い上質なルース（裸石）が入っているので至急仕上げます。」

「お願いします。支払いはいつものように。」

「かしこまりました。」

モナコまでには間に合わせないと。

COCO は庭でのんびりティータイム。さすがにマミーに連絡しないと・・・。携帯に電源を入れる。

「マミー、COCO。調香師にハンプトンに来るように連絡してくれる？」

「いいけど、どうしたの？」

「オリジナルの香りが作りたい。」

「COCO はいつものマンデリンムスクでいいでしょ。」

「メンズが欲しい。JUNO に贈りたいの。」

「了解。いつならいいの？」

「明日にでも。」

「JUNO に贈るなんて、恋人に昇格したの？」

「うん。ずっと一緒にいて欲しいと言った。」

「JUNO は喜んだでしょう。」

「そうだね。振られなくて良かった。」

「彼は COCO ひと筋よ、出逢った頃から。明日の午前中に行くように手配する。」

「ありがとう。」

最愛の人にいつかオリジナルの香りを贈る・・・そう決めていた。柑橘系や花の香りといろいろ経験したが COCO はムスク系が好きだ。キャラが薄いと香りに負けてしまう。香りを操る個性が必要なのがムスク系だと思う。JUNO はしなやかさに強さが魅力、きつとウッディムスクが似合うはずだ。東洋系は体臭がないのでムスク香が際立つ、楽しみだ。彼の香りに包まれていたい。

バイク音とともに JUNO が戻ってきた。

「COCO、庭でパニーニを食べよう。」

「うん。JUNO、ただいまのキスして。」

JUNO は一瞬驚いたが、座っている COCO の前にしゃがみ込んでキスをする。

「どうしたの？」

「なんかしたくなかったから・・・。」

かわい過ぎる。どんどん COCO の深みにはまっていく。

ずっと前から素敵なお女性だったけど、恋人になった途端に可愛さが倍増、キリがない程に夢中になる。ずっと独占したい。いままでの恋人に嫉妬する自分があるなんて・・・。

「午後に病院に行こうか。飛行機に乗って問題なければモナコにはいろう。」

「問題なさそうだよ。心因的だったから。それに今は JUNO といて幸せ。」

診察の結果は COCO の言う通り問題なく渡航も許可された。撮影も問題ないとのこと。これで日常に戻っていくだろう。投薬はもう少し続けることになる。モナコへは5日後になるとマルコに連絡。飛行機とホテルの手配をお願いする。

「JUNO、ありがとう。さっそく準備するよ。今度の新モデルはすごく乗りやすいよ。進呈します。」

「COCO が喜ぶ。」

「バルセロナにはいつ？」

「COCO が完治したらすぐに向かう予定だ。2か月以内には入るつもり。」

「こっちは近くなるから楽しみだよ。依頼したい仕事もあるし。」

「チームごとの移動だから仕事は任せて。」

5日後に COCO、JUNO、RON、ダニーでモナコに入る。空港で集合だ。

今日は COCO の診察と処方箋をもらいに病院へ。

JUNO はリングとブレスレットを受け取りに宝飾店へ。

「いらっしやいませ。世界に一つしかない、最愛の方への贈り物が仕上がっております。」

「ありがとう。」

鮮やかなグリーンとシルバーのギフトボックスが開けられる。そこにはエネラルド×ダイヤが一回りはめ込まれたリングと、プラチナにエメラルドとダイヤが1粒ずつはめ込まれたリング。そしてリングと同じデザインのブレスレットが。内側には COCO & JUNO と刻まれている。

「エメラルド×ダイヤのコンビネーションは個性が際立つおふたりにはぴったりです。東洋系の美しい肌色に、じっくり馴染むでしょう。オトナのカップルだからこそ似合う逸品です。おめでとうございます。」

「近いうちに婚約指輪をお願いします。」

「石のお好みは？」

「本人に希望を聞いてみます。」

「是非お待ちしております。お幸せに。」

「先生、来週から10日程モナコに行ってくる。撮影なんだ。」

「もう COCO さんは飛行機も問題ないでしょう。撮影は疲れないうちに……。JUNO 氏がいてくれるから心配ないですね。」

「はい。」

「個人的なお願いがあります。TEAM A-MIX のサインをいただけますか？実は家族やスタッフにせがまれて。」

「人数を教えてください。サインを入れた CD をお渡ししますのです。」

「ありがとうございます。本当にうれしい。それでは気をつけて。」

「そうそう、今回がきっかけで JUNO と一緒にいることにしました。」

「おめでとうございます。彼とならもうストレスフルになることもないでしょう。」

診察室を出ると JUNO が待っていた。

「どうだった？」

「何も問題ないよ。サインを入りの CD を人数分、約束したから。」

「ジェシーに頼んでおくよ。今日は別荘で食事を用意したから。」

JUNO はカップルジュエリーを COCO に贈るための演出を準備している。

調香師によるウッディムスクを JUNO に贈ろうと。きっと気に入ってくれる。

別荘のダイニングテーブルには、COCO お気に入りのカタルーニャ地方の料理が並べられている。バルセロナのグルメだ。

イベリコ豚の生ハム、トマトとオリーブオイルを塗ったバケット。ホタルイカのフリットーとオリーブオイルでマリネにしたもの、松の実入り豚肉のソーセージに白いんげん。エスカリバダ（グリルした野菜をビネガーであえた付け合わせ）、魚介のパエリア。ワインは CAVA（カヴァ）だ。

ふたりきりで楽しみたいので、スタッフの姿はない。

「わたしの大好物ばかり……。食欲がでてきた。」

「それは良かった。」

COCO の食欲は戻ってきている。JUNO は美味しそうに頬張る姿に安堵する。

食事を終えた COCO をリビングに誘う。扉を開けるとたくさんのキャンドルが……。

JUNO はピアノを弾く。

COCO 作詞作曲の MY TRUE LOVE を歌う。

JUNO の歌声に COCO の涙が頬を伝う。

JUNO の愛、本当に温かく包み込んでくれる。

弾き終わった JUNO は COCO の正面に立つ。

「COCO、これからはずっとわたしの隣にいて欲しい。音を創り、奏で、歌おう。」

そして立っている COCO の前にひざまずく。広げた手のひらにはリングが2つ。

COCO を見つめながら低めのやわらかいトーンで

「WILL YOU MERRY ME?」

こんなにプロポーズって感激するんだ。

「いきなりで・・・。」

「ずっと言いたかった。」

JUNO は立ち上り、COCO の左手の薬指にリングをはめた。

そして COCO も指輪をとって、JUNO の指にはめた。

「エンゲージリングは COCO の希望を叶えるから・・・。まだ答えを聞いていないよ。」

「YES、JUNO 愛してる」

JUNO は COCO の頬を掌で包みこみながら唇を重ねる。そして抱き寄せた。

やさしく甘い JUNO のキス。COCO はつま先立ちで彼のキスに応える。

JUNO は COCO を抱き上げ、寝室に向かった。

ドアを開けるとカサブランカが香り、キャンドルの炎が揺れる。

そっと COCO をベッドに。COCO の上にカラダを重ねてやさしいキス。そして囁く。

「今日は特別な夜にしたい。」

COCO は思い切り JUNO を抱きしめた。

「COCO 愛してる。」

JUNO のボディは筋肉の隆起が美しくうねり、最高にセクシー。手を絡ませながらキス。胸の鼓動が激しくなる。熱く激しいキス、そして美しい JUNO の指が COCO のカラダをゆっくりと、リズミカルに刺激する。重ねた唇から COCO の甘い声が漏れて JUNO を熱くする。いくつもの波が押し寄せては引いていく、まさに快楽の波だ。

やがて火照るカラダのまま、JUNO の懷で深い眠りについた。

JUNO は最高に幸せだった。やっと掴んだ COCO の愛。ずっとこのまま抱いていたい。

JUNO が握る COCO の左手にはリングが光っている。まだ甘い余韻が残る COCO のカラダを引き寄せて、強く抱きしめた。

翌朝目が覚めると COCO がすぐ隣で眠っている。夢か・・・。いや現実だ。心もカラダも愛に満ちた朝を迎えた。COCO を起こさないようにシャワーに向かう。

「JUNO だ。今日はこっちでランチも兼ねてミーティングしよう。」

「11時にそっちに向かう。久しぶりに全員が顔を揃えるね。」

「ラップトップを持ってきてね。じゃあ気をつけて。」

朝食の準備はできていた。スタッフに13時にバイキング式ランチをオーダー。

「マルコ、4日後こっちを4名で出発する。迎いのクルマは大型ワゴンで。」

「COCO はどう？」

「バッチリ回復したけど、撮影スケジュールは余裕を持たせてほしい。無理はさせたくないから。」

「了解しているよ。じゃあ飛行機が決まったら連絡待っている。」

寝室に戻って COCO を起こす。額にキス。

「おはよう、COCO. 起きてシャワーを浴びよう。11時にはミーティングでメンバーが集まるから。」

「うーん、おはよう。昨夜はちょっと激し過ぎかも。シャワーを浴びるね。先に食べていてね。」

「激し過ぎて……。大胆に言うな、朝から。原因はCOCOだよ。」

昨夜はずっと夢見てたCOCOとひとつになれた幸せでいっぱいだった。そして夢中で抱いた。

コーヒーを淹れる JUNO に COCO はバックハグ。

「JUNO、これあげる。」

「なに？」

透明なオシャレなボトルに JUNO NO.100 BY COCO

のラベルが。アンバー色の液体が美しい。

「香りの贈り物。愛する人の香りにずっと包まれていたいから、JUNO のオリジナルをオーダーしたの。いかが？」

「スパイシーで樹木香のするムスクだね。」

「わたしはムスク系が好きだから、JUNO にもいいかなって。こっちはわたしのマンデリンムスク。ふたつの香りが絡み合うとさらに魅惑的よ。」

「さっそく今日から愛用する。ありがとう。」

愛する人の香りに包まれたって、どこまでもかわいい。友人としての彼女とはまるで違う、多面性のあるCOCOから抜け出す出口はないな。もっともっと深みにはまりたい。

「COCO、腕をだして。」

JUNO は COCO の左手首に、指輪とお揃いのエメラルド×ダイヤのブレスレットをはめた。

「うわ、素敵。ぐるっと一回り石が輝いている。JUNO のプラチナのブレスとお揃いだね。」

「リングと同じデザインのブレスレット。絶対はずさないで欲しい。モナコでもこれで撮影しよう。ちょっとした話題になるよ。素敵なデザインだから。」

「はずさない。もうはずすほど辛いことは繰り返したくないから。」

まだソウルの傷は癒えていないのかもしれない。

11時に全員集合。

「COCO、だいぶ回復したみたい。元気そうで安心した。」

「心配かけてごめんね。もう復活したよ。皆さんのおかげです。本当にありがとう。」

「また日常に戻るね。それが何よりうれしい。バルセロナにもワクワクしている。」

「まずはモナコの仕事を片付けよう。無事終わったらバルセロナだ。」

「ソウルでの仕事はすべて順調に進んで完成した。仕事先のアーティストはランキングトップ10入り、話題性ともに収益も最高。BRADのおかげで全米のトップ20に入っている。」

「すごいね。もうやり残したことはないね。」

「その通りだよ、COCO。もうソウルはやり尽したから切り替えて行こう。欧州からPVのオファーも多い

のでしばらくはそっちだな。」

メンバーはこれからも COCO に BPM の動画を見せるつもりはない。悪い記憶は早く忘れることだ。

ミーティングが終わり、庭でランチビュッフェだ。多種多様のメニューが並び、スタッフによって取り分けられていく。

「せっかくメンバーが顔を揃えたので話しておくことがある。COCO と結婚する。」

「やったね、いまさら遅いくらいだよ。ふたりは最高のカップルだから、すごくうれしい。みんな喜ぶよ。」

「バルセロナに行く前に式を挙げる。会場はこの近辺の邸宅を借りるつもり。」

「そうだね。仲間だけでも相当集まるから。150名は収容できないと。」

「で、みんなに一任します。会場から演出全てのディレクションを。」

「了解。最高の式にするよ。それカップリング？」

「ブレスレットもお揃いよ。JUNO にもらった。もう2度とはずさない。」

「COCO、JUNO 本当におめでとう。」

JES から贈られたリング、ブレスレットに感激した。いつも眺めて触れていたほど、心から嬉しかった。JES を全身全霊で愛したことは後悔しない。

幸せの絶頂から奈落の底に突き落とされたときにリングもブレスレットもはずした。捨てることはできなかった。奥底にしまった気がする。JES とわたしをつなぐものは何も残さない。

JES の裏切りに、もうしばらくは立ち直れないと思った。ポロポロに崩れて何も聴こえない世界に怯える毎日。ゆっくり焦らずに救い出してくれたのは JUNO だった。恋と愛の違いを知った。もう、JES に思いを残すことはない。時間が経てば忘れられる。もう会うこともないから。

ソウルの JES は COCO を忘れることはできなかった。いまは恋愛なんて言葉も忘れた。COCO さんを想って心を込めて歌えたのに、いまは感情さえ入らない。女性とは遊ぶだけで恋人は作らない。くだらないゴシップばかりが先行する。

「JES、TEMI だ。話があるからオフィスに来てくれないか？」

「はい。お説教は勘弁してね。わかってやっているんだから。」

1 時間後、TEMI のオフィスに JES が入ってきた。

「JES、スキャンダルまみれだな。」

「まじめに付き合うオンナなんていない。」

「相当応えているようだが自業自得だ。わたしにもどうにもできない。COCO さんとはあれだけ素敵なカップルだったのに残念だ。JES をだいぶ成長させてくれた女性だったのに。JES に受けとめる度量がなかったってことだ。」

「COCO さんには JUNO さんがいるし。初めから無理だったんだ。」

「JUNO は相当 JES に嫉妬していたと思う。COCO さんが本気で JES に惚れているのがわかっていたんだ。15年目で諦めるなんてできるわけないと言っていたよ。それなのに JES 自ら手を離れたんだから仕方ないよな。韓流スターで、恋も未熟な JES の一途なアプローチに、あれだけの女性が応えたというのは事実だ。そして幕を閉じたのも JES だ。」

「……誰も忠告してくれなかったからわからなかった。RUDY さんに言われるまで気づかなかった。」

「仕方ない。自分から COCO さんを手離れたんだから。COCO さんは一時聴力を失った。ベッドの動画を偶然見てしまったらしい。2 か月以上療養して PAM の曲を作れるまでに戻ったとか。こちらは訴訟を起こされる寸前、あのダンサーの悪行のせいで。底辺まで落とされた彼女が、再び JES を想うことは決してない。傷が癒えたら今度こそ自力で成長しろ。アーティストとして。」

「あの歌はきつかった、PAM の。」

「あれが JES への COCO さんの最後のメッセージだと思ったよ。彼女は JUNO との幸せを選んだ。バルセロナに移転する前に式を挙げる。わたしも参列するつもりだ。」

「俺への気持ちって本気だったのかな。」

「かなり真剣だった。だからもう 2 度と会うつもりがないんだ。」

「JUNO さん、いいな。」

「JUNO もソウルでの 2 人がうらやましかっただろう。真剣な恋ってわかっていたから。JES の犯した過ちで、やっと COCO さんのすべてを手に入れたから離れることは絶対じゃない。」

「アメリカに行ったら会えるかな。」

「A-MIX はバルセロナだ。BPM とニアミスはないだろうな。諦めろ。」

真剣な恋だったから、もう戻ることはないって俺にはわからない。真剣な恋だったら許してくれると思っていたから。こんな代償は惨すぎる。ひとつの過ちに 100 の未練。まさに俺がそれだ。COCO さんは本当に俺を愛してくれていたとわかるから後悔しかない。

モナコに到着。COCO はホテルで休息。久しぶりの空の旅に疲れた。JUNO、RON、ダニーはマルコと撮影の打合せだ。マルコの計らいなのか、JUNO と COCO はスペシャルスイートだ。

それもハネムーン仕様。

うわーなんか恥ずかしい。部屋中ラブラブだ。COCO はソファでうとうとする。

「マルコ、大胆なラブシーンだな。すごくストーリー性がある構成だ。」

「JUNO、COCO と結婚するんでしょ。式には出席するよ。COCO と JUNO なら納得だよな。」

「ありがとう。15 年かかってやっと手に入れた大切な女性だから。」

「明日の撮影はこっちが熱くなりそうだ。」

「リングとブレスレットはペアだからはずさないでいいよね、監督。」

「結婚式間近の恋人同士なら仕方ないな。撮影小道具と比較にならないほどの逸品だろう。もしかして JUNO のそれって……。」

「そうだよ。COCO のはもっとゴージャスだから。レーシングスーツは何色があるの？」

「JUNO はブラック×シルバー、COCO はブラック×ゴールド。ヘルメット、ブーツにバイクも同じ色に揃えてある。」

「了解。ブレスレットにもマッチするな。」

「ラブシーンは上半身裸だ、問題ないよ。」

夕食はモナコ流フレンチ。海鮮がメインで、本場のフレンチよりさっぱりしている。ビネガーの使い方が実

に上手い。

「マルコ、素敵なお部屋に感謝するよ。」

「JUNO に協力したつもりだけどね。確か COCO は韓流スターの彼がいたんじゃないの？」

「まあ、いろいろあって終わったようだ。だからやっと一緒になれるんだけどね。」

「王道に戻ったってことだよ。愛に意外性はないからな。時には回り道もスパイスさ。今度の撮影はスムーズというか幸せオーラ出まくりな気がする。」

「さあ、どうかな。幸せをお裾分けしたいくらいだ。」

「これが稀代のモテオトコのセリフとは信じ難いな。」

少し遅れて COCO とダニーがテーブルに。JUNO が椅子を引く。

「具合はどう？」

「休んだらお腹が空いて……。ここのモナコ流フレンチははずせない。」

「それは良かった。」

「マルコ、部屋がラブラブなんだけど。」

「当たり前だろう。COCO と JUNO はラブラブなんだから。」

「うれしい。」

「明日の撮影は、サンセットだから午後に集合だよ。今日はゆっくりラブラブを楽しんでね。」

「そうします。ね、JUNO。」

モナコでは西洋系が主流なので、東洋系の彼らの美しさは際立って目立つ。そして COCO の容姿はどストライクだ。バレンシアガの真っ白のセットアップは COCO の涼しげな顔を引き立ててるのか、周囲の男性が視線を送る。

COCO は隣に座るマルコにそっと囁いた。

「マルコ、お薦めの宝飾店ってどこ？」

「お目当ては？」

「エメラルドのピアス。」

「明日はエメラルドに輝く絵になりそうだ。宝飾店が並ぶストリートに、各国にファンを持つ老舗がある。行ってみるといいよ。」

「ありがとう。」

愛の石・エメラルド

食事を終えて COCO はひとりで宝飾店へ。JUNO とメンバーは監督と打合せだ。

重厚な扉がドアマンによって開けられ店内へ。モナコらしくスタイリッシュなカップルでにぎわっている。

「いらっしやいませ。」

「このリングとブレスレットに合うピアスが欲しいの。」

「これは素晴らしいデザインですね。エメラルドは人を選びます。お客様にとってもお似合いです。お相手は審美眼のある方ですね。」

「恋人が贈ってくれました。でピアスも欲しいなと思って。」

「エメラルドは愛の石で、愛が成就すると言われていています。当店はルース（裸石）が基本ですので、ほぼ同じトーンの石をご用意します。デザインのご希望は？」

「あえてエメラルドの一粒で。」

「ほぼ同じ大きさの石がこちらです。コロンビア産で透明度が高く高品質です。」

美しい緑に輝く2粒のエメラルドは、まるで COCO のリングとブレスレットに合わせたようだ。

「これをピアスにしてください。明日できますか？」

「明日の午前中には仕上がります。ホテルにお届けいたします。」

「それではお願いします。」

明日の撮影に間に合う。いままでエメラルドはしたことがなかったのに。そのうちじっくり馴染んでくれるかな。それに愛の石なんて素敵、JUNO らしい。

COCO は、ホテルとルームナンバーを告げ、支払いを済ませて店を出た。

街はすっかり夜の景色。恋人同士がデートを楽しんでいる。JUNO と一緒だったらよかったかな。

ホテルのエントランスに JUNO の姿がある。

「COCO！」

JUNO が駆け寄って COCO を抱きしめた。

「どうしたの？」

「遅いから心配した。携帯は持っていないし、どこかで具合悪くなったのかと。」

「買いたいものがあったから・・・。」

「明日はハードだからカラダを休めないよ。」

ふたりは部屋に戻った。シャワーを浴びた COCO はソファでうたた寝。仕事を終えて JUNO は COCO を抱き上げ寝室に。モナコまでの長旅の疲れに、時差もある。いまの COCO には相当きつかっただろう。COCO を寝かせて、JUNO は COCO を抱き寄せた。

毎日こうやって COCO を抱けるなんて幸せだ。やっと夢がかなったんだ。JUNO の腕枕で眠る COCO の額にそっとキスをする。

「JUNO、おはよう。ねえ、ピアノ弾きたい。」

「ロビー脇のカフェにグランドピアノがあったな。支配人に聞いてみよう。」

「うん。」

10時、ロビー階にピアノの旋律が響く。

クラシックからポップスまで次々とメドレーで弾くCOCO。誰の耳にも心地よい。

宝飾店の支配人がCOCOを訪ねる。

「あちらでピアノを弾いている方がお訪ねの女性です。」

美しい音にしばし酔いしれる。本当に素敵な女性だ。エメラルドがお似合いだ。

するとそこへ東洋系のイケメンJUNOが。

「COCO 好調だね。」

「うん。どうせ誰も聴いていないし気楽よ。」

「周りをごらん。みんな注目だよ。」

素敵な女性にはお似合いの男性が隣に寄り添う。支配人はCOCOの元へ。

「素晴らしい演奏です。昨日はありがとうございました。お品物をお持ちしました。」

「ありがとう。彼とお揃いな。」

「そうでしたか。昨日COCO様からピアスのオーダーをいただきました。」

支配人はケースのふたを開けた。そこには緑色に輝くエメラルドのピアスがあった。

「撮影に間に合わせたの。」

「よくあったね、お揃いの石が・・・。」

「運命の出会いね。支配人、ありがとう。帰国前に立ち寄りますね。」

「おふたりで是非。お待ちしております。」

最後はショパンの別れの曲を弾いて立ち上がると、ブラボーの声次々と・・・。

うれしい一日の始まりだ。

「ピアスだったんだ。贈ったのに自分で買うなんて、気づかなくてごめん。」

「急に思い立ったから。ここまで揃うとかえって嫌味かな。なんか見せびらかしたくなっちゃって。」

「宝飾店ならふたりで行きたかったな。」

「エステサロンを予約したから2時間ほど行ってきます。肌を出すでしょ。」

「他人にCOCOの素肌を見られるのは嫌だな。」

「何言ってるの、撮影でしょ。仕事だから気にならないよ。それにJUNOが他の女性と撮影するのは絶対に嫌だから。」

はあ、本当にかわいい。いまさらながらJESに嫉妬する。COCOとこんな会話をしていたと思うだけで胸が痛む。

夕陽に向かって2台のDOGATTIが走る。従来のモデルより小ぶりで小回りが利く。女性にはうれしい新モデルだ。

夕陽を並んで眺める。JUNOがCOCOを抱きしめる。そしてCOCOの顎を人差し指でそっと持ち上げ、顔

を傾けながら COCO の唇にキス。海面を照らす炎のような夕陽が、2人のシルエットを映し出す。JUNO の KISS はやさしかった。10秒程酔いしれる。

「カット！OK。」

の合図で終わった。カメラを確認すると COCO の顎に添えられた JUNO の手にはリング。

「凄くセクシーでかっこいい。」

「男女どちらが見ても美しいキスシーンだ。話題性抜群、バイクも売れるぞ。JUNO ありがとう。」

「COCO とじゃないとここまでは無理かな。」

「では室内のシーンに入ります。」

シャワーから出てきたバスローブ姿の COCO。JUNO が COCO を抱き寄せ濡れた髪をタオルドライ。タオルから覗く COCO の唇を見つめキスをする。前回よりもずっと艶っぽい。

「今日は最高のシーンが撮れた。明日は朝陽のシーンからだ。遅れないように。JUNO、COCO は最高だ！お疲れ様。」

さすがに COCO は緊張のせいか疲れた様子。

「さあ、COCO、ホテルに戻ろう。RON、クルマ出して。」

「JUNO、お腹空いた。今日は部屋で食べる。」

「そうしよう。」

カーテンからやわらかい朝の陽射し。JUNO に抱かれて眠る COCO。JUNO がカラダを起こして COCO を見つめる。そして熱いキス。手はしっかりと握られている。COCO の指と腕にはエメラルド。JUNO が COCO の髪をかき上げ耳元にもエメラルドが……。ジュエリーのCMのように美しい。話題になるだろう。

JUNO のしなやか指と、逞しい上腕二頭筋、盛り上がる胸筋がセクシー。女性の視線が集中しそうだ。

COCO の左腕が JUNO の首に巻かれ濃厚なキス。いつになくとろけそうな KISS に撮影スタッフは思わず惹きこまれる。

「愛してる」

「わたしも愛してる」

見つめ合う。ムスクの香りが混ざり合っただけに香る。

ふたりのアドリブに監督は興奮！そして OK！

「演技なんて言わせないよ、JUNO。」

「こんなに視線が集中するなか、ふたりだけの世界に入り込めないよ。」

カメラを覗くスタッフは興奮気味だ。

「恥ずかしいからあまりからかわないで。」

「COCO は JUNO に愛されるために生まれてきたみたいだ。」

「愛溢れる映像になったな。編集したらそっちに回すよ。」

「DOGATTI、わたしにしてくれるでしょ。」

「バルセロナに届けるよ。打ち上げは明日。連絡する。」

「今日はチームでワインバーに行こうよ。」

「18時にロビーでね。マルコ、お薦めのお店教えて。」

「俺も行くから18時に。」

仕事なのに、なぜか愛に満ちたりた気分。

JUNO との撮影は初めてではないのにドキドキした。いつもとはまるで違う気持ちに戸惑う。JES といた胸躍る刺激的な毎日とは異なる、ゆったりやさしく包まれる感覚だ。

帰国してから NY で DOGATTI の制作に入る。セクシーな映像にメンバーはドキドキワクワク。

「実際、生の撮影に魅せられたよ。COCO と JUNO がすごく素敵だった。これに PAM の歌を入れて、さらにビジュアル効果を活かして最高の動画ができる。」

「モナコに来てよかった。いつものペースに心もカラダも戻ったみたい。JUNO ありがとうね。」

「仲間と一緒にの撮影だったし、モナコは世界最高のリゾート国だから、COCO は気分転換になったね。いいタイミングだった。」

「撮影は恥ずかしかったけど。ピアスはゲットできたし。今度は休暇でね。」

「そうだね。新婚旅行かな。」

「JUNO、抱いて。わたしは激しいのが好みだから。」 JES に同じこと言ったな、急に思い出した。

JUNO は COCO を抱き上げ寝室へ。そっとベッドに寝かせる。

「まだ2回しか抱いていないから COCO の要望がわからない。これから少しずつ理解するつもり。」

「ジョークよ。ただ言ってみただけ。」

若い JES とそこまでの関係だったのか・・・。どうしたって聞けない。聞けるはずもない。

JUNO は COCO の肩を強くつかみ思い切りキスをした。COCO はそれに応えるように JUNO の腕をしっかりと握った。

DOGATTI のプロモーションビデオが上海、北京を皮切りに台湾、香港、日本、韓国、シンガポールと一斉にアジア圏に配信された。

同日発売の PAM の歌は、各国でビッグセールスとなり、街中に歌と映像が流されている。

恋と愛がキーワードだ。何といても映像が美しい。COCO と JUNO とはつきりわからない演出が神秘的だ。予想通りふたりの指と腕にはめられたエメラルドのリングとブレスレットが話題に。類似デザインがあつという間に出回ることに。DOGATTI にはバイクよりもモデルとジュエリーに関する質問が多く寄せられたが、もちろんノーコメントだ。

SNS では

「また TEAM A-MIX の制作だ。幻想的な映像に PAM の曲が最高のコラボレーション。」

「作詞作曲は COCO！モデルは誰？」

「カップルリング、欲しい！どこのブランドか教えて。」

「愛の石・エメラルド。新しい愛の証だ。」

など連日コメントが溢れている。

「TEMI さん、このモデルは COCO さんと JUNO 氏ですか？」

「さあな。何も聞いていない。この PV は再編して PAM の MV として配信する許可をもらうつもりだ。」

「JES が心配だな。」

「自業自得だ、仕方ない。さすがに諦めるだろう。」

これって JUNO さん？メールでは DOGATTI の PV のことなんて何も教えてくれなかった。リングとブレスレットは撮影小道具だとしても、このラブシーンはさすがにショック。結婚するって噂は本当なのかしら。わたしが SON H が振られたってこと？怖くて聞けない。ドラマの撮影が終わったら NY に行ってみようか。

かっこいいな、相変わらずやるのが。COCO さんはきっと幸せなんだろうな。このシーンを見れば誰だってそう思うよ。どうしてももう一度会いたい。ここまでどん底の俺じゃ到底無理だ。なんとか這い上がって、COCO さんのおかげで成長した俺を見てもらいたい。

「JUNO、DOGATTI は大成功だね。モナコで流したら最高に話題だつて。」

「それは良かった。COCO の曲がいいから。」

「COCO はどう？」

「ほぼ完治した。バルセロナにはいつでも出発できる。」

「了解。来月のウエディングパーティは参列者 150 名、ケイタリングはいつものイタリアン、スパニッシュ、握り寿司、韓国料理、チャイニーズがそれぞれシェフ、サーブともに入る。ビヤガーデン、ワインバーも設置。演奏は参加者がお祝いとして盛り上げる。まあ任せてね。」

「ありがとう。」

「JUNO、BRAD のスタジオに行ってきたでもいいかな。お礼を言いたいし、明日マミーと KEI がジェットで入るらしいから一緒に。」

「ジェットなら安心だね。行っておいでよ。BRAD によろしく。来月パーティで会えるし。宿泊は別荘ですよ。」

「うん、マミーたちと一緒に。」

「BRAD 喜ぶぞ。ライブ演奏させられるかも。覚悟しておいた方がいいよ。」

「はい。」

再会

COCO は冴子と KEI とともにマイアミの別荘に入り、前回の撮影で使った DOGATTI に乗って BRAD のスタジオに向かった。

「BRAD 久しぶり。」

「COCO！マイアミにようこそ。結婚おめでとう、一人？JUNO は一緒？」

「ありがとう、幸せよ。今回は一人、みんな忙しいから。来月パーティで会えるのを楽しみにしているって。」

「いまライブスタジオの録音が終わったところ。COCO、DOGATTI の曲をライブ演奏お願いできるよね。」

「いいけど歌はどうするの？」

「COCO が歌ってよ。」

「ボイストレーニングしてからね。ディナーに期待します。」

「ではピアノがあるスタジオに案内するよ。」

「なんか騙されているみたい。JUNO に言われたとおりよ、演奏頼まれるって。」

「JUNO か、TEMI だ。DOGATTI の PV は凄い話題だな。おかげさまで PAM もベストヒットを更新しているよ。BPM もアメリカで好調だ。」

「それは何より。COCO のおかげだよ。いま BRAD のスタジオに行っているよ。」

「え？マイアミか？」

「そうだけど。」

「BPM がライブに参加するためにマイアミに入っている。」

「え？？？ニアミスありか・・・。」

「COCO さんはとっくに見切っているから問題ないと思うけど。」

「BRAD は COCO と JES の件は知らない。マイアミに向かうよ。なんか胸騒ぎがする。いま会わせたくない。」

JUNO は急いでマイアミに向かった。

「BRAD か、JUNO だ。BPM がそっちに入っているって？」

「うん。」

「COCO は？」

「さっきまで一緒だったけど。多分スタジオでピアノ弾いていると思うよ。生ライブやるから。」

「BPM とニアミスはないよな。」

「わからない。どうして？」

「ボーカルは COCO の元カレだったんだ。」

「え？？？COCO を探してくる。」

「いまからマイアミに向かうから。」

ピアノのあるスタジオってこっちって聞いたけど・・・。声があるから聞いてみよう。

「すみません。ピアノのあるスタジオってどこかしら？」

COCO が固まった。

「JES さん？ どうしてここに？」

「COCO さん・・・こそ。」

ふたりは静止したまましばらくお互いを見つめている。BPM のメンバーも動かない。

JES がいきなり COCO の腕を掴み歩き出した。

COCO は黙ってついていく。JES は録音スタジオに COCO を連れて入った。

「こっちに来てたのね。ヒットおめでとう。わたしもううれしい。まだまだ成長できる。」

「COCO さんがいなければもう無理だ。」

「大丈夫よ。これを機にステップアップしていくから。期待している。わたしの役目は終わった。」

「本当にひどいことを、取り返しのつかないことをしたって十分わかっているけど、COCO さんを諦められない。もう一度チャンスが欲しい。」

COCO はしばらく黙っている。

そしてゆっくり語りかけた。

「わたしはあなたのことが本当に好きだった。それこそ全身全霊で愛した。自分でも驚くくらいにね。毎日が輝いて、あなたを想って歌もどんどん創れたの。だからこそあなたのスキャンダルに脆く崩れた。心が粉々になった。それくらい愛したの。砕け散った欠片はもう不可能くらい修復できない。あなたへの愛が広く深い分、傷も大きく深いものだった。立ち直れたのは、もう何も残らないくらい散り散りに燃え尽きたから。」

「JUNO さんがいたから？」

「周りが何も見えなくて、聴こえなくて、呼吸するのもつらかったとき、やっと薄暗い光が差し始めたの。そして顔を上げたらやさしく包み込むような眼差しがあった。それまで本当に真っ暗闇だったの。長いトンネルだった。あなたへの想いを吹っ切ることができなかったから。わたしが言えることは、それだけあなたを愛したってことよ。いまはあなたとの素晴らしい毎日に感謝している。ありがとう。」

「いまは何も言えないけど。はっきりしたことがある。俺はずっと COCO さんが好きだ。もっと成長するから可能性を残して欲しい、そして期待して欲しい。」

「これからの JES さんを楽しみにしている。」

「いいオトコになって告白するから、絶対に。だから忘れないで欲しい。」

「あなたを心から愛したことは忘れない。」

「どうしてマイアミに？」

「BRAD に直接お礼を言いたかった。いまから生演奏を頼まれているから行きます。少し声出さないと、PAM の代わりに歌うから。」

「俺と歌って欲しい。」

「デュエット？ わかった。今晚はビシッと決めよう。いまから練習ね、久しぶりだから。」

JUNO は夕方にはスタジオに到着する。

COCO と JES は顔を合わせてしまったのか。

ピアノのあるスタジオに BRAD は向かう。扉を開けると美しいハーモニーが。COCO と BPM の JES だ。

「初めてのセッションから行こう。」

「オリジナルのメドレーね。英語バージョンよ。」

BPM のヒットメドレーだ。ピアノだけの伴奏と COCO とのデュオは、まるで違う世界が広がっていく。重なり合うようだ。

そして。DOGATTI の PV、PAM 版だ。BRAD は COCO の上手さに聞き惚れる。それにしても抜群のハーモニーだ。恋人同士だったのがわかる。今日の生演奏はデュエット全曲で行こうと決めた。至急タイムスケジュールの変更に入る。

「COCO、ライブは18時から。ふたりでデュエットをすべてやろう。動画撮影も入れる。」

「JES さんと？」

「凄くいいからやってみようよ。」

「もう少し合わせるね。動画撮影もあるなら、わたしのシーンは遠目で、ふわっと霧がかかるようにしてね。」

「評判は聞いていたけどここまで合うとは。ソウルは大成功だったんだな、COCO。」

「ON も OFF もね。」

JUNO がこっちに飛んでくるのもわかる気がする。あのモテオトコの JUNO があんなに焦るなんて驚きだ。COCO の表情がやわらかく、色っぽく見えるのは俺だけか。

いよいよ本番、ライブ演奏が始まる。BRAD の指示で録音、録画の用意も完璧だ。

BPM ボーカル JES と TEAM A-MIX の COCO によるラジオライブ演奏だ。

ふたりが初めて演奏した BPM のメドレー。いまや BPM のアルバムのヒットで、アメリカでも知られているオリジナルを、JES のソロと COCO のピアノ演奏だけで4曲のメドレーになっている。音域が広い魅力的な JES の声に、最上級のテクニックを誇る COCO の奏でる旋律。聴衆に響くこと間違いなしだ。さっそくネット上に次々と書き込まれていく。

「最高！なんて素晴らしいんだ。アルバムにするべきだ。」

「さすが BRAD。最高のコラボ実現だ。」

「アジアンミックス恐るべし。」

いよいよ MY TRUE LOVE COCO&JES バージョンだ。

切ない歌詞と曲が流れ出す。

BRAD は気付いた。恋が JES で、愛が JUNO だ。このふたりは濃密な恋人関係を過ごしたんだな。

初めて切なくつらく、泣ける歌だったんだとわかった。

JES と COCO のライブ演奏の反響は凄かった。

ふたりをガラス越しに見つめる JUNO がいた。

「JUNO 早かったな。素晴らしい演奏だ。」

「.....」

美しく重なり合うハーモニーが終わった。JESはCOCOをいきなり抱きしめてキスをする。COCOは抗って見たが、さらに強く抱きしめられた。息ができないほどのディープキス。COCOはJESのキスに応えた。JUNOはそのまま立ち尽くす。

「JUNO、あのキスはまさに慈愛だな。恋が始まり、恋が実り、そして終わるときに女性が最高に美しく輝く。あれはまさに慈しみの心だ。」
確かにそうかもしれない。JUNOはじっとふたりの姿を見ていた。

JESはCOCOと思いがけない再会をして、偶然にデュエット出演して、そしてキス……。しっかりとJESにCOCOが刻まれた。絶対に諦めることはないだろう。最後にきてかなりの衝撃だから……。絶対にCOCOは離さない。

俺はこれからずっと誰かとキスをするたびに辛くなる。こんな素敵なキスはCOCOさんとしかできない。ずっと忘れられない。絶対にまた一緒になると決めた。

JUNOとBRADともう一人、COCOの兄KEIがこのキスシーンを目撃した。
なんでJUNOが？どうしてJESとCOCOがここにいる？そしてこのラブシーンはなんだ？偶然過ぎるだろう。

「ではJESさん、頑張っただね。今日はありがとう。楽しかった。」

「……。また会ってくれる？」

「機会があれば……。」

「電話番号はそのままだから。」

COCOはスタジオから出る。

「JUNO、どうしたの？あら、KEIも。偶然BPMと会って即興でJESとデュエット生演奏。なかなか良かったでしょ？BRADのおかげかな。今日はBRADのおごりよ。JUNO、KEI、行こう。」

「COCO、19時半にいつものイタリアンで。」

「了解。とりあえず別荘に入る。KEI、JUNOとわたしを送って。DOGATTIは停めていくから。」

COCOのJESとの再会は偶然なのか。こちらにBPMが来ているのは、SNSでいくらでも知ることができる。偶然の再会に愛のセッション、そして別れのキス。JESはこれからCOCOとの思い出に相当苦しむことになる。そしてJESがマイアミにいることはBRADに聞けばすぐにわかるし、COCOを心配してJUNOが連絡することは誰の目にも明らか。もちろんすぐに飛んでくることも。JESのことで刺激されて、益々JUNOは最愛のCOCOを大切にするだろう。これってCOCOの描くストーリーかもしれない。そうだとしたらオンナは恐ろしい。それが妹ならなおさらだ。JUNOとの結婚も決まったことだしあまり深く考えないことだ。

別荘に戻りディナーの約束までCOCOとJUNOはサンルームでまったりくつろぐ。冴子は庭で、KEIはり

ビングでそれぞれ来客だ。

「COCO、JES と久しぶりのセッションはどうだった？」

「うーん、感性は合うかな。いきなり本番でもスムーズに演奏できる。」

「そっか。」

「JUNO とは最上級だから、気にすることないと思うけど。マイアミ滞在中に生ライブしようか・・・。」

「賛成。練習しよう。BRAD にはディナーのときに相談するよ。」

「COCO、結婚式の衣装はどうする？撮影でお世話になったブランドからは是非着てほしいと連絡があったけど。」

「それでいいよ。白は年齢的に厳しいから断ってね。JUNO は白が素敵かな。」

「え？お揃いじゃないの？」

「あとでショップに行く。つきあって。」

「COCO は結婚式を楽しみにしている？」

「もちろん。人生でたった一度だもん。」

「そう願いたい。」

「JUNO だからずっと一緒にいたい。JUNO じゃないとダメ。ずっと愛して裏切らないで。」

「全身全霊で誓います。だから COCO はよそ見をしないで欲しい。」

ハンプトンでは COCO と JUNO のウエディングパーティの準備が粛々と進められ、数日後には静かな街が招待客でにぎわう。

そしてバルセロナへ出発だ。

SNS で JUNO と COCO のウエディングパーティが流れる。最高にかっこいい仲間がお祝いに駆け付ける映像はまるで映画だ。

JES は動じることなくその映像を眺める。

深く大きい傷が癒されていく。COCO さんと再会し、即興の演奏で自信が蘇ってくるようだ。やっぱり COCO さんは俺の隣が指定席だと確信した。これから成長する俺を見て欲しい。惚れ直して欲しい。そして燃え尽きるまで一緒にいると決めた。

JES との再会に久しぶりにときめいた。会って自分の気持ちを確認できたかった。いまの彼とはとても幸せになれない。

熱く激しい恋はしばらくいいかも。愛に翻弄されるより、思い切り愛されていたいから・・・。

もっと JES が成長したらまた会いたい。そのときは燃え尽きるまで一緒にいるかも。

数日後にバルセロナでの生活が始まる。

読者が選ぶ、推しフレーズ

読者イチ推しの胸キュンなシーン、極甘フレーズをセレクトしました。

JES が惚れるのも無理ないよね。才能は人を惹きつける。
彼女のピアノで歌ったら俺だって一瞬で惚れる。

ありがとう。韓流スターにこんなこと言ってもらえるなんて最高よ。とてもうれしい。いつもそばにいて、
触れられる。好きだって言われたい。そして時間と記憶を共有するのが恋人だと思う。

俺は恋をする前に失恋するってことになる。そんなの絶対に嫌だ。恋にはきつといろんな形があるし、始め
る前から諦めたくない。それに遠距離の年下だから付き合えないなんて法律はないでしょ。

JES さん、あなたはいきなりわたしの前に現れて、やさしくしてくれる。
もしわたしが好きになってもきつと突然消えてしまう。それが怖い。
人を好きになるって勇気が必要でしょ。わたしには経験がないの。

若いってうらやましい。年齢は平等に重ねていくのにタイミングが悪すぎる。何でいまなんだろう、
なんで彼なんだろうって。いままで考えたこともなかったのに。

愛はなくなる。時間や距離で消えるのではなく、形が変わっていくだけ。
水のようにどんな器に入れても水であることに変わらない。
少し形が変わるだけで初めての気持ちはなくなるのよ。

恋は激しく 愛はやさしい
恋は熱く 愛は温かい
恋は激しく燃えて 愛はやさしく包み込む
恋に悩み 愛に癒される
恋に泣いて 愛を知る

JUNO は全身が熱くなった。最愛の女性からの愛の言葉に感激し、彼女とのキスに最高の幸せを感じた。
COCO を抱きたい気持ちがどっと押し寄せてくる。彼女は俺の最愛の人だ。

COCO は心臓の鼓動が速く、全身が愛する気持ちで溢れるようだ。もっと JUNO に抱きしめられたい。ふた
りの愛は、長い年月と記憶によって育まれてきた揺ぎ無い愛だと確信した。

ひとつの過ちに100の未練

真剣な恋だったから、もう戻ることはないって俺にはわからない。真剣な恋だったら許してくれると思って
いたから。こんな代償は惨すぎる。

ひとつの過ちに100の未練。まさに俺がそれだ。

本当に俺を愛してくれていたとわかるから後悔しかない。

わたしはあなたのことが本当に好きだった。それこそ全身全霊で愛した。自分でも驚くくらいにね。

毎日が輝いて、あなたを想って歌もどンドン創れたの。

だからこそあなたのスキャンダルに脆く崩れた。心が粉々になった。それくらい愛したの。

砕け散った欠片はもう不可能くらい修復できない。

あなたへの愛が広く深い分、傷も大きく深いものだった。

立ち直れたのは、もう何も残らないくらい散り散りに燃え尽きたから。

あのキスはまさに慈愛だな。恋が始まり、恋が実り、そして終わるときに女性が最高に美しく輝く。

あれはまさに慈しみの心だ。